

第5号議案

2020年度に中学校において使用する教科用図書（特別の教科 道徳を除く）の採択の適正を図るため、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第8条に定める採択基準と選定に必要な資料について

2020年度に中学校において使用する教科用図書（特別の教科 道徳を除く）の採択の適正を図るため、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第8条に定める採択基準と選定に必要な資料について、次のとおり定める。

令和元年5月14日

滋賀県教育委員会

2020年度に中学校において使用する教科用図書（特別の教科 道徳を除く）の採択基準と選定に必要な資料について

1 採択基準について

- (1) 義務教育諸学校で使用する教科用図書（特別の教科 道徳を除く）（以下「教科書」という。）の採択は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」の規定に基づいて適正に実施すること。
- (2) 採択にあたっては、平成31年3月29日付け30文科初第1853号「教科書採択における公正確保の徹底等について（通知）」、平成31年3月29日付け30文科初第1854号「教科書採択の公正確保について（通知）」および平成31年3月29日付け30初教科第33号「2020年度（新元号2年度）使用教科書の採択事務処理について（通知）」に基づき、専門的な教科書研究の充実を図るとともに、適正かつ公正な採択および開かれた採択を確保すること。
- (3) 2020年度に中学校において使用する教科書の採択にあたっては、県教育委員会の示す「選定に必要な資料」を十分活用すること。
- (4) 特別支援学級において使用する教科書の採択にあたっては、以下のとおりとすること。
 - ① 2020年度に特別支援学級において使用する教科書の採択にあたっては、県教育委員会の示す「選定に必要な資料」を十分活用すること。
 - ② 生徒の障害の種別および程度を十分考慮し、採択すること。

2 選定に必要な資料について

- (1) 通常の学級については、次のとおりとすること。
 - ① 2019年度は、学習指導要領に基づき編集された2020年度使用の中学校教科書を新たに採択する年度である。しかしながら、平成29年3月に新学習指導要領が告示されて2021年度から全面実施されることから、今回の採択は2020年度のみ使用となる。
また、2020年度使用の中学校教科書については、新たに文部科学大臣の検定を経たものはないことから、平成27年度に作成した「中学校教科用図書選定に必要な資料」を参考とすること。

② 上記のことから2019年度の教科用図書専門調査員は置かないこととする。

③ 選定に必要な資料は、以下のとおりとする。

「中学校教科用図書選定に必要な資料（平成27年度作成）－中学校－」

(2) 特別支援学級については、次のとおりとすること。

① 特別支援学級が使用している文部科学省検定教科書に関しても、新たに文部大臣の検定を受けたものはなく、また、文部科学省著作教科書についても新たに出版されたものがないことから、「中学校特別支援学級教科用図書選定に必要な資料（平成27年度作成）－中学校特別支援学級－」を参考とすること。

② その他については、通常の学級と同じ扱いとする。

③ 選定に必要な資料は、以下のとおりとする。

- ・「中学校特別支援学級教科用図書選定に必要な資料（平成27年度作成）－中学校特別支援学級－」

- ・「平成32年（新元号2年）度用一般図書一覧」（文部科学省）

— 中 学 校 —

「選定に必要な資料」の活用について

国語	1
書写	10
社会（地理的分野）	19
社会（歴史的分野）	27
社会（公民的分野）	39
地図	50
数学	56
理科	67
音楽（一般）	76
音楽（器楽合奏）	82
美術	88
保健体育	95
技術・家庭（技術分野）	103
技術・家庭（家庭分野）	110
英語	117

- 「選定に必要な資料」は、いずれの種目（教科）においても、次の4つから構成されている。
- ① 観 点 の 内 容：「観点」「観点のための研究調査事項」「指導についての留意事項」を示したもの
 - ② 調 査 方 法：調査した内容やカウントした項目について説明したもの
 - ③ 調 査 結 果：「観点のための研究調査事項」について数値等を入れて示したもの
 - ④ 選 定 の た め の
調 査 の ま と め：各発行者の特長を総合的に文章表記したもの

中学校教科用図書「選定に必要な資料」の活用について

滋賀県教育委員会

1 「選定に必要な資料」作成にあたっての基本的な考え方

- (1) 「選定に必要な資料」を作成するにあたっては、文部科学省の指導通知に基づき、各採択権者において、より参考となるよう内容の一層の工夫・充実を図った。
- (2) 研究調査については、種目（教科）ごとに学習指導要領に示された目標を達成するための観点を中心として、「観点」「観点のための研究調査事項」「指導についての留意事項」を設定し、客観性を重視した。
- (3) 「観点のための研究調査事項」については、種目（教科）ごとに内容の有無や数値で示した「調査結果」を作成した。
- (4) 「選定のための調査のまとめ」については、「調査結果」を基に種目（教科）ごとに各発行者の特長を総合的に文章表記した。

2 「選定に必要な資料」活用にあたっての留意事項

- (1) 「選定のための調査のまとめ」を熟読し、調査研究に活用すること。
- (2) 「調査結果」の数値のみに注目することなく、総合的に研究調査をすること。
 - ① 「調査結果」は、「数値が高ければよい、数値が低ければ悪い」という形式的な見方をしないこと。
 - ② 「調査結果」の数値と併せて、教科書での取扱い・取り上げ方についても、十分調査研究をすること。
- (3) 「観点のための研究調査事項」については、「指導についての留意事項」で示した内容をふまえて研究調査に活用すること。
- (4) 「調査方法」については、種目（教科）ごとに示しているので、「調査結果」を見る際の参考にすること。

国語

東京書籍

学校図書

三省堂

教育出版社

光村図書

観点の内容 国語

国語 目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

観点 (「学ぶ力」向上にかかわるポイント)	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くことの教材や学習活動 ・書くことの教材や学習活動 ・読むことの教材や学習活動 ・伝統的な言語文化に関する教材や学習活動 ・国語の特質に関する教材や学習活動 ・学習指導要領の「言語活動例」に関わる内容 	<p>話すこと・聞くことの指導に相当する時間は、第1学年および第2学年では年間15～25単位時間程度、第3学年では10～20単位時間程度、書くことの指導に相当する時間は、第1学年および第2学年では年間30～40単位時間程度、第3学年では20～30単位時間程度であることに留意する。</p> <p>各学年の指導事項に応じて、年間を通じて言語能力を意図的・計画的に育成することに留意する。</p> <p>教科書に掲載している教材・資料は、言語文化に対する関心を高めたり、理解を助けたり、言語活動を活性化したりすることに留意する。</p> <p>社会生活に生きて働くよう、生徒が言語の主體的な使い手として、相手、目的や意図、多様な場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりする力を高めることに留意する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の設定の仕方や内容 ・単元末、巻末の学習資料の内容 ・発展的な学習課題の設定 	<p>教科書に掲載している教材・資料は、言語文化に対する関心を高めたり、理解を助けたり、言語活動を活性化したりすることに留意する。</p> <p>社会生活に生きて働くよう、生徒が言語の主體的な使い手として、相手、目的や意図、多様な場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりする力を高めることに留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・教材や学習活動に関連して紹介されている図書の数 ・目的に応じた読書への誘いを内容とする学習課題 ・参考図書として示している図書の数 ・読書案内や図書館の利用、資料検索についての解説 ・日常生活や社会生活に関わる課題を位置付けた単元構成 	<p>目的に応じて、複数の本や文章を選んで読むなどの学習活動を通して生徒の読書意欲を高め、日常的に読書に親む態度を養うことに留意するとともに、学校図書館の機能などを計画的に利用・活用できるように留意する。</p> <p>日常生活や社会生活に関わることなどについて、意欲的に考えをまとめたり深めたりできるような単元構成になっていることに留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の方法についての解説 ・学習を生かした家庭学習の設定 	<p>国語科は、第1学年が140単位時間、第2学年が140単位時間、第3学年が105単位時間の授業時間で学習を進めることから、それを補充、深化、統合するよう家庭学習が設定され、生徒が主体的に家庭学習を進められるよう留意する。</p>
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや課題設定の仕方 ・学習の見通しや学習方法の示し方 ・振り返りの設定の仕方 	<p>ねらいや課題を明確にし、見通しをもって学習するとともに振り返りを通して自らの課題や目標を確認することで、主体的に学習することができるよう留意する。</p>

調査方法

種目名【 国語 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域等の指導事項を身に付けさせるために必要な教材・学習活動・学習課題について取り上げられている箇所数を調べた。 ・学習指導要領の「言語活動例」に関わる内容が網羅されて取り上げられているかについて調べた。
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決的な言語活動を、単元を貫いて位置付けているかどうかについて調べた。 ・単元末、巻末の学習資料の内容が、基礎的・基本的な知識・技能を活用して、主体的に学習を進めたり、言語活動を通して思考力・判断力・表現力を高めたりするような内容になっているかについて調べた。 ・発展的な学習課題が設定されている箇所数を調べた。
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・教材や学習活動に関連して紹介されている図書の数や「〇〇のために～を読んでみよう」など、読書への誘いを内容とする学習課題について箇所数を調べた。 ・参考図書として示している図書の数、読書案内や図書館の利用、資料検索について解説を行っている箇所数を調べた。 ・日常生活や社会生活に関わることなどについて課題を設定しているかなど、生徒の関心・意欲を引き出すような単元構成になっているかについて調べた。
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的な家庭学習につながるよう家庭学習の方法を解説している箇所数を調べた。 ・これまでに学習したことを生かして、自主的な学習が進められるよう家庭学習が設定されているかどうかについて調べた。
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや課題設定の仕方、見通しや学習方法の示し方、振り返りの設定の仕方について調べた。 ・学習を深め、今後の学習に生かせるよう、主体的に進める学習の姿が示されているかどうかについて調べた。

国語

観点	A 基礎的・基本的な知識・技能						B 思考力・判断力・表現力			C 学習意欲						D 家庭学習につながる学習		E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習		
	話すこと・聞くこと の教材や学習活動	書くこと の教材や学習活動	読むこと の教材や学習活動	伝統的な 言語文化に関する 教材や学習活動	国語の 特質に関する 教材や学習活動	学習指導要領の「 言語活動例」に関 わる内容	言語活動 の設定の仕方 や内容	単元末、 巻末の学習 資料の内容	発展的な 学習課題の 設定	教材や学習 活動に関連 して紹介され ている図書 の数	目的に応じ た読書への 誘いを内容 とする学習 課題	参考図書 として示し ている図書 の数	読書案内 や図書館の 利用、資料 検索につい ての解説	日常生活 や社会生活 に関わる課 題を位置付 けた単元構 成	家庭学習 の方法につ いての解説	学習を生か した家庭学 習の設定	学習のねら いや課題設 定の仕方	学習の見通 しや学習方 法の示し方	振り返りの 設定の仕方	
研究調査事項 発行者名	1年生	5	8	16	4	12	○	○	○	12	15	1	94	7	○	12	○	○	○	○
	2年生	4	8	17	3	11	○	○	○	13	14	1	94	5	○	12	○	○	○	○
	3年生	5	6	17	3	11	○	○	○	11	11	2	90	6	○	12	○	○	○	○
	合計	14	22	50	10	34	△	△	△	36	40	4	278	18	△	36	△	△	△	△
東京書籍	1年生	5	8	16	4	12	○	○	○	12	15	1	94	7	○	12	○	○	○	○
	2年生	4	8	17	3	11	○	○	○	13	14	1	94	5	○	12	○	○	○	○
	3年生	5	6	17	3	11	○	○	○	11	11	2	90	6	○	12	○	○	○	○
	合計	14	22	50	10	34	△	△	△	36	40	4	278	18	△	36	△	△	△	△
学校図書	1年生	4	4	19	5	13	○	○	○	4	23	0	35	1	○	4	○	○	○	○
	2年生	4	4	21	5	12	○	○	○	4	23	0	30	1	○	8	○	○	○	○
	3年生	5	4	18	7	11	○	○	○	4	21	0	26	1	○	8	○	○	○	○
	合計	13	12	58	17	36	△	△	△	12	67	0	91	3	△	20	△	△	△	△
三省堂	1年生	5	6	11	3	18	○	○	○	9	41	1	93	3	○	10	○	○	○	○
	2年生	4	5	11	3	16	○	○	○	7	43	1	98	4	○	6	○	○	○	○
	3年生	5	4	11	3	13	○	○	○	10	44	1	96	3	○	6	○	○	○	○
	合計	14	15	33	9	47	△	△	△	26	128	3	287	10	△	22	△	△	△	△
教育出版	1年生	5	6	14	3	9	○	○	○	4	46	1	88	5	○	6	○	○	○	○
	2年生	4	5	13	3	11	○	○	○	7	39	0	82	5	○	6	○	○	○	○
	3年生	5	5	15	4	11	○	○	○	3	42	1	106	7	○	6	○	○	○	○
	合計	14	16	42	10	31	△	△	△	14	127	2	276	17	△	18	△	△	△	△
光村図書	1年生	6	9	20	4	19	○	○	○	4	27	2	81	4	○	2	○	○	○	○
	2年生	5	9	22	5	20	○	○	○	3	28	2	82	2	○	1	○	○	○	○
	3年生	5	7	21	5	15	○	○	○	4	24	3	78	3	○	1	○	○	○	○
	合計	16	25	63	14	54	△	△	△	11	79	7	241	9	△	4	△	△	△	△

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	国語	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの領域に関して、それぞれの教材で身に付けたい知識・技能のポイントが「言葉の力」として巻末に整理され、3年間の系統性が明確に示されている。 ・話すこと・聞くこと、書くことについては、本教材の前の準備教材や巻末の資料と関連付けて学習の充実を図る工夫がされている。また、書くことの教材が豊富である。 ・1年生の古典学習の導入の際に、3年間で学習する古典作品が紹介されており、見通しがもてるように工夫されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの扉」では、日常生活の場面が課題として設定されており、直前の読むことの教材で学んだ「言葉の力」が身に付いているか確かめることができる。 ・「広がる言葉」で、教材の中に出てきた表現を日常生活で使う課題設定がされており、語彙を増やし、表現する力を伸ばすよう工夫されている。 ・「てびき」には、教材に関連した別課題を設定したものもあり、発展課題としてさまざまな言語活動に取り組めるよう工夫されている。巻末の資料にも、発展課題が掲載されており、「言葉の力」を繰り返し鍛える工夫がなされている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書カードを作ろう」「本の広告カードを作ろう」といった活動を通して、目的に応じた読書ができるよう工夫されている。 ・教科書で読んだ作品をきっかけにして、さまざまな本に興味をもてるよう「戦争・平和」「科学・歴史」等テーマ別に作品を示すなど、読書案内の仕方が工夫されている。 ・合唱祭や運動会等、学校行事の案内文や職場体験学習、委員会活動の場面を想定した活動を例示して、学習が日常生活と結び付き、活用できるということを意識できるよう工夫されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の折り込みに学習の進め方が示され、家庭での学習が可能な内容にはマークが付けられている。また、巻末の「学びを支える言葉の力」では、目的に応じた学習方法が示されており、自主的な家庭学習を促すよう工夫されている。 ・「学びの扉」という教材で、それまでに学習したことを生かして考えられる課題が示されている。よく似た課題に繰り返し取り組むことで学んだことを定着させることができ、家庭学習に適している。 ・読むことの教材の終わりには「てびき」が設けられ、「広がる言葉」では、語彙を増やすための練習問題が設定されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「てびき」で、目標に沿った具体的な課題が示されている点が、主体的に学習を進めるために有効である。「言葉の力」の囲みを設けて、身に付けたい知識・技能のポイントを示しているところがわかりやすく、目的をもって学習を進める上でのヒントになっている。 ・巻頭の折り込みで、ねらいや学習の進め方が示されており、学習に見通しをもつことができる。 ・話すこと・聞くこと、書くことの教材には「学習を振り返ろう」という部分が設けられているものもあり、学習の最後に、目標に照らして自己評価が行えるよう工夫されている。 		

種目名	国語	発行者名	学校図書株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くこと、書くことの教材については本教材の前に準備教材「活動を考える」が配置されており、教材配置や課題の設定に工夫が見られる。 ・読むことについての教材が多く、伝統的な言語文化についての教材も多い。つながりを意識した教材配置がされており、古典の世界に親しみやすい工夫がされている。 ・各単元に「漢字を見抜く」(1年)、「語を見抜く」(2年)、「文字を見抜く」(3年)という学習活動が設定されており、国語の特質に関する事項について、紙面を豊富に使い、学習への関心・意欲を高める工夫がされている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「活動を考える」という、読むことの教材と表現するための教材をつなぐコラムがあり、課題解決的な言語活動を設定できるよう工夫されている。 ・読むことの教材の「学びの窓」には、同じ作者の別作品や、同じテーマの文章が掲載されているものもあり、複数の文章を比較して読み、考えを深めることができるよう工夫されている。 ・過去に学んだ教材を、新たな教材で学んだ別の視点で読み解く課題設定があり、段階的に読みを深めることができるよう工夫されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読むことの教材の最後にある「読書に広げるために」では、同じ著者の作品や教材と関連のある作品が紹介されており、主体的な読書につながるよう工夫されている。 ・各学年に2箇所設けられている「読書」の単元のうち「読書案内」では、教科書の作品をきっかけにして、興味・関心を広げて本を選ぶ方法を示しており、主体的な読書を進めるための手立てとして有効である。 ・プレゼンテーションの方法を、職場体験を取り上げて具体的に例示するなど、日常生活と結び付けて学習できるよう工夫されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読むことの教材ごとに「学びの窓」が設けられ、教材に関連した課題が設定されている。その中の「読む前に」には、予習として家庭で学習できるよう設定されているものもある。 ・各単元には、言語の学習として「漢字を見抜く」(1年)、「語を見抜く」(2年)、「文字を見抜く」(3年)が設定されている。学習後に練習問題が設けられていて、家庭での復習に適している。 ・巻末には文法についてまとめられた「文法の学習」、語句と語彙についてまとめられた「語句・語彙の学習」があり、家庭での復習に利用できる。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶねらいを意識できるように、教材冒頭に学習目標が明示されている。 ・読むことの教材のあとには、「学びの窓」として学習のてびきがあり、スペースを豊富にとっている。教材によっては書き込み欄を設けており、活用しやすい。 ・学習のてびきの最後には「ついた力を確かめよう」として、付けた力の観点別に振り返りの一覧を細かく示しており、自己評価することができる。また、話すこと・聞くこと、書くことの教材では、活動の終わりに振り返りの話し合いを設定しているものもあり、身に付けた力を生徒相互で確認できるように工夫されている。 		

種目名	国語	発行者名	株式会社 三省堂
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教材や学習活動が厳選されており、各教材の「つきたい力」が巻頭の一覧表で明確に示されている。 読むことの教材の「読み方を学ぼう」や話すこと・聞くこと、書くことの教材の「ポイント」でつきたい力に応じた学習の方法が具体的に示されており、指導事項を意識しやすい構成になっている。 話すこと・聞くことの「討論ゲーム」「即興劇」等、興味・関心を喚起するような学習活動の工夫が見られる。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 読むことの「学びの道しるべ」の中に設けられた「学びを広げよう」では、教材を使った朗読会や寸劇など、多様な言語活動が示されており、課題解決的な言語活動を設定した学習が進めやすい。 資料編の「考える広場」は、読み解く視点を選択させて個別に課題に取り組ませるよう設定されており、主体的に考え、学ぶことができる工夫がされている。 話すこと・聞くこと、書くことの「やってみよう」では、身に付けた表現方法を日常生活で活用する課題が設定されている。読むことの「読み方を学ぼう」では、直前の教材を例に読み方を図解し、別の作品を読む際に活用できるよう工夫されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教材と関連のある本、読書生活を広げる本を多様な観点から紹介していることに加え、資料編「読書の広場」ではテーマごとに各学年48冊、3年間で144冊の本が紹介されている。また、「読書郵便」（1年）や「ブックトーク」（3年）などの多様な読書活動が設定されており、読書に親しむ工夫がされている。 各学年資料編に情報探しのヒントとして「インターネット検索」「図書検索」などの方法が、さまざまな場面で活用できるようにまとめられている。 話すこと・聞くこと、書くことの「学習を振り返る」では、身に付けたことを他教科や日常・社会生活で生かせるよう具体的に示しており、活用場面が想起しやすい。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料編の「考える広場」では、学習で生かせるさまざまな考え方や方法が解説されており、自主的な学習に取り組めるよう構成されている。 単元の最後に「漢字を身につけよう」という練習問題が設定されており、宿題等で活用しやすい。文法の学習内容をまとめた「文法のまとめ」が設けられていて、練習問題が設定されており、復習に活用できる。 資料編の「参考資料」には、本文に出てきた学習用語がまとめられており、家庭学習の際に、調べたり考えたりする手立てとして活用できる。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> すべての教材の冒頭に学習目標を明示し、最後には学習を振り返る機会を設けることで、身に付けた力を自分で評価し、次に生かせるよう設定されている。 読むことの教材の終わりには「学びの道しるべ」という学習のてびきを設け、見通しをもち、焦点を絞って学習が進められるように工夫されている。 国語の特質に関する学習では「確かめよう」の欄を設けて、学習した内容を振り返ることができるようにしている。話すこと・聞くこと、書くことの学習の終わりには、学んだことや気付いたことをノートにメモすることで振り返りができるようにしている。 		

種目名	国語	発行者名	教育出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くこと、書くことの領域では、各教材の冒頭に「学びの重点」が明示され、活動の流れに沿って学べるよう工夫されている。 ・読むことの領域においては、文学的文章、説明的文章に加え、「読書・メディア」の教材が設定され、目的に応じて読み、必要な情報を集めることが重点的に指導できるよう工夫されている。 ・どの領域についても、巻頭の一覧表で教材の学習内容の重点や言語活動を明確に示しており、教材ごとに身に付ける基礎的・基本的な知識・技能が何であるかが意識できるよう工夫されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読むことの教材として、説明的文章を続けて配列するなど課題解決的な言語活動を設定しやすい配列になっている。 ・巻末には、5～6点の文章と、古典教材や郷土と文学に関わる資料を掲載している。 ・教材のテーマと関連させ、自分の考えを書かせる発展課題を多く設定しており、思考力や表現力を伸ばすための工夫がある。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読むことの教材の最後に設けられている「読んでみよう」では、教材と関連する本が紹介文を添えて多数掲載されており、読書意欲を高めたり、目的に応じて複数の本を読んだりすることができるよう工夫されている。 ・代表的な近代作家が各学年1人ずつ取り上げられ、紹介されている。作品の内容をとらえ、作家について知ること、学習に対する興味・関心が高められるよう工夫されている。 ・話すこと・聞くこと、書くことの教材のあとに「学びを生かそう」という項目を設け、学校生活や地域の活動等、日常生活のどのような場面で学習を役立てることができるのか意識できるよう構成されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末の「学びのチャレンジ」に、学んだことを生かして、思考力・判断力・表現力を高めるための問題が設けられている。教科書本編での学習を振り返り、それを踏まえさらに学習を進める方法が解説されている。 ・読むことの教材の最後には、学習の進め方や重点を示した「みちしるべ」が設けられていて、家庭学習で活用することができる。また、学んだことを生かして体験文や意見文を書く課題が設定されている。 ・漢字の学習として、「漢字の広場」「漢字の練習」に練習問題が設けられているので、宿題や復習で活用しやすい。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材のはじめに学習目標を明示し、目標を意識して学習を進められるようにしている。 ・読むことの教材の終わりには「みちしるべ」として学習のてびきを設け、「確かめよう」「深めよう」「考えよう」等、段階を踏んで学習が進められるように示されている。また、「ここが大事」の欄では、学習のポイントを示しており、理解を深められるようにしている。 ・「目標と振り返り」の欄では、学習目標を明示するとともに、自分で確認できるようにチェック欄を設けて振り返りが行えるようになっている。 		

種目名	国語	発行者名	光村図書出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各教材で身に付ける力、学習のポイントが明確に示されている。 各領域とも教材数が豊富である。特に、読むことの教材が多い。また、国語の特質に関する教材や学習活動も充実しており、漢字や言葉の習得に力が入られている。 各領域とも、学習指導要領の「言語活動例」を十分に踏まえた言語活動が設定されている。特に話すこと・聞くこと、書くことでは、学習の流れが明確に示されており、学習内容を習得させるために丁寧な指導ができるよう工夫されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 比べて読むことができるように教材を並べたり、話し合ったあとに自分の意見を書くことができるように教材を並べたりと、課題解決的な言語活動が設定しやすい配列になっている。 読むことの「言葉を広げる」には、学んだことに関連する表現を集める課題設定がされており、語彙を増やすのに有効である。資料編には、目的に応じて比べながら読むことができるように、複数の文章が掲載されている。 読むことの学習の発展課題として、学習したことを生かして自分の考えを書く課題が設定されているところがある。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 読書に関する単元が設けられ、読書をテーマにした著名人のメッセージが掲載されていたり、下級生に薦めたい本を選んで作成する「読書案内」等の活動が紹介されていたり、読書へ誘う工夫がされている。 「読書案内」では、興味・関心に応じて読書を広げることができるように、内容紹介とともに多数の図書が掲載されている。読み終えた本にチェックを入れる欄が設けられており、主体的な読書につながる工夫がある。 話すこと・聞くこと、書くことの教材の「次へつなげよう」に「生活に生かす」「他教科に生かす」といった項目を設け、日常生活と結び付けて学習をとらえられるよう工夫されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の導入として「続けてみよう」という教材があり、出会った本や印象に残った言葉などを書き留めていく方法が解説されており、継続して取り組むことができる課題となっている。 単元の中に「漢字を確認しよう」というページが設けられ、巻末には小学校で学習した漢字の練習問題が設けられている。文法や語句についての単元には多くの練習問題が設けられ、宿題や復習で活用しやすい。 巻末の折り込みには文章読解のための学習用語がまとめられていて、家庭での復習に利用できる。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> どんな力を身に付けていくのか見通し、主体的に学習に取り組めるよう、巻頭に「学習の見通しをもとう」を設けている。 教材のはじめと終わりに目標を明示するとともに、読むことの教材の終わりには「学習」として学習のてびきを設け、段階を踏んで学習が進められるよう工夫されている。また「学習の窓」では身に付けたい力のポイントが示されている。 「学習を振り返る」の欄では学習の振り返りの内容を明示したり、理解したことを確かめる問題が設定されたりして、付いた力を確認できるよう工夫されている。 		

書 寫

東 京 書 籍

学 校 図 書

三 省 堂

教 育 出 版

光 村 図 書

観点の内容 書写

書写 目標

- (1) 文字を正しく整えて速く書くことができるようにする。
- (2) 実際の社会生活や学習場面に役立つ書写の能力を育成する。
- (3) 伝統的な言語文化に親しむ態度を育てる。

観点 〔「学ぶ力」向上にかかわるポイント〕	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を正しく整えて速く書くことができるための教材や学習活動 ・毛筆と硬筆の書き方や、楷書と行書の書き方を比較して提示している教材や学習活動 	<p>字形や文字の大きさ、配列、点画のつながりなど文字を正しく整えて速く書くことを養うように工夫されていることに留意する。</p> <p>毛筆の指導が硬筆による書写の能力を養うように、毛筆と硬筆を比較したり、行書の書き方を理解できるように、楷書と行書を比較したりしているなどの工夫がされていることに留意する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の社会生活や学習場面に活用できる書写の能力を育成するための教材や学習活動 ・多様な書式や書体、筆記具の紹介例など効果的に文字を書くことができる教材や学習活動 	<p>例示を使って実際の社会生活や学習場面で思考や判断しながら、学習活動ができるようにしていることに留意する。</p> <p>目的や意図、場面に応じて、書式や書体、筆記具などを使い、効果的に文字を書くことができるよう工夫されていることに留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活で使用される多様な書体や字形の文字の文字に関心をもち、意欲を高めるような教材や学習活動 ・学習に対する関心や意欲を高めるような資料やコラム、挿絵、写真の内容 	<p>社会生活で使用される多様な書体や字形の文字、また、その文字の使われ方に対する関心をもち、意欲を高めるよう工夫されていることに留意する。</p> <p>掲載されている資料やコラム、挿絵、写真が、書写に対する関心をもち、意欲を高めるものにしていくことに留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭などの生活場面で伝統的な言語文化に親しむ態度を育てるための教材や学習活動 ・家庭学習につながるように示されている教材や学習活動 	<p>生活の中での伝統的な言語文化に親しむ態度を育て、我が国の文化や伝統について関心をもつことができるようにしていることに留意する。</p> <p>家庭学習につながる具体的な内容が設定されていることに留意する。</p>
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の構成が、課題を設定し、見通しをもって学習が進められるようにしている教材や学習活動 ・学習の進め方について、解説している内容 	<p>単元の構成が、課題設定、学習活動、学習の振り返りなど、自分で見通しをもって学習を進めるよう工夫されていることに留意する。</p> <p>学習が自分で進められるような具体的な内容が、解説されていることに留意する。</p>

調査方法

種目名【 書写 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を正しく整えて速く書くことができるように、点画の連続や省略、筆順の変化、字形の例示、文字を書く際の留意事項などの解説がされている教材や学習活動の箇所数を調べた。 ・毛筆の指導が硬筆による書写の能力を養うように、毛筆と硬筆を比較したり、行書の書き方を理解できるように、楷書と行書を比較したりしているなどの工夫がされているかについて調べた。
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の社会生活や学習場面に活用できるように、具体的な場面を想定するとともに、思考力や判断力が育成できる教材や学習活動であるかについて調べた。 ・目的や意図、場面に応じた学習活動ができるように、多様な書式や書体、筆記具を紹介するなど、効果的に文字を書くことができる教材や学習活動の箇所数を調べた。
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活で使用される多様な書体や字形の文字に関心を持ち、意欲を高めるよう工夫されているかについて調べた。 ・学習に対する関心や意欲を高めるような資料やコラム、挿絵、写真などの箇所数を調べた。
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・生活にある我が国の伝統的な文字についての関心や親しみをもつことができるように、言語文化を取り上げているかについて調べた。 ・家庭学習につながるように示されている教材や学習活動の箇所数を調べた。
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で課題を設定し、見通しをもって学習を進めるように、課題設定、学習活動、手本、活動内容についての意見交流、学習の振り返りなど、単元などの構成の工夫がされているかについて調べた。 ・主体的な学習を進めるための具体的な内容や方法が解説されているかについて調べた。

調査結果

書写

観点	A	B	C	D	E					
	基礎的・基本的な知識・技能	思考力・判断力・表現力	学習意欲	家庭学習につながる学習	自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習					
研究調査事項	文字を正しく整えて速く書くことができるための教材や学習活動	毛筆と硬筆の書き方や、楷書と行書の書き方を比較して提示している教材や学習活動	実際の社会生活や学習場面に活用できる書写の能力を育成するための教材や学習活動	多様な書式や書体、筆記具の紹介例など効果的に文字を書くことができる教材や学習活動	社会生活で使用される多様な書体や字形の文字に関心をもち、意欲を高めるような教材や学習活動	学習に対する関心や意欲を高めるような資料やコラム、挿絵、写真の内容	家庭などの生活場面で伝統的な言語文化に親しむ態度を育てるための教材や学習活動	家庭学習につながるように示されている教材や学習活動	単元の構成が、課題を設定し、見通しをもって学習が進められるようにしている教材や学習活動	学習の進め方について、解説している内容
発行者名										
東京書籍	16	○	○	11	○	14	○	10	○	○
学校図書	16	○	○	4	○	18	○	6	○	○
三省堂	21	○	○	13	○	7	○	6	○	○
教育出版	24	○	○	11	○	13	○	7	○	○
光村図書	17	○	○	12	○	9	○	5	○	○

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	書写	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 手本のページに、点画や筆順、文字の整え方等の学習の要素をインデックスで示し、その文字を書くときの留意点に気づけるよう工夫されているとともに、その学習の要素の関連ページも示され、学習内容を確認できるように工夫されている。また、毛筆教材の後に同じ学習内容の硬筆教材を設定し、毛筆での学習を硬筆に生かせるよう示されている。 行書の導入では、筆の動きを四つのパターンで分類し、習得しやすくなるように設定されているとともに、行書に楷書を並べて示し、形の特徴の違いがわかりやすく示されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「職場訪問」や「防災訓練」を取り上げた題材では、手紙やメモ、新聞、看板等の具体例を挙げながら、書写で身に付けた知識、技能を目的や相手、場面に応じて、日常の場面で適切に活用できるよう工夫されている。 「効果的に書こう」では、ノートを分かりやすく書くためのポイントを挙げ、書写で学習した内容を他教科にも生かせるよう示されている。また、文字の大きさや配列、適切な筆記具を選択し、全体の調和を考えながら書く学習活動が設けられている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全ての都道府県の特徴的な石碑や看板等の文字を写真で紹介することにより、身の回りにある文字への興味・関心を高める工夫がされている。 コラム「しょしゃのたね」では、手書き文字と印刷文字の違いや、短冊や色紙に短歌や俳句を書くときの留意点等が、解説されているとともに、楷書の由来といわれる「楷の木」を紹介し、書写に対する興味・関心をもてるよう工夫されている。また、巻末資料には、「書写テストに挑戦」が掲載され、書写に関する知識・技能の定着度を確認し、学習が意欲的にできるよう工夫されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 古典の優れた書や工芸品に飾られた文字を掲載することで、書文化に興味をもつように示されているとともに、美術館や博物館での学習を促す工夫がされている。 書き初めの手本には学習の要点と語例を示し、家庭での主体的な学習ができるよう工夫がされている。また、年賀状の書き方や電子メールと葉書の違いについて考える課題や、身近にある文字を調べる課題、国語の教科書に取り上げられた古典作品の硬筆手本等、家庭学習につながる教材が多く配置されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方では「調べよう」「確かめよう」「広げよう」の三段階に分けて学習の手順を明示し、見通しをもって学習を進められるように設定されているとともに、「広げよう」では、学習した内容をすぐに生かせるよう、別の文字で書いてみたり、生活場面で活用したりできるように工夫されている。 学習の冒頭に「目標」を明示し、終末には「振り返ろう」を設けて、自己評価しやすいように工夫されている。また、「生活に広げよう」「生活を豊かにする文字」では、学習過程に沿って具体的な手順を示し、書式、文字の大きさ、配列等を自分で考えながら主体的に学習を進められるように設定されている。 		

種目名	書写	発行者名	学校図書株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 見開き2ページに手本を掲載し、視覚的にわかりやすく示されているとともに、手本に書き込まれた留意点と朱筆によって、点画の書き方や筆順、字形の整え方が、具体的に説明されている。また、教材ごとにつけた技能を別の文字にも生かせるように硬筆の書き込み練習箇所を設定し、毛筆で習得した技能が硬筆に生かせるように工夫されている。 行書と楷書の基本的な点画の書き方を朱筆で示し、比較できるようにするとともに、行書の手本に楷書を並べて示し、点画や筆順の違いを確認できるように工夫されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 巻末に、新聞や礼状、作文、掲示物等をまとめて掲載することにより、学習したことを目的や場面等に応じ、社会生活や学習場面で適切に生かせるように工夫されている。 「書写を生活に生かそう」や「作品を作ろう」では、さまざまな筆記具による印象の違いや余白の使い方、全体の文字の調和、作品の飾り方等、書写で学習した内容を活用し、より効果的に書くことができるように示されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近な橋銘や句碑を写真で紹介し、身の回りにある文字についての興味・関心を高める工夫がされている。 単元の扉のページに文字と写真を併せて効果的に用いる等、数多くの写真や資料を掲載し、学習への意欲を高める工夫が多くされている。また、コラム「書写の窓」では、時代と文字の変遷や筆ができるまでの過程等を、写真を交えながら解説し、伝統的な言語文化である書写に対する興味・関心を引き出すよう示されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 臨書の体験や篆刻の方法等、伝統的な文字文化に触れるための発展教材を掲載し、主体的な学習を促すとともに、作品の額装、短冊や色紙に好きな俳句や和歌を書く等、家庭学習につながる工夫がされている。 「確かめよう」では、学習内容をまとめ、家庭での主体的な学習ができるように設定されている。また、書き初めの手本には、留意点や書くときの姿勢が示されるとともに、年賀状や夏休みの作文を例にした手本を掲載する等、主体的な学習ができる教材が示されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方では、「試し書き」「練習」「まとめ書き」「硬筆で書く」と段階に分けた学習方法が明示されている。また、「目標」と「振り返って」を明示し、自己評価しやすいように示されているとともに、評価項目を複数にし、より細かい内容の振り返りができるように工夫されている。 毛筆の学習で学んだことを硬筆で書いて確かめる学習課題と、そのための書き込みページがあり、学習内容が身に付いているか確認できるように示されている。また、必要に応じて、既習内容を確認めながら学習が進められるように工夫されている。 		

種目名	書写	発行者名	株式会社 三省堂
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分の文字の書き方を手本文字と比べたり、手本ごとに整った文字を書くための留意点が的確に示されたりすることで、よりよい文字を書く方法に自ら気付けるように工夫されている。また、行書の導入には、筆運びを指でなぞったり、楷書を速く書くことで行書になる過程を確認したりする内容を示し、行書の特徴を理解しやすくする工夫がされている。 ・行書の手本には、その横に楷書の文字を示している。また、行書と楷書の筆使いを薄墨と朱筆の二色で示すとともに、穂先の動きも説明し、書き方の違いを確認しながら練習できるように工夫されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活に生かそう」では、行事の目標や本の紹介等がワークシートの例とともに掲載されている。また、資料編では、手紙、入学願書、ノートの書き方等、日常的な語や文章を書く課題を設定し、身に付けた知識や技能が日常の生活場面に活用できるように示されている。 ・本のポップのレイアウト例を数種類比較して掲載し、書き方の違いによって印象が異なることに気付かせ、目的に応じてどのように書き換えるとよいかを考えさせている。また、「効果的に書こう」では、行事の案内状やポスター等、形式によって余白や文字の大きさを変える等の工夫を考えさせる内容が示されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの文字の工夫を「旅行ちらし」から考えることにより、社会生活で目にする身近なものに、多様な形式の文字が使われていることに気付くよう示されている。 ・行書との出会いに若年層から支持を得ているグループの楽曲の歌詞を用い、興味・関心を高める工夫がされている。また、歴史上の人物や海外の著名人の言葉を引用することで、手書き文字が自分らしさを表現する道具であり、書写で学んだ知識や技能を生かした豊かな文字生活を意識するようよびかけがされている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年賀状や書き初め等、日本の「書く」文化についてのコラムを掲載し、家庭学習で年賀状や書き初めを実践するときの意識付けになるよう示されている。また、書の名手たちの作品等、伝統的な文字について関心をもてる資料が掲載され、美術館や博物館での学習を促す工夫がされている。 ・書き初めの手本には留意点や他の語例も掲載され、主体的な家庭学習ができるよう配置されている。また、身の回りにある書を探したり、家で飾るための「座右の銘」を書いたりする等、家庭学習につながる教材が配置されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れでは、「考えよう、話し合おう」「書いて確かめよう」「振り返ろう」の三段階に分けて学習手順を明示し、見通しをもって学習を進められるように工夫されている。「考えよう、話し合おう」では、課題意識をもって考える場面を設定し、主体的な学習が工夫されている。 ・「生活に生かそう」では、学習の手順を具体的に示し、自分で見通しをもって学習を進められるように工夫されている。作品を交流することにより、自己評価や他者評価を行う学習活動が示されている。 		

種目名	書写	発行者名	教育出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行書の導入では、行書特有の筆の運びを二色の薄墨を使い大きく示し、習得しやすくする工夫がされている。また、点画の連続と変化や省略、筆順の変化等の学習内容を多く設定し、技能の定着を図る工夫がされている。 ・題材ごとに、硬筆で試し書きをし、次に、毛筆での手本や書き方が示され、もう一度硬筆で確認の練習を行うという学習の流れで、硬筆と毛筆の関連を理解しながら学習できるように工夫されている。また、楷書と行書の違いを毛筆と硬筆の両方で示し、文字の特徴が比較しやすいように工夫されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末の「書式の教室」では、手紙、葉書、ノート、志願理由書等、目的に応じた書き方や、相手にとって読みやすい工夫をまとめ、学習の内容を日常生活に活用できるよう工夫されている。 ・新聞を例に挙げ、文字の大きさや書体、筆記用具等を使い分けることによる効果的な書く方法が示されている。また、「文字で心を伝えよう」では、感謝のメッセージや学校行事、教室の掲示物等の例を挙げ、個人や集団の思いを文字で伝える書き方が示されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの多様な文字を書籍の題字やのぼり等で紹介し、身の回りにある文字文化に興味や関心をもつ工夫がされている。 ・作家の肉筆原稿や歴史上の人物が書いた文字を紹介し、伝統文化への関心を高めるよう工夫されている。また、日本建築と書の結びつきを取り上げ、書が日本の伝統文化に息づいてきたことに目を向けるよう工夫されている。コラムでは、活字デザイナーの仕事を紹介するとともに、学習してきた力が社会の中でどのように活用されているかを知り、社会に参画する意欲を促すよう配慮されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掛け軸や扁額、いろは屏風、料紙に書かれた文字等、芸術としての書道作品を掲載し、美術館や博物館での学習につながる工夫がされている。また、伝統的な書式の「短冊」や「色紙」を取り扱い、自分の好きな言葉や旅先で作った俳句を書いてみる等、家庭学習に生かせる工夫がされている。 ・書き初めの手本には書くときの姿勢やその他の語例が示され、主体的な学習を可能とする内容になっている。また、暑中見舞いを書く活動や、夏休みの宿題レポートを例にした手本等、家庭学習につながる教材が掲載されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「目標」、「考えよう」、「生かそう」、「振り返ろう」の学習の進め方を明示し、見通しをもって学習を進められるように工夫されている。各単元において、試し書きと教科書の文字を比べ自分の課題を見つける、毛筆で学習したことを硬筆で他の文字に生かして書く、まとめとして毛筆や硬筆で書き確認する、課題が解決できたかを自己評価する等、課題意識をもって主体的に学習できるよう工夫されている。 ・各学年の学習の後には、補充教材集が設けられ、個々の習熟度や課題に合わせて学習を選択し、主体的に進められるように工夫されている。 		

種目名	書写	発行者名	光村図書出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薄墨を用いて筆使いを示すとともに、学習の要点を直接、書き込むように構成されており、基礎的な知識や技能が習得できるよう工夫されている。 ・行書の手本には、楷書を並べて配置し、違いを確認しながら練習できるようになっているとともに、行書のページには、折り込みで朱筆の筆跡を示し、その違いを比較できるよう工夫されている。また、毛筆の手本といっしょに硬筆の「なぞり書き」を配置し、毛筆での学習が硬筆に生かせるよう工夫されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を集めたり整理したりするときに文字や図で書き表すことが効果的であることを示すとともに、メモやポスター、レポート、新聞、フリップ等の様々な例を挙げながら、情報の収集、整理、発信という目的に応じ、書く方法が異なることがまとめて示されている。 ・資料のページには手紙や送り状、願書の書き方等、書写で身に付けた技能を社会生活や各教科の学習場面に生かせるよう工夫されているとともに、目的に応じて書体や筆記具を使い分ける理由を考える等、効果的な書き方の要点が示されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で目にする雑誌の紙面を題材とし、文字の特徴と効果を見つけ、その使われ方に興味をもてるように工夫されている。 ・コラムでは、本を作るデザイナーへのインタビューや作家の言葉を用い、手書き文字と活字を、場面や目的に応じて使い分けることの大切さを感じ取れるよう設定されている。また、楷書や行書だけでなく、篆書や隷書がパスポートや紙幣等の身近なところに使われていることを知り、日常の生活と書写への関わりに興味をもてるように工夫されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸後期から昭和時代の広告文字を掲載し、近代の文字文化にも触れられるように工夫がされている。また、先人の文字作品を紹介し、その個性を比較したりする等、様々な文字文化を調べることに関心がもてるよう示されている。 ・書き初めの手本には、小筆の持ち方や語例が示され、家庭での主体的な学習ができるよう工夫されている。また、葉書や願書、原稿用紙の使い方等、家庭学習に生かせる教材が示されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の目標が明示され、学習を見通し必要に応じて既習事項の確認を行うことで、基礎・基本を着実に身に付けられるように配慮されている。「三年間のまとめ」では、学習内容を振り返りながら課題に取り組めるように工夫されている。また、相手や目的に応じてどの書体、筆記具を選ぶか理由を明確にして話し合う活動が掲載され、協力しながら主体的な学習が進められるよう示されている。 ・各単元での要点を書き込めるスペースがあり、自分で要点を意識しながら学習を進められるように工夫されている。「学習を振り返る」では、評価内容を明確にし、自己評価がしやすく示されている。 		

社会（地理的分野）

東京書籍

教育出版

帝国書院

日本文教

観点の内容 社会（地理的分野）

社会（地理的分野） 目標

- (1) 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地理的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。
- (2) 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりごととらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる。
- (3) 大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し、それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。
- (4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。

観点 （「学ぶ力」向上にかかわるポイント）	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的な見方や考え方や地図の読み取り、景観写真の読み取りなどの内容 ・世界の諸地域や日本の各地域において、地域的特色を大観させ、その上で主題を設けて地域的特色を理解できる内容 	<p>世界の諸地域の学習で取り上げる地域や国については、各項目間の調整を図り、一部の地域に偏ることのないように留意する。</p> <p>世界の諸地域の学習成果を生かすとともに、日本の諸地域の特色について理解を深めるための基本的な事柄で構成するよう留意する。</p> <p>地域的特色や変化をとらえるに当たっては、歴史的分野との連携を踏まえ、歴史的背景に留意し、公民的分野との関連にも配慮する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域や日本の各地域の人々の生活の様子や日本と世界の諸地域の関連を考察する内容 ・身近な地域の調査において、様々な資料や地図を的確に読み取り、まとめるなどの学習活動 ・地理的事象について説明する学習活動 	<p>衣食住の特色や、生活と宗教とのかかわりなどに着目させるように留意する。</p> <p>地図を有効に活用できるようにするには、縮尺の大きな地図や統計その他の資料に親しませ、それらの活用の技能を高めるように留意する。</p> <p>地理的事象を説明する際には、生徒が学習した用語、統計資料や地図を活用するなどと説明の根拠が示せるように留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や写真、グラフなど、生徒自らが地理的事象に関心をもてる内容 ・地図やグラフなど地理的事象に関心をもち、その理由や根拠を理解することに意欲がもてる内容 	<p>地理的事象に興味や関心をひくような分かりやすい資料になるよう留意する。</p> <p>意欲が高まるような課題の難易度に留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容を生かして課題が設定され、自分で学習を進められる内容 ・単元や章末のまとめなど自分で学習が進められる内容 	<p>地理的事象に関心をもち、進んで調べ、まとめることで理解を深めるとともに、作業や体験を伴う学習や課題を設定し追究する学習などを工夫し、生徒の主体的な学習を促すことに留意する。</p>
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりする学習内容 	<p>自分の解釈を加えて論述する場合、事実と自分自身が解釈したことをはっきり分け、書くこと、要点を自分の言葉で簡潔にまとめられるよう留意する。</p>

調査方法

種目名【 社会（地理的分野） 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p>A 基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどの地理的な見方や考え方について記述されている箇所数を調べた。 ・世界の諸地域や日本の各地域において、地域的特色を大観させ、その上で主題を設けて地域的特色を理解できる内容について調べた。
<p>B 思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域や日本の各地域の人々の生活の様子や、日本と世界の諸地域の関連を考察する内容について調べた。 ・身近な地域の調査において、様々な資料や地図を的確に読み取り、まとめるなどの学習活動について調べた。 ・地理的事象について説明する学習活動について、どのように扱われているかについて調べた。
<p>C 学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や写真、グラフなど、生徒自らが地理的事象に関心をもてる内容について、どのように扱われているかについて調べた。 ・地図やグラフなど地理的事象に関心をもって、その理由や根拠を理解することに意欲をもてる内容について、どのように扱われているかについて調べた。
<p>D 家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容を生かした発展的な課題が設定され、自分で学習を進められる内容について調べた。 ・単元や章末のまとめなど、自分で学習が進められる内容のページ数を調べた。
<p>E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりする学習内容の箇所数を調べた。

調査結果

社会
(地理的分野)

観点	A	B			C		D	E	
	基礎的・基本的な 知識・技能	思考力・判断力 ・表現力			学習意欲		家庭学習に つながる学習	自分で課題を設 定し、見直しを もって進める学習	
研究調査事項	地理的な見方や考え方や地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどの内容	世界の諸地域や日本の各地域の人々の生活の様子や日本と世界の諸地域の関連を考察する内容	身近な地域の調査において、様々な資料や地図を的確に読み取り、まとめるなどの学習活動	地理的事象について説明する学習活動	地図や写真、グラフなど、生徒自らが地理的事象に関心をもてる内容	地図やグラフなど地理的事象に関心をもち、その理由や根拠を理解することに意欲がもてる内容	授業で学習した内容を生かして、発展的な課題が設定され、自分で学習を進められる内容	単元や章末のまとめなど自分で学習が進められる内容	地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりする学習内容
発行者名									
東京書籍	78	○	○	○	○	○	○	18	77
教育出版	78	○	○	○	○	○	○	11	89
帝国書院	111	○	○	○	○	○	○	13	93
日本文教	88	○	○	○	○	○	○	19	98

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	社会（地理的分野）	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地理スキル・アップ」では、作業をする形で読図や作図など地理学習に必要な技能を系統的に身に付けられるように工夫されている。 ・各地域の学習のはじめに、自然や生活についての写真など、地域を概観するページが設けられ、また「学習テーマ→追究テーマ→地域的な特色」と関連をもたせた三つの段階で組み立てた構成により、地域的特色が学習できるようになっている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域、日本の諸地域では、本文の記述に加え、多様な資料が充実しており、資料の読み取りや考察を通して、思考や判断を深められるように構成されている。アジア州に関する記述内容が充実しており、詳しく学べるように配慮されている。 ・地域の調査では、韓国と静岡市が例に取り上げられ、特に調査の方法やまとめ方について丁寧に解説されている。身近な地域の調査では地域の将来像について話し合い、発表し合う学習活動を通して、よりよい地域づくりに積極的に参画していく力を育ていけるように構成されている。 ・各見開きの最後には、重要語句を使って説明したりするなど、学習した内容を活用し、自分なりに思考・判断したことを表現する机のマークが示されている。さらに、章・節末のまとめでは、ウェビングマップや図などの多様な方法でまとめ方が例示されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や写真をもとに詳しく説明し、写真等から読み取れる疑問点を具体的に表現して、関心をもって考える内容が充実している。また、各単元に写真を複数掲載し、地域の様子や関連内容を興味深く視覚的にとらえる工夫がされている。 ・写真の解説が各所にあり、学習内容に対する理由づけや根拠に関連するものとなっている。写真・地図に関連したコラム「地理にアクセス」があり、さらに意欲を高める手立てとなっている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を深める鉛筆のマークが示され、内容説明についても、表や地図を参考にまとめるもの、キーワードがあるものなど、見開きの学習内容からわかるように配慮されている。 ・「〇〇の学習をふり返ろう」「この章の学習を確認しよう」という、各章・単元のまとめが全体で18ページ設定されており、重要語句は掲載ページがわかるよう工夫されている。また、語句理解、説明による理解、発展理解と1ページで段階的に復習が可能になっており、表や図を用いて見やすくまとめられている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文での学習内容を深化させ、今日的な課題に迫る「深めよう」を設けることで、自分で課題を設定し、学習したことをさらに探究することができるように工夫されている。また、「トライ」では自分で課題を設定する際の視点を例示している。 		

種目名	社会（地理的分野）	発行者名	教育出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「地理にアプローチ」で、基礎的な知識や基本的な技能が習得でき、作業を通して理解が深まるように配慮されている。「読み解こう」で、写真・地図・グラフなどの具体的な資料を読み取りながら考察する手がかりが示されている。 ・各地域の学習のはじめに、地勢図が掲載され、地域を大観する学習を助け、「習得-活用-探究」を基に学習が進められるように構成されている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域、日本の諸地域では、主題図が充実しており、資料の読み取りや考察を通して、思考や判断を深められるように構成されている。朝鮮半島に関わる記述が2ページあるなど、アジア州に関する内容が充実している。 ・地域の調査では、南アジアと名古屋市が例に取り上げられ、特にレポートのまとめ方について丁寧に解説されている。「身近な地域の調査」では地域の方々を招いて意見を発表する学習活動が紹介されており、よりよい地域づくりに積極的に参画していく力を育めるように構成されている。 ・資料を読み取って考察する学習活動や表現活動を通して、思考・判断したことを表現する「読み解こう」や「ふりかえるステップ2」が設けられている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や写真が大きく掲載され、各単元の導入の際に関心をもってとらえられるよう工夫されている。また、地図や写真から読み取れることや考えられることを、イラストを用いて説明したり、キャラクターからの問いかけを設けるなど、自分で学習課題について考えたりするきっかけづくりの工夫がされている。 ・「見てみよう」という項目が地図や写真に関連して示して、掲載資料を詳しく説明して意欲を引き出す工夫がされている。見開きページごとに、地図資料やグラフ・写真が載っており、キャラクターのコメントと関連させて、理解が深まるよう工夫されている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容をまとめる「ふりかえるステップ1」で、基礎的事項の確認をすることができるよう工夫されている。 ・「学習のまとめと表現」で、各章・単元のまとめが全体で11ページ設定されている。「地図を使って確かめよう」「表現しよう」と学習のステップを基本と発展の二段階に分けて示している。基本では、重要語句の確認や資料の読み取りなどの復習を、発展では、調べ学習や理由・原因などを考えてまとめる学習が主となっている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域から世界を考えよう」、「現代日本の課題を考えよう」は、課題を設定しやすい内容になっており、話し合いや重要語句をまとめるなどの学習が進められるような工夫がされている。 		

種目名	社会（地理的分野）	発行者名	株式会社 帝国書院
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「技能をみがく」では、地理学習に必要な知識や、作図や時差の計算などの基礎的な技能を身に付けることができるようになっている。「資料活用」では、地理的な見方・考え方を身に付けるための作業や、そのために注目すべき点が提示されている。 ・世界の諸地域、日本の諸地域ともに、地形や気候などの自然環境から学習をはじめ、文化や生活、産業、他地域との結びつきなどの特徴をつかみ、最後に地域の特色を整理する構成になっている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域、日本の諸地域では、地域の特色がわかる本文記述や人々の姿がわかる写真が充実しており、資料の読み取りや考察を通して、思考や判断を深められるように構成されている。 ・地域の調査では、韓国と練馬区が例に取り上げられ、特にテーマの決め方・視点の例・調査手順について丁寧に解説されている。身近な地域の調査では、地域の将来像や課題について話し合い、発表し合う学習活動を通して、よりよい地域づくりに積極的に参画していく力を育めるように構成されている。 ・各見開きの最後には、習得した知識を活用し、自分なりに思考・判断したことを表現する單元ごとに「説明しよう」が設けられている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・單元ごとに、ページの上部4分の1近くを使った写真が掲載されており、各地域の様子が細かい部分までわかるよう工夫されている。また、全体を通して写真が非常に大きく、世界の諸地域、日本の諸地域では各地域の冒頭部に見開き2ページに写真等を載せており、地域の様子に関心をもって知ることができる。 ・地図や写真に関連して、「なぜ～」、「どんな～」など疑問をもたせるような吹き出しが見られ、理由を考えるきっかけづくりがされている。地理的事象についての解説やコラム、現地の人々の「声」等を記載することで、学習内容に関連する事項がわかりやすく説明されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習を振り返ろう」の「探究しよう」では、学習した内容について、興味をもったことや疑問に思ったことを探究するような課題設定がされている。 ・「学習をふりかえろう」が全体で13ページ設定されており、「確認しよう」と「説明しよう」の課題が設定されている。「確認しよう」では本文から語句を抜き出す形式がとられ、「説明しよう」では語句を用いて理由を説明する、特徴を説明する、比較して説明するなど多岐にわたっており、自ら課題に取り組める工夫がされている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域を探ろう」で学習内容を深めた記述が、「羅針盤」で学習内容に関連した記述がされており、自分の言葉でまとめたり、表現したりする手立てとなっている。また、地理の知識や技能を使って課題に取り組む「トライアル地理」が2テーマ設定されている。 		

種目名	社会（地理的分野）	発行者名	日本文教出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図・写真・統計資料の活用などを通して系統立てた地理的技能の着実な習得を可能にするために、「スキルUP」が設定されている。「読み取ろう」では、地図や資料を読み取る学習活動になっている。 ・各地域学習の最初に地形や気候、歴史、人口、産業、文化などの概要をつかみ、各地域におけるテーマや視点をもとに、地域的特色を追究していく構成になっている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域、日本の諸地域では、学習を深めるコラムが設定されており、今日的課題についての考察を通して、思考や判断を深められるように構成されている。各地域の記述が均等に書かれているため、どの地域もバランスよく学べるように配慮されている。 ・地域の調査では、ロシアと小牧市が例に取り上げられ、特に仮説の検証や社会参画の仕方について丁寧に解説されている。身近な地域の調査では地域の課題を見だし、地域の行事や活動に参加する具体例を紹介することで、よりよい地域づくりに積極的に参画していく力が育まれるように構成されている。 ・各見開きには、学習した内容を活用し、自分なりに思考・判断したことを表現する「言語活動コーナー」「学習の確認と活用」「考えよう」が設けられている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習單元ごとに写真を複数枚掲載し、興味深く内容を理解するような工夫がされている。「世界各地の人々の生活と環境」では、各地域に住む人の話を盛り込み、地域の実情に関心をもつことができるような工夫がされている。 ・各単元の導入ページにイラストで、「～かな」、「～だろう」、と疑問を投げかけることで、学習過程で理由や根拠を発見する手がかりとしている。コラムが各学習單元に設定されており、関心を高めつつ理解を深めることができる。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容をまとめるため、「確認」と「活用」が設定されており、まとめたり説明したりすることで理解が深められるよう構成されている。「活用」ではインターネットを用いたり、未来予想や身近な地域と関連させて考えたりする工夫がされている。 ・各章・単元のまとめが全体で19ページ設定されており、チェックボックスで重要語句の確認と、地図や表を用いて比較したり考察したりすることができるよう構成されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見直しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の地理的トピックスを紹介した「地域からのメッセージ」や「自由研究」で学習した内容に関連した記述を掲載し、課題を設定することで、その課題を追究できるような工夫がされている。 		

社会（歴史的分野）

東京書籍

教育出版

清水書院

帝国書院

日本文教

自由社

育鵬社

学び舎

観点の内容 社会（歴史的分野）

社会（歴史的分野） 目標

- (1) 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民通しての自覚を育てる。
- (2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。
- (3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。
- (4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

観点 （「学ぶ力」向上にかかわるポイント）	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代の特色や時代の転換に関わる基礎的・基本的な内容 ・各時代の文化の特色を記述している内容 	<p>地理的分野との連勝を踏まえ、地理的条件にも着目して取り扱うよう工夫するとともに、公民的分野との関連にも配慮するよう留意する。 代表的な事例を取り上げてその特色を考えさせるよう留意する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代の特色や、我が国の歴史上の人物について調べたり、歴史的事象についての要因を考えたりする学習内容 ・日本と外国の歴史や文化が関連していることを学習する内容 ・歴史的事象の意味、意義や特色、事象間の問題を説明する学習活動 	<p>それぞれ的人物が果たした役割や生き方などについて時代的背景と関連付けて考察させることに留意する。 他民族の文化、生活などに関心を持たせ国際協調の精神を養わせるよう留意する。 身近な地域の歴史上の人物を取り上げることにも留意する。 歴史的事象を説明する際には、学習した用語を使用し説明の根拠が示せるように留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象を深めた記述など、関心を高める内容 ・絵図や写真、史料などが工夫され、関心を高める内容 ・歴史的事象について、調べたり考えたりする活動を通して、課題解決に向けた意欲を高める内容 	<p>学習を通してさらに関心が喚起されるような指導を工夫する。 興味や関心をひくような分かりやすい資料になるように工夫する。 身近な地域の歴史を取り上げるなど、地域への関心を育て、我が国の歴史により具本性と親近感をもたせながら、その理解を深めることが大切であることに留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容を生かした課題が設定され、自分で学習を進められる内容 ・単元や章末のまとめなど自分で学習が進められる内容 	<p>歴史的事象に関心をもち、進んで調べまわるとして理解を深めるとともに、作業や体験を伴う学習や課題を設定し追究する学習などを工夫し、生徒の主体的な学習を促すことに留意する。</p>
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象の関連を説明したり、課題を設けて追究したり、意見交換したりするなどの学習活動 	<p>地域の特性に応じた時代を取り上げるようにするとともに、人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目した取扱いを工夫することに留意する。 博物館、郷土資料館などの施設の活用や地域の人々の協力にも留意する。</p>

調査方法

種目名【 社会（歴史的分野） 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代の特色や時代の転換に関わる基礎的・基本的な内容について、各教科書の小単元が「政治」「経済」「生活（社会の様子含む）」「文化」のどの内容に関連があるかについて、その箇所数を調べた。また、時代の転換に関わる内容について調べた。 ・各時代の文化の特色を記述している内容について調べた。
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代の特色や、我が国の歴史上の人物について調べたり、歴史的事象についての要因を考えたりする学習内容について調べた。 ・日本と外国との国際関係や文化交流に関連していることを学習する内容について調べた。 ・歴史的事象の意味、意義や特色、事象間の問題を説明する学習活動について調べた。
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象を深めた記述など、関心を高める内容について調べた。 ・絵図や写真、史料などが工夫され、関心を高める内容について調べた。 ・歴史事象について、調べたり考えたりする活動を通して、課題解決をし、意欲を高める内容についてどのように扱われているかについて調べた。
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容を生かした課題が設定され、自分で学習を進められる内容について調べた。 ・単元や章末のまとめなど自分で学習が進められる内容についての箇所数を調べた。
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象の関連を説明したり、課題を設けて追究したり、意見交換するなどの学習活動について箇所数を調べた。

調査結果

社会
(歴史的分野)

観点	A			B			C			D		E
	基礎的・基本的な知識・技能			思考力・判断力・表現力			学習意欲			家庭学習につながる学習		自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習
研究調査事項	各時代の特色や時代の転換に関わる基礎的・基本的な内容			各時代の文化の特色を記述している内容			日本と外国の歴史や文化が関連していることを学習する内容			歴史的事象の意味、意義や特色、事象間の問題を説明する学習活動		歴史的事象を深めた記述など、関心を高める内容
	政治	経済	生活・文化	各時代の特色や、我が国の歴史上の人物について調べたり、歴史的事象についての要因を考えたりする学習内容			歴史的事象を深めた記述など、関心を高める内容			歴史的事象について、調べたり考えたりする活動を通して、課題解決に向けた意欲を高める内容		単元や章末のまとめなど自分で学習が進められる内容
発行者名												
東京書籍	214	154	124	○	○	○	○	○	○	○	99	31
教育出版	255	147	132	○	○	○	○	○	○	○	105	14
清水書院	269	182	235	○	○	○	○	○	○	○	108	11
帝国書院	231	151	131	○	○	○	○	○	○	○	99	21
日本文教	191	154	132	○	○	○	○	○	○	○	88	28
自由社	215	129	170	○	○	○	○	○	○	○	92	15
育鵬社	181	84	89	○	○	○	○	○	○	○	91	37
学び舎	186	79	112	○	○	○	○	○	○	○	24	13

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	社会（歴史的分野）	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の大きな流れと時代の特色をとらえられるように、政治・経済・文化等、いずれの項目も各時代の特色や時代の転換にかかわる基礎的・基本的な内容が取り上げられ、特に経済に関連した記述が豊富である。 ・各時代の文化の成立背景やその特徴がわかりやすく記述されている。また、現在に続く伝統産業の成り立ちや各時代の民衆の生活様式・風俗についてもまとめられている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の冒頭に、各時代の特色や学習内容の要点がつかめる課題設定がされている。 ・諸外国とわが国の関連する資料が取り上げられ、外国の歴史や文化にも詳細な記述があり、日本との関係を考察しやすい構成となっている。 ・基礎的・基本的な内容を学習したのち、机のマークの箇所で、歴史的事象を説明する課題を設定し、思考力・表現力の向上につながるよう配慮がされている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「歴史にアクセス」や「深めよう」、「女性コラム」など、歴史的事象を深めた記述が設定され、関心を高める工夫がされている。 ・見開き2ページで学習内容が構成されており、一つひとつの資料が見やすく掲載され、また、資料に関する説明もわかりやすく工夫されている。 ・すべての単元で、最初の資料に疑問点を掲載し、課題解決に向けた意欲を高めるよう工夫されている。また、「ためしてみよう」では、資料に対する問いかけが、特に近世以降で、随所に盛り込まれている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各章のまとめでは、「この時代の歴史の学習を確認しよう」と題して、学習内容についてのキーワードを、表などを用いて説明する課題が設けられている。歴史の流れを整理しながら考察できる工夫がされている。また、鉛筆のマークで歴史の流れを探究する作業や活動が一人で進められるよう課題が設定されている。 ・各章のまとめには、「この時代の特色をとらえよう」で、重要な歴史的事象を確認するページが設定されており、年表や地図と組み合わせることで、歴史の流れを復習し、世界の動きと対比できるよう工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の冒頭に、歴史的分野の調べ学習について概観した上で、各章末にこれに対応した「私たち歴史探検隊」が設けられており、歴史的事象の調べ方が順序立ててわかりやすく記載されている。また、「深めよう」の「トライ」で探究する課題が設定されている。 		

種目名	社会 (歴史的分野)	発行者名	教育出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各時代の特色や時代の転換について、「時代の変化に注目しよう」というコーナーで、当時の人々の生活と政治の関連に視点をおいた構成がとられている。歴史的分野における基礎的・基本的な事項や重要人物についての資料は、精選して取り上げられている。 各時代の文化については、その特色を把握しやすいように基礎的・基本的な内容を中心に構成されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の冒頭に、「学習課題」を明示することで、歴史の特色や学習内容の要点がつかめる課題設定がされている。 現代については、節ごとに「世界→東アジア→日本」という構成になっており、当時の国際関係をとらえやすく工夫されている。また、外国の歴史の展開や文化の交流についても同様の構成になっており、日本との関係を考察しやすく構成されている。 単元ごとの「ふりかえるステップ2」では、思考力・判断力・表現力を高める課題に段階的に取り組めるよう工夫されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習コラム「歴史の窓」や特設ページ「歴史を探ろう」で、歴史的事象を詳しく記述するなど、歴史に関心もてる工夫がされている。 1ページあたりの資料を充実させて、関心を高める工夫がされている。「歴史にアプローチ」では、絵画資料の見方を説明し、楽しく深く学ぶ方法が記載されている。 すべての単元で、最初の資料に疑問点を掲載し、課題解決に向けた意欲を高める工夫がされている。また、「読み解こう」を随所に示すことで、資料を読み解く方法が身に付くように工夫されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 章末の「学習のまとめと表現」において、説明する活動に、「キーワード」を設定することが、一人で学習する手助けとなっている。 歴史の大きな流れをつかむため、各単元の「ふりかえるステップ1」で、基礎的事項の確認をすることができるよう工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 章末のページ「学習のまとめと表現」は、年表を用いて大きな流れをとらえるとともに、世界の動きと比較して学ぶことができるように工夫されている。また、時代の特色をとらえるために、歴史新聞をつくったり、表をつくって比較したり、異なる2つの意見から考えたりするなどの理解を深める課題が設定されている。まとめ方の例が提示されており、見通しがもちやすい構成がとられている。 		

種目名	社会（歴史的分野）	発行者名	株式会社 清水書院
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・小単元が多く設定され、歴史的事象が丁寧に記述されている。歴史の流れと時代の特色をとらえるため、政治の展開と社会の変容を基軸にした構成がされている。 ・各時代における文化の特色やその背景、具体的な事項について、資料や記述を精選してわかりやすくまとめられている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の冒頭には、その時代の歴史的事象を理解するための学習のめあてが、虫めがねのマークで具体的に設定されている。 ・地図でみる世界史というページで、世界地図を用いて日本との関わりを空間的にとらえられる工夫がされている。また、東アジアの交易や交流を通じた日本との関わりについても詳しく記載されている。 ・単元の最後には、学習した知識を生かして歴史的事象を説明する課題が設定されている。また、「資料」で、本文の記述が補足されている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・学習コラム「もっと知りたい歴史」では、歴史にまつわる様々なエピソードから、当時の日本や世界の様子をとらえる工夫がされている。 ・資料や写真は精選されており、見やすく構成されている。資料に関する解説も簡潔でわかりやすい。 ・各章には「歴史のとびら」を通して、歴史の学習を進める上で身に付けておくことや調査の方法、課題解決に向けた手順が示されている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての単元で最初に学習内容の課題が具体的に示されており、「まとめてみよう」で、文章でまとめたり、年表でまとめたり、世界地図で位置関係を把握させたりするなど、様々な方法で学習内容の確認ができるよう構成されている。 ・各章のまとめでは、歴史の流れを確認するとともに、日本と外国の動きを関連させたわかりやすい年表が提示されている。また、各時代の文化の特色について、キーワードを用いて説明する課題が設定されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には時代の特色や歴史の大きな流れをとらえるために、キャッチコピーをつくる「Yチャート」という学習方法が提示されている。小学校で学習した内容と関連させ、理解を助ける工夫がされている。単元ごとに設定されている「まとめてみよう」の中に、「深めよう」という発展的課題が設定されており、段階を経て歴史的事象の理解を深められる工夫がされている。 		

種目名	社会（歴史的分野）	発行者名	株式会社 帝国書院
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各時代の特色や時代の転換について、政治の展開とそれに伴う社会生活の変化、各時代の文化の高まりに重点を置いた構成となっている。 歴史的事象をとらえる地図や写真は、大きく掲載されている。文化について多くのページを写真で割いており、その時代の文化の特色や人々の暮らしの変化を理解しやすい工夫がされている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の冒頭に、「学習課題」を明示することで、歴史の特色や学習内容の要点がつかめる課題が設定されている。 諸外国の歴史についての資料・地図が豊富である。現代との関わりを示す資料も充実している。 單元ごとに学習内容を本文から抜き出す「確認しよう」、学習内容に基づいて歴史的事象を説明する「説明しよう」が設けられ、学習活動の内容を明確にすることで、段階的に取り組める工夫がされている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史や人物などのコラムがあり、多角的に歴史的事象を考察できる。また、羅針盤のマークや「トライアル歴史」では、歴史にまつわるエピソードやミステリーに焦点をあてた構成がとられている。 章の冒頭の「タイムトラベル」では、イラストで時代を比較することで、各時代の特色をとらえることができるよう工夫されている。また、文化の1ページ目で、各時代を代表する作品等をページ前面に大きく示されている。 すべての単元で、最初の資料に疑問点を掲載し、課題解決に向けた意欲を高める工夫がされている。また、「資料活用」を随所に盛り込み、資料を読み解くポイントを明らかにしている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各時代の章末に、本文や資料で学んだ内容が「学習をふりかえろう」で確認できる構成がとられており、学習の定着が図られるよう配慮されている。 各章には「歴史を探ろう」として、学習したことを具体的な例を基に深める課題が設定されており、発展的な学習にも活用できる工夫がされている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第1章では歴史的事象を調査・探究する方法が示され、「調べるテーマの決定」、「情報の収集」、「結果のまとめと発表」と手順が示されており、歴史学習の基礎的な技能を身に付けられるように工夫されている。 		

種目名	社会（歴史的分野）	発行者名	日本文教出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「とらえよう時代の転換」のページで、時代の移り変わりを大きくとらえている。政治・経済・文化の各分野がバランスよく取り上げられている。日本の歴史と世界の動きを関連させて理解でき、資料や地図を用いて理解が進むように配慮されている。 ・各時代の国際関係や文化の成立背景、その特徴がわかりやすく記述されている。特に各年代の衣食住については、写真や絵を用いてその様子や変化が比較できるよう配慮されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の冒頭に「学習課題」を明示することで、歴史の特色や学習内容の要点がつかめる課題が設定されている。また、「キーワード」を通して、歴史的事象の要因を考えるヒントとなる語句が掲載されている。 ・国際関係や文化交流については、近現代史を中心に掲載されているほか、外国で活躍した人物にも焦点をあて、その関係性が考察しやすいように配慮されている。 ・各単元のまとめでは、「学習の確認と活用」が設けられており、学習内容の振り返りと表現力・思考力の向上につながる課題が設定されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「先人に学ぶ」では、歴史的事象から現代社会の課題に焦点を当て、歴史の学習が現代人の生活向上や文化発展に寄与していることが学べるよう構成されている。 ・年表や地図、写真は豊富で見やすく配置され、それらの周辺にキャラクターが疑問点等を投げかけることで関心を高める工夫がされている。注釈は簡潔で分かりやすい記述になっている。 ・すべての単元で最初の資料に疑問点を掲載し、課題解決に向けた意欲を高める工夫がされている。小学校で学習した人物との関連も示すなど、学習の振り返りに役立つ工夫が見られる。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の最後に、基礎的・基本的な学習内容が確認でき、さらに学習した知識を生かして説明する発展的な学習が示され、家庭で取り組みやすい課題が設定されている。 ・各章末には年表で時代の流れを把握する工夫がされている。また、時代の特色をまとめる課題で学習したことを確認しながら取り組める工夫がされている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙の見返しで「歴史との出会い」と題して、様々な学習の方法が提示されている。第1編「歴史のとらえ方」で調査・発表の仕方などが、歴史学習を進めるポイントとして示されている。全編にわたって導入で大きな流れをつかみ、各単元での学習を経て学習した内容を活用する構成がとられており、見通しをもって学習に取り組めるよう配慮されている。また、章末の「私が考える〇〇」では、自由に課題を設定して学習が進められるよう工夫されている。 		

種目名	社会（歴史的分野）	発行者名	株式会社 自由社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の大きな流れをつかむ視点を通して、わが国の政治の展開と社会の変容を重視した構成となっている。歴史的事象が詳細に記述されており、文化についても多く記述されている。また、歴史上の人物について、本文の近くに写真と簡潔な文章による業績を添えた紹介がされている。 それぞれの時代の人々の生活に文化や伝統がどのような影響を与えたかという視点を重視しており、当時の人々の考え方を理解できるよう構成されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の冒頭には、歴史の特色や学習内容の要点がつかめる課題が太字で分かりやすく提示されている。 「外の目から見た日本」で、外国人が見た日本の歴史についての記述があり、当時の日本と外国の関係や、日本の社会の様子が丁寧に記述されている。 単元の学習内容を用いて歴史的事象を説明する「まとめにチャレンジ」という課題を設定し、思考力や表現力の向上につながるよう配慮がされている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各章に「もっと知りたいコラム」が2ページ扱いで記述されており、歴史的事象やその時代に活躍した人物について、興味や関心を高める工夫がされている。また、学習意欲を喚起するため、当時の人々の考え方などを取り上げ、その時代に活躍した人物の業績が現在の豊かな社会につながっていることを理解できるよう記述されている。 学習内容の理解につながるよう、写真や図表は精選され、また大きく掲載されている。 単元ごとに学習内容をまとめる課題が設定されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに設けられている学習内容を振り返る課題「まとめにチャレンジ」で、家庭で復習ができるよう配慮されている。 章末には各時代の特色を振り返ることができるように、時代の比較、人物の比較、「ひとこと」作文などの活動を設定して、歴史の流れを復習できるよう工夫されており、また発展的な学習にもつながるように構成されている。「歴史豆辞典」として、「100字用語解説」が掲載され、歴史の復習に活用できるよう工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 序章の「歴史のとらえ方」では、見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方について、自ら学習が進められるよう、わかりやすく記述されている。また、各章のまとめで、歴史的事象を振り返る「意見交換会」が設けられ、思考力や表現力が段階的に身に付くように配慮されている。歴史の学習を終えた最後の単元では、「日本の歴史の特色をとらえる」課題が設定されており、課題1～6で学習内容を振り返ることで、わが国の歴史・文化の特色をとらえることができるよう配慮されている。 		

種目名	社会（歴史的分野）	発行者名	株式会社 育鵬社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各時代の冒頭に、「鳥の目で見ると」「虫の目でみる」として、日本の政治の展開や各時代における特色、国民生活の向上の視点からとらえた基礎的・基本的な内容が記述されている。 わが国の文化や伝統に重点を置いた構成で、日本の歴史における人々の生活の変化と文化の向上を学ぶことができるよう工夫されている。コラム「なでしこ日本史」では、各時代に活躍した女性を取り上げ、時代を追った女性の社会進出をとらえる工夫がされている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の冒頭に学習課題を明示することで、歴史の特色や学習内容の要点をつかみながら、その単元の課題を意識して学習を深めていけるよう配慮がされている。 日本の歴史的事象に深く関わりをもつ諸外国の動きについて「このころ世界は」のページを設けることで、日本の歴史と世界の歴史との関わりを調べ、理解が深められるよう配慮されている。 単元で学んだ内容を活用し、歴史的事象を説明する課題を設定することで、思考力や表現力の向上につながるよう工夫されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「歴史ビュー」、「人物クローズアップ」、「歴史ズームイン」など、歴史的事象を深める記述が充実しており、歴史への関心を高める工夫がされている。 学習内容の理解につながるよう、写真や資料の周囲に配置されたキャラクターが疑問を投げかけることで、関心をもって学習に取り組めるよう工夫がされている。 「歴史の名場面」で、わが国の大きな節目となった歴史的事象を、臨場感のある絵画を基に紹介することで、当時の状況を具体的に想像できるよう工夫がされている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「学習のまとめ」の中で、歴史的事象について資料を用いて考察し、歴史的事象を説明したり、班で調べた内容を意見交換したりできる設定がされている。 「学習のまとめ」の冒頭部分では、年表で単元の学習内容を振り返ることができ、地図や資料を用いて考察することができるように配慮されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 序章に、歴史上の人物についてカードを使って紹介する活動が設定されている。地域調査の手順も示されており、自ら学習を進められるよう工夫されている。「人物クローズアップ」のページの最後には、自分で課題を設定し、学習を深められるような取組が記載されている。また、「課題学習」では、テーマごとに調べ方の例を示し、学習を進められるように構成されている。 		

種目名	社会（歴史的分野）	発行者名	株式会社学び舎
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各單元では、1つのテーマを切り口に歴史的事象についての理解を深め、各時代の政治の展開や文化の発展などの基礎的・基本的な内容がとらえられるよう工夫されている。また、各時代の学習の最後に、その時代の特色を前の時代の特色と比べてまとめる活動があり、時代の変化をとらえる設定がされている。 資料は大きく、見やすく配置されている。民衆の生活視点から描かれた資料が配されており、特に各時代の国民の生活や文化については丁寧に記述されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1章の各單元で「学習課題」を明示することで、歴史の特色や学習内容の要点がつかめるように課題が設定されている。 各章のテーマを通して取り上げた内容に沿った「世界地図」を用いて、各時代の世界と日本の動きを対比させ、諸外国との関わりが確認しやすい工夫がされている。 「歴史を体験する」では、歴史的事象をさらに探究するためのさまざまな方法やまとめ方が紹介され、1つの歴史的事象の理解を深めることで、その事象の意義や特色について説明することができるように配慮されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 單元名が工夫されており、興味を喚起するような学習課題が設定されている。「フォーカス」を通してより詳しい内容が記述されており、関心を高める工夫がされている。 各時代の民衆の生活を描いた写真や、民衆の目線で描いた資料が大きく見やすく配置されるなど、興味をもたせる工夫がされている。 小単元の終わりに、歴史的事象や人物を扱ったコラムを設け、当時の様子に興味や関心をもてるような工夫がされている。また、「歴史を体験する」では、綿糸の作り方など興味・関心をもつ内容が詳しく記述されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「章をふりかえる」では、基本となる歴史用語をまとめ、学習を振り返ることができるように構成されている。 「各章のまとめ」の後半には、年表や地図を用いて歴史的事象を表にまとめたり自分の意見を書いたりする課題が設定されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「学習のまとめ」では、学習した内容を観点に基づいて整理したり、班で意見交換したりするなど、様々な方法で理解を深める課題が設定されている。2章以降は、單元ごとに自ら課題を設定して学習する構成がとられている。章末では前の時代との比較を基に、学習した時代がどのような時代であったのかをまとめる課題が設定されている。 		

社会（公民的分野）

東京書籍

教育出版

清水書院

帝國書院

日本文教

自由社

育鵬社

観点の内容 社会（公民的分野）

社会（公民的分野） 目標

- (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民通して必要な基礎的教養を培う。
- (2) 民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかわりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。
- (3) 国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。
- (4) 現代の社会的対象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

観点 （「学ぶ力」向上にかかわるポイント）	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の社会生活と関連付けながら具体的事例を通して政治や経済の基礎が記述されている内容 ・ 我が国の国際関係、国際社会における我が国の役割や国際協調が記述されている内容 	<p>知識に偏り過ぎた指導にならないようするため、基本的な事項・事柄を厳選して指導するよう留意する。</p> <p>制度や仕組みの意義や働きについて理解を深めさせるよう留意する。</p> <p>人類の一員としてよりよい社会を築いていく意欲と態度を育てるように配慮する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 習得した知識や資料などを活用して、社会的対象について考えたことをまとめることができる内容 ・ 社会的対象について、考えたことを説明する内容 	<p>考えさせられる場合には、資料を読み取らせて解釈させたり、議論などを行って考えを深めさせたりするよう留意する。</p> <p>資料に平素から親しみ適切に活用すること、観察や調査などの過程と結果を整理し報告にまとめ、発表することなどの活動を取り入れるよう留意する。</p> <p>社会的対象を説明する際には、生徒が学習した用語など説明の根拠が示せるよう留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の社会的対象についての関心や意欲を高め進んで学習が行える内容 ・ 社会的対象について、調べたり考えたりする活動を通して、課題に取り組み意欲を高める工夫 	<p>学習を通してさらに社会的対象に関心が喚起されるよう留意する。</p> <p>生徒の興味や関心をひくような分かりやすい資料になるよう留意する。</p> <p>生徒の身近な社会生活に関わりがあるような課題の設定になっているかどうか留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で学習した内容を活かした課題が設定され、自分で学習を進められる内容 ・ 単元や章末のまとめなど自分で学習が進められる内容 	<p>社会的対象に関心をもち、進んで調べまめとめることで理解を深めるとともに、作業や体験を伴う学習や課題を設定し追究する学習などを工夫し、生徒の主体的な学習を促すよう留意する。</p>
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常における社会的対象を通して、課題を設けて追究したり、自分の意見を交換したりするなどの学習活動 	<p>生徒が主体的に学習を進められるよう、取り上げられた内容の範囲や程度に十分配慮する。</p> <p>課題探究の際には、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方から検討するよう留意する。</p>

調査方法

種目名【 社会（公民的分野） 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の社会生活と関連付けながら具体例を通して政治や経済の基礎が記述されている内容について、「現代社会」、「政治」、「経済」、「国際社会」についての各ページ数や構成、内容について調べた。 ・ 国際関係、国際社会における我が国の役割や国際協調が記述されている内容について調べた。
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 習得した知識や資料などを活用して、社会的事象について考えたことをまとめることができる内容について調べた。 ・ 社会的事象について、考えたことを説明する内容についてどのように扱われているかについて調べた。
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の身近な社会的事象についての関心や意欲を高め、進んで学習が行える内容について調べた。 ・ 社会的事象について、図の横にある問いかけなど、調べたり考えたりする活動を通して、課題に取り組む意欲を高める工夫について調べた。
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で学習した内容を生かした課題が設定され、自分で学習を進められる内容について調べた。 ・ 単元や章末のまとめなど自分で学習が進められる内容についての箇所数を調べた。
E 自分で課題を設定し、見通しをもつて進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常における社会事象を通して、課題を設けて追究したり、自分の意見を交換したりするなどの学習活動についての箇所数を調べた。

調査結果

社会
(公民的分野)

観点	A				B	C	D	E				
	基礎的・基本的な知識・技能				思考力・判断力・表現力	学習意欲	家庭学習につながる学習	自分で課題を設定し、見直しをもって進める学習				
研究調査事項	日常の社会生活と関連付けながら具体的事例を通して政治や経済の基礎が記述されている内容				国際関係、国際社会における我が国の役割や国際協力が記述されている内容	習得した知識や資料などを活用して、社会的現象について考えたことをまとめることができる内容	社会的現象について、考えたことを説明する内容	現代の社会的現象についての関心や意欲を高め進んで学習が行える内容	社会的現象について、調べたり考えたりする活動を通して、課題に取り組み意欲を高める工夫	授業で学習した内容を活かした課題が設定され、自分で学習を進められる内容	単元や章末のまとめなど自分で学習が進められる内容	日常における社会現象を通して、課題を設けて追究したり、自分の意見を交換したりするなどの学習活動
	現代社会	政治	経済	国際社会								
発行者名												
東京書籍	28	84	50	38	○	○	○	○	○	○	10	8
教育出版	22	84	60	38	○	○	○	○	○	○	81	8
清水書院	18	73	62	27	○	○	○	○	○	○	4	2
帝国書院	28	74	60	37	○	○	○	○	○	○	90	8
日本文教	30	88	55	42	○	○	○	○	○	○	74	2
自由社	36	70	36	34	○	○	○	○	○	○	7	4
育鵬社	34	78	50	38	○	○	○	○	○	○	5	7

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	社会（公民的分野）	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会、経済、国際社会についての記述が多い。平易な表現がされており、学習内容を主体的に理解できる記述で構成されている。 ・国際的な諸問題については、地域紛争に関して、地図や写真を使って詳細に記述されている。軍縮・核問題、貧困問題等幅広く学習できるように構成されている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・章の終わりのページやまとめのページが設けられ、「ディスカッション」「ディベート」「プレゼンテーション」といった多様な言語活動例が示されている。 ・学習した内容について机のマークの箇所で注目させ、キーワードで説明したり、共通点や相違点に着目して説明したり、空欄に語句を補充して説明したりするなど、さまざまな活動によって学習した内容を定着できる課題が設定されている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・資料について読み取りの視点などに気付かせ興味や関心をもたせるなど、導入資料の工夫がされている。また、鉛筆マークの箇所では、関心や意欲を高めるための作業や活動が設定されている。 ・漫画やイラストを掲載し、興味をもって学習が進められるように工夫がされている。また「公民にアクセス」で、具体的な事例を示すことで、学習内容の理解が深められるよう工夫されている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の初めに示されている「学習課題」に対応して、毎時間学習を振り返り、まとめができる「確認」が設定されており、学習内容が定着できるように工夫されている。 ・「この章の学習を確認しよう」では、段階を追って定着の確認と振り返りに取り組むことができる。また、各章の冒頭に「やってみよう」という課題が設定され、理由や解決策を考えながら、自分で学習を進められるよう設定されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末のレポート作成のページでは、「調査の達人」で資料の読み取りや考察の方法を記述し、探究に必要な技能を身に付けるよう工夫されている。また、取組例を提示することで、調査活動が円滑に行えるように工夫されている。 		

種目名	社会（公民的分野）	発行者名	教育出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政治、経済、国際社会についての記述が多い。特に政治に関するページが豊富である。見開き左上に学習の中心となる資料を配置することで、学習を進める中で基本的な知識を習得しやすい構成になっている。 ・国際的な諸問題については、主に地域紛争と難民問題、人間の安全保障として南北問題や人口増加による食料・水不足に関して記述されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえるステップ2」で、学習した内容を活用して社会的事象についての説明や話し合い活動などの表現活動ができるように工夫されている。 ・「読み解こう」でグラフ・写真・地図などの資料を読み取り、社会の動きを考察する学習活動が行えるように工夫されている。また「言葉で伝え合おう」のテーマ学習のページが設定され、表現力の習得ができるよう工夫されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「公民の窓」「クリップ」など、本文の学習から興味や関心を広げていけるコラムが充実している。 ・導入につながる資料が提示されており、キャラクターの問いかけから学習が展開される構成がとられている。また、その問いが学習課題をつかみやすくする問いかけになっており、工夫がされている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉で伝え合おう」「読んで深く考えよう」などで、自分の考えを表現する手法が多数紹介されている。 ・各単元の「ふりかえるステップ1」や、各章末に設けた「学習のまとめと表現」のページでは、各章で学んだ内容を振り返り、整理したり知識を活用して考えを深めたりする活動が設定されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『「未来への私の約束」をつくろう』では、これからの社会を築いていくために自分には何ができるのかを考え、まとめていく課題が設定されている。 		

種目名	社会（公民的分野）	発行者名	株式会社 清水書院
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経済についての記述が多い。基本事項についての解説や補足が必要と思われる箇所には、「注」を設けるなど丁寧な説明がされている。 ・国際的な諸問題については、世界の軍縮へのあゆみが年表を用いて説明され、核廃絶の取組も詳しく記述されている。「深める公民⑩」では、核兵器廃絶に向けて中学生が行った取組を紹介している。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・吹き出しや風船のマークを使うことで、自分と社会とのつながりを中心にした課題が設定されており、その課題について、考えたり、話し合ったり、調べたりすることで学習内容への理解が深まるよう工夫がされている。 ・各編のまとめでは、冒頭に「次の言葉について説明しよう」という内容が示され、基本的な用語についての理解や表現力が身に付く工夫がされている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コラムで学習内容と深く関連ある例を取り上げ、興味や関心をもちながら、現代社会の課題について考えさせる工夫がされている。 ・各編の扉ページで、学習内容と深く関係する人物に焦点をあて、その人物の活動や著作を紹介するなど、興味や関心を喚起する工夫がされている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「もっと知りたい公民」や「深める公民」では、学習に関連するテーマを詳しく解説したり、図版を加えて記述したりするなど、学習内容の理解が深められるよう構成されている。 ・各編のまとめの後半では、学習内容のポイントや重要語句を振り返ることができる工夫がされている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「もっと知りたい公民⑫」の「卒業論文を書いてみよう」では、持続可能な社会を築くことについて、課題を設定してレポートにまとめる活動が設けられており、レポートのまとめ方についての説明も記述されている。 		

種目名	社会（公民的分野）	発行者名	株式会社 帝国書院
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会、経済、国際社会についての記述が多く、特に経済についての記述が豊かである。見開きの最初には、学習内容に関連した具体的な事例を示して、現代社会と学習内容との橋渡しができるようになっている。 ・国際的な諸問題については、内戦が起こる原因が図で示され、核や軍縮問題に触れている。戦争や内戦の被害、子どもの人権については写真や地図に掲載されている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・「説明しよう」では自分の言葉で説明する課題が設定され、学習の整理や表現力を高める工夫がされている。 ・「トライアル公民」「YES NO」で、対立と合意、効率と公正といった見方や考え方について自分の意見をまとめたり、さまざまな立場から話し合ったりするための題材が掲載されている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・「羅針盤」「クローズアップ」で具体的な事例を紹介し、社会参加への意欲を高める工夫がされている。また、イラストがストーリー仕立てになっており、想像しやすく、主体的に学習に取り組む意欲を高められるよう工夫されている。 ・「How to」でより具体的な事例を示して、学習内容の理解がしやすいように工夫がされている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習をふりかえろう」の後半には、学習内容を自分の考えで表現する課題が設定されている。また、次の大単元への導入としての課題が示され、自分で学習に取り組みやすい構成がとられている。 ・各章のまとめ「学習をふりかえろう」の前半や単元ごとに、「確認しよう」が設定されており、学んだことを復習し、知識の習得がしやすい設定になっている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成を通じて課題を探究する「よりよい社会をめざして」では、学習内容を生かして多面的、多角的に探究活動が行えるよう、教科書全体を通して課題の例が提示されている。また、その手順も詳しく記述されている。 		

種目名	社会（公民的分野）	発行者名	日本文教出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会、政治、経済、国際社会についての記述が多い。見開き2ページで構成され、1時間の学習の流れが示されている。 ・国際的な諸問題については、現代の地域紛争や核兵器の現状が地図で詳細に記載されている。軍縮への動きや資源・エネルギー問題、食糧問題等幅広く学習できるように構成されている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間「学習の活用」が設定され、学習内容を定着させるとともに、その知識を用いて現実の問題を解決することに取り組む問いかけが多数設定されている。 ・「読み取ろう・考えよう・伝えよう」「アクティビティ」「賛成・反対」で、思考力・判断力・表現力を養う言語活動コーナーが充実している。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・各編の冒頭に「ナビ」を配置し、学習内容を広い視野からとらえ、関心や意欲を高めるように工夫がされている。 ・「公民+α」のコラムでは、新しい事例や身近で話題性のある事例を紹介し、興味や関心を高める工夫がされている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「チャレンジ公民」では学習内容に関する事例問題を解決するページとして、主体的に学習を進められる課題が設定されている。 ・各単元の「学習の確認」で学習内容を振り返り、各章末の「学習の整理と活用」では、基本事項の振り返りだけでなく、関連ページを振り返り復習する課題が詳しく設定されている。また、どの分野でも、現代社会の「見方や考え方」を養うため、自ら考え判断し、自分の言葉で表現する課題が設定されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の整理と活用」の中の「合意を考えるための問題」では、日常の具体例をあげながら自分の意見をまとめるなどの活動が設定されている。また「私たちの課題」では視点を明確にしなが具体的テーマ例をあげ、主体的に現代社会の課題について考察できるよう工夫されている。 		

種目名	社会（公民的分野）	発行者名	株式会社 自由社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会についての記述が多く、時間ごとに学習内容の課題が設定されている。文字等の色使いを少なくし、全体的に見やすい工夫がされている。また、単元の終わりには、内容の要点が簡潔に示されている。 ・地域紛争に関しては、世界の対立・紛争地域の地図と宗教の分布図が並んで示されている。わが国の領域に関する課題や領土に関する問題が図や年表で説明されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ここがポイント」に記述してある要点が、なぜそのようになるのか、何が原因なのか等をまとめることで、学習内容をより深められる活動が設定されている。 ・「ディベートをやってみよう」では、ディベートを通して、社会の中でさまざまに生じる対立から合意を形成するための議論の仕方が例を挙げて紹介されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な学習内容を理解するための「もっと知りたい」を設け、わかりやすい問いかけにより、社会的事象について興味をもてるように図版が紹介されている。 ・「ミニ知識」では、これまで学習してきた人物や事柄についてくわしく説明することで、学習内容に関心をもち意欲的に取り組める工夫がされている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各章末の「学習のまとめ」で、重要語句を単元ごとに振り返り、まとめる課題が設定されている。 ・「学習の発展」では、さらに進んだ課題を自ら調べたり、考えたり、探究的な活動が設定されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題の探究」では、学習した知識を活用して、現代社会で起こっているさまざまな問題について、調べて考えをまとめるレポートや卒業論文の書き方を紹介している。特に「卒業論文」を書く特設ページでは、地理・歴史・公民分野の学習で培った力を活かして、「持続可能な社会」を築いていくための、自分の考えをまとめる課題が設定されている。 		

種目名	社会（公民的分野）	発行者名	株式会社 育鵬社
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会、政治、国際社会についての記述が多く、見開きの最初には、学習内容に関連した写真等の資料を設置して、学習活動に入りやすい構成になっている。 ・国際的な諸問題については、冷戦後の世界のテロ、核兵器をめぐる問題について記述されている。第二次世界大戦後の地域紛争や世界の核兵器拡散の状況が地図で示されている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、鉛筆のマークの箇所で学習のまとめが設定され、学習内容を自分の言葉で説明する力がつけられるように工夫がされている。 ・「やってみよう」で、現代社会をとらえる見方や考え方を身に付けられるよう工夫されている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・「理解を深めよう」では、人物の生き方から現代社会の課題を提示することで、学習内容をさらに深める内容が充実している。 ・章のはじめのページで、学習する内容の全体像をとらえる学習活動が見開きで示されており、興味や関心をもてるように工夫されている。また、その内容を学習する意義と学習を進める手順を示すことで、主体的・能動的に学習が進められる構成になっている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各章末の「学習のまとめ」の「重要語句の確認」で、学習した内容を活用しながら自分の言葉で表現する活動が設定されている。 ・「学習のねらい」に対応した「学習のまとめ」で発展的な問題が設けられており、具体例をあげて自分の考えをまとめるような活動が設定されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会科のまとめ」では、自分が内閣総理大臣になったと仮定して日本を持続可能な社会としてさらに発展させていくために、どのような政策を実行したらよいかを考える課題が設定されている。ウェビングマップを用いて全体像を把握したり、調査をしたり、レポートとしてまとめたりする方法などが紹介されている。 		

地 図

東 京 書 籍

帝 国 書 院

観点の内容 地図

社会 目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

観点 (「学ぶ力」向上にかかわるポイント)	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・地図から社会的事象を読み取ることができ工夫 ・地域の変化や関連が読み取れる内容 	<p>自分が得たい情報について、地図上に使用されている配色や記号などに着目させるよう留意する。</p> <p>見知らぬ地域を、地図を頼りにして訪ね歩く技能を身に付けられるよう留意する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の地図から地理的事象を読み取ったり、地理的事象を地図を通して追究し、とらえたりする内容 ・日本や世界にみられる諸事象をとらえ、地図を使って説明できるような内容 	<p>どのような地理的事象がみられるのか、地理的事象がなぜ地域にみられるのかが説明できるようになるよう留意する。</p> <p>略地図を描く技能を身に付け、略地図で位置を示すなど、地域の諸事情を地図化できる技能を身に付けさせるよう留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や写真、イラストなど、学習や日常生活の中に出てくる地名に関心を高める内容 	<p>学習したり日常生活に出てきたりする地名は日本のどこにあるのか、またそれらに出てくる人物が世界のどの付近を訪ね歩いたのかなど、その位置を確かめたいくなるよう留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容を生かして課題が設定され、自分で学習を進められる内容 	<p>課題の設定の仕方が、生徒の主体的な学習を促すことになるよう留意する。</p>
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・主題図や統計図などから、自ら課題を見付け、解決を考えるような工夫がされた内容 	<p>一般図や主題図、その他写真資料などの地理情報を十分に活用させるよう留意する。</p>

調査方法

種目名【 地図 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p>A 基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図に使用されている配色や記号など、社会的事象を読み取ることができる工夫について調べた。 ・地域の変化や関連が読み取れる地図の扱いについて調べた。
<p>B 思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の地図から地理的事象を読み取るためのヒントや手がかりなどの扱いや、地理的事象を地図を通して追究し、とらえたりする内容について調べた。 ・日本や世界にみられる諸事象をとらえ、地理的事象を説明するために使用されている地図の扱いや内容について調べた。
<p>C 学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や写真、イラストなど、学習や日常生活の中に出てくる地名に関心を高める内容や工夫について調べた。
<p>D 家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の端に書かれている問いなど、授業で学習した内容を生かした課題が設定され、自分で学習を進められる内容について調べた。
<p>E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主題図や統計図などから、自ら課題を見つけ、解決を考えるような工夫がされた内容や、世界が扱われている地図のページ数、日本が扱われている地図のページ数、世界の主題図の数、日本の主題図の数、世界の統計表の数、日本の統計表の数、世界のグラフの数、日本のグラフの数について調べた。

調査結果

地図

観点	A		B	C	D	E									
	基礎的・基本的な知識・技能	思考力・判断力・表現力	学習意欲	家庭学習につながる学習	自分で課題を設定し、見直しをもって進める学習										
研究調査事項	地図から社会的事象を読み取ることができる工夫	地域の変化や関連が読み取れる内容	既存の地図から地理的事象を読み取ったり、地理的事象を地図を通して追究し、とらえたりする内容	日本や世界にみられる諸事象をとらえ、地図を使って説明できるような内容	地図や写真、イラストなど、学習や日常生活の中に出てくる地名に関心を高める内容	授業で学習した内容を生かして課題が設定され、自分で学習を進められる内容	主題図や統計図などから、自ら課題を見つけ、解決を考えるような工夫がされた内容	世界地図のページ数（各州別地図含む）	日本地図のページ数（地方別地図含む）	世界の主題図の数（グラフ同時掲載含む）	日本の主題図の数（グラフ同時掲載含む）	世界の統計表の数	日本の統計表の数	世界のグラフの数	日本のグラフの数
発行者名															
東京書籍	○	○	○	○	○	○	○	31	42	127	145	10	7	36	36
帝国書院	○	○	○	○	○	○	○	31	40	136	149	8	7	48	42

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	地図	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一般図は落ち着いた配色でまとめられ、地図中に線で示される国境や地図記号などの情報を際立たせることで、情報を読み取りやすいよう工夫されている。 一般図は、歴史的な地域間のつながりや現代の生活上でのつながりを重視して配置されており、各地域の関連性について学べるよう工夫されている。 地域の変化が記号の大きさや色の違いによって細かく示されており、各地域について視覚的に変化がとらえられるよう工夫されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一般図に「注目したい記号」を示し、産業や地形の特徴について各地域の特徴をとらえる手がかりをつめるよう工夫されている。また、各主題図に記載されている情報は絞られており、学習の要点を端的につかめるよう工夫されている。 資料の読図のポイントや考察の視点、その後の掲載内容を示したキャラクターの吹き出しを設けることにより、土地利用と地形の関連や交通の特徴などの理解を促し、考察が深められるよう工夫されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 色分けしたインデックスを付けたり、テーマ資料を検索できる「資料さくいん」や関連の深い事項を検索できる「事項別さくいん」を設けたりするなど、学習内容に適した資料を探しやすくしている。さらに、一般図や主題図の中に、写真やグラフが掲載され、具体的に地理的事象をとらえやすくする工夫がされている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」の欄を設け、複数の資料を関連させながら調べていくことにより、生徒自身が行う学習に広がりや深まりをもたせるよう工夫されている。さらに、教科書の本文や資料を補完したり、より深める資料や写真が掲載されたりしており、家庭学習を進めやすいよう工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な統計情報を掲載することで、学習を補助し、考察できるよう工夫されている。 また、地図にイラスト、主題図に写真や解説を添えることで、地図の主題にせまれるよう工夫されている。 		

種目名	地図	発行者名	株式会社 帝国書院
観点	選定のための調査のまとめ		
<p style="text-align: center;">A</p> 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・一般図は、鮮やかな配色の段彩図が用いられ、土地の起伏がとらえやすいように工夫がされている。また、絵による記号を掲載し、その地の産業について具体的にとらえる工夫がされている。 ・地名を表す書体を大きく、太くすることで、読み取りやすいよう工夫されている。 ・地域の変化を示す主題図では、矢印や色彩を効果的に使い、その変化を視覚的にとらえやすいよう工夫されている。 		
<p style="text-align: center;">B</p> 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・主題図の回りに関連する写真やイラストが添えられ、地理的事象をイメージしたり、理解したりしやすいよう工夫されている。また、一般図の随所に「地図を見る目」、「やってみよう」の欄を設けることで、土地利用のようすや地域の歴史について考えたり、学習を進めたりできるよう工夫されている。 ・一般図と地域の産業や国境の変化、気候などについてまとめた主題図が併記されており、地形と各事象を関連付けて学べるよう工夫されている。 		
<p style="text-align: center;">C</p> 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・インデックスは、世界・日本・資料図・統計・さくいんのページの5種類に色分けされている。地図、資料ともに配色が豊かで、情報が視覚的にとらえやすくなっている。資料図ページの導入部には、立体的なイラストや絵による記号を用いた地域の大観図が掲載され、おおまかな地域の特色をつかめるよう工夫されている。 		
<p style="text-align: center;">D</p> 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・地図から読み取る学習活動や言語活動を促す「やってみよう」の欄や、地図を見るうえでの着眼点を示す「地図を見る目」の欄を設け、自分で学習を進める際の手がかりとなるよう工夫されている。また、主題図の他に統計、グラフが掲載されているため、地図帳全体を使って、より深く調べる学習に取り組めるよう工夫されている。 		
<p style="text-align: center;">E</p> 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・世界と日本の主題図および統計グラフを豊富に掲載し、自らが課題を見付け、解決を考える学習につながるよう工夫されている。また、主題図に「やってみよう」の欄を設けることで、生徒自身が学習の課題設定をしやすいよう工夫されている。 		

数 学

東 京 書 籍

大 日 本 図 書

学 校 図 書

教 育 出 版

啓 林 館

数 研 出 版

日 本 文 教

観点の内容 数学

数学 目標

数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し、表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを集感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

観点 (「学ぶ力」向上にかかわるポイント)	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数と式の教材や学習活動 ・図形の教材や学習活動 ・関数の教材や学習活動 ・資料の活用の教材や学習活動 ・必要に応じて電卓、コンピュータ等を適切に活用するなど、学習の効果を高めるよう配慮された内容 	<p>4領域「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」いずれにおいても、基礎的・基本的な内容の習得を重視するとともに、その背景にある原理・法則についての理解を図っていることに留意する。</p> <p>数値計算にかかわる内容の指導や、観察、操作や実験などの活動を通じた指導を行う際には、特に学習の効果を高めるよう配慮することに留意する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容を総合して問題を解決する学習 ・数学的な表現を用いて説明し伝え合う学習活動 ・数理的に考察し表現する能力を高める記述式の学習活動 	<p>言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり、論理的に考えたりして、自ら納得し、他者を説得できるように事実の説明、あるいは、理由や手順の説明の仕方を身に付けさせることに留意する。</p> <p>言語活動の充実や、学び合い活動が図られるように留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動の楽しさを実感できる内容 ・数学の必要性や有用性を実感できる設定 ・写真、図、表、挿絵、コラムなどの工夫 	<p>単に楽しく活動するという側面だけでなく、どのような知的成長がもたらされるかという質的側面にも目を向けるように留意する。</p> <p>数学をどのように活用するのか、その方法を身に付けることや、数学を活用して考えたり判断したりする機会を設け、その必要性や有用性について実感を伴って理解することができる教材や学習活動であることに留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・つまりきに対応した学習のできる内容 ・既に学習したことと関連する内容を意図的に再度取り上げた学び直しの設定 	<p>数学科は第1、第3学年が140単位時間、第2学年が105単位時間の授業時間で学習を進めることから、それを補充、深化、統合するような設定がなされ、主体的に家庭学習を進められるように留意する。</p>
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動への取組を促す課題学習の内容 ・自ら課題を見いだして構想を立て、実践、評価、改善する設定 	<p>ねらいや課題を明確にし、見通しをもって学習するとともに、振り返りを通して自らの課題や目標を確認することで、主体的に学習することができるように留意する。</p>

調査方法

種目名【 数学 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4領域「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」を扱っているページ数と、基礎的・基本的な内容を理解するために例題や問題等の設定の仕方、ノート指導などについて、どのように工夫されているかについて調べた。 ・ 電卓や情報通信ネットワークなどを適切に活用する等、学習の効果を高めるよう配慮されている箇所数を調べた。
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見いだして発展させる活動ができる箇所数を調べた。 ・ 筋道を立てて説明したり、自分の思いや考えを伝え合い、それらを共有したり質的に高めたりする学習活動が設定されている箇所数を調べた。 ・ 事実、方法、理由を問うことができるよう記述式の問題が設定されているかどうかについて調べた。
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的活動の楽しさを実感させる内容の設定があるかどうかについて調べた。 ・ 日常生活や学習のさまざまな場面で数学が活用されているよさがわかる箇所数を調べた。 ・ 写真や図、表、挿絵、コラムなどが、意欲を喚起する工夫がされているかどうかについて調べた。
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々のつまずきに対応した学習に取り組める内容のページ数と、その構成がどのように工夫されているかについて調べた。 ・ 既に学習したことと関連する内容を学び直しできる設定になっているかどうかについて調べた。
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各領域の内容を総合したり、日常の事象や他教科等での学習に関連付けたりした学びを深める内容のページ数と、その構成がどのように工夫されているかについて調べた。 ・ 調べる、見つけるためのモデルが示されているなど、それまでの学習成果を生かして自ら課題を見いだし進めることができる設定になっているかどうかについて調べた。

数学

観点	A 基礎的・基本的な知識・技能					B 思考力・判断力・表現力			C 学習意欲			D 家庭学習につながる学習		E 自分で課題を設定し、見直しをもって進める学習		
	数と式の教材や学習活動	図形の教材や学習活動	関数の教材や学習活動	資料の活用の教材や学習活動	必要に応じて電卓、コンピュータ等を適切に活用するなど、学習の効果を高めるよう配慮された内容	既習内容を総合して問題を解決する学習	数学的な表現を用いて説明し伝える学習活動	数理的に考察し表現する能力を高める記述式の学習活動	数学的活動の楽しさを実感できる内容	数学的活動の楽しさを数学の必要性や有用性を実感できる設定	写真、図、表、挿絵、コラムなどの工夫	つまずきに対応した学習のできる内容	既に学習したことと関連する内容を重点的に再度取り上げた学習の機会	数学的活動への取組を促す課題学習の内容	自ら課題を見いだして構想を立て、実践、評価、改善する設定	数学的活動への取組を促す課題学習の内容
研究調査事項 発行者名	1年生	96	66	36	21	33	25	33	○	○	10	○	38	○	50	○
	2年生	46	65	36	19	7	27	28	○	○	7	○	32	○	51	○
	3年生	82	78	30	13	19	32	24	○	○	6	○	37	○	58	○
	合計	224	209	102	53	59	84	85	△	△	23	△	107	△	159	△
東京書籍	1年生	112	78	38	24	11	32	26	○	○	12	○	40	○	57	○
	2年生	56	74	38	24	3	32	21	○	○	4	○	33	○	50	○
	3年生	90	88	34	16	22	34	15	○	○	6	○	31	○	65	○
	合計	258	240	110	64	36	98	62	△	△	22	△	104	△	172	△
大日本図書	1年生	113	70	37	27	8	23	42	○	○	6	○	41	○	56	○
	2年生	55	68	37	23	3	23	40	○	○	9	○	33	○	52	○
	3年生	87	85	34	17	34	32	32	○	○	6	○	46	○	65	○
	合計	255	223	108	67	45	78	114	△	△	21	△	120	△	173	△
学校図書	1年生	118	74	36	24	7	17	40	○	○	7	○	64	○	42	○
	2年生	56	76	38	20	6	16	27	○	○	7	○	49	○	44	○
	3年生	88	92	32	16	16	21	25	○	○	4	○	64	○	54	○
	合計	262	242	106	60	29	54	92	△	△	18	△	177	△	140	△
教育出版	1年生	92	64	32	23	12	24	39	○	○	7	○	58	○	58	○
	2年生	44	58	34	19	3	29	38	○	○	10	○	47	○	57	○
	3年生	74	80	28	13	15	34	43	○	○	7	○	66	○	68	○
	合計	210	202	94	55	30	87	120	△	△	24	△	171	△	183	△
啓林館	1年生	98	62	30	22	8	31	14	○	○	5	○	54	○	44	○
	2年生	48	62	34	17	4	25	21	○	○	7	○	49	○	38	○
	3年生	80	80	28	13	10	24	17	○	○	5	○	54	○	50	○
	合計	226	204	92	52	22	80	52	△	△	17	△	157	△	132	△
数研出版	1年生	109	62	42	23	5	21	26	○	○	9	○	45	○	43	○
	2年生	49	68	38	19	2	20	36	○	○	5	○	38	○	39	○
	3年生	81	78	34	17	11	19	33	○	○	3	○	55	○	44	○
	合計	239	208	114	59	18	60	95	△	△	17	△	138	△	126	△
日本文教	1年生	109	62	42	23	5	21	26	○	○	9	○	45	○	43	○
	2年生	49	68	38	19	2	20	36	○	○	5	○	38	○	39	○
	3年生	81	78	34	17	11	19	33	○	○	3	○	55	○	44	○
	合計	239	208	114	59	18	60	95	△	△	17	△	138	△	126	△

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	数学	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「例」「たしかめ」「問」の順で構成されており、「ちょっと確認」や「もっと練習」で既習内容を振り返り、段階的に学習できるようになっている。小節ごとに「基本の問題」という復習ページがあり、側注に関連するページを表示するなど、自分のつまずきをチェックできるよう工夫されている。 ノート指導に関しては、巻頭と本文中に「数学マイノート」を設け、模範例が示されている。さらに、本文の随所に「マイノート+ (プラス)」を入れ、ノートを書くときの注意や工夫例が明記されている。また、イラスト等を用いて電卓やコンピュータ等の利用を促す配慮が多数されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 章末や巻末に「活用の問題」を配置することで、既習内容を基に課題に取り組みやすいよう構成されている。また、答え方については、記述式による事実や方法、理由を説明する問題を設定し、数学的な思考力や表現力の育成が図られている。 「学び合い」と表示した言語活動を通して、数学的な思考力や表現力を伸ばす教材が設けられている。その側注には、問題解決の進め方を示し、学び方が身に付くような工夫が見られる。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心をひき、日常生活や学習のさまざまな場面に生かせるような課題が、各節の初めに設定されている。特に、1学年ではペットボトルキャップの題材から環境問題や社会貢献活動への意識が高まるよう工夫されている。 巻末の「社会とつながる」では、社会や職業上における数学の活用がコラム的に取り上げられ、数学の必要性や有用性が実感できるよう扱われている。 ソーラーパネルやシュレッターの題材から環境問題を考える記載が見られる。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各章末ごとに「章の問題A」「章の問題B」があり、「章の問題A」では基礎的な内容、「章の問題B」では発展的な内容が取り上げられており、個々の学習状況に応じて取り組めるよう設定されている。 巻末には「もっと数学しよう」が設定されており、1学年では小学校で既習した内容がまとめられたページやその内容に関わる問題があり、学び直しできるよう工夫されている。また、「補充の問題」では、基礎的な問題や少し難易度の高い問題も記されており、各単元で既習した内容をより深められるよう配慮されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「数学のまど」では、数学パズルや数学の歴史、他教科の内容と絡めながら、数学についての学びを深める内容になっている。 「レポートにまとめよう」「数学発見レポート」では、具体例を示しながら自分の考えをまとめる方法が説明されている。 巻末にある「社会とつながる」「数学を広げる」「教科とつながる」ページを基にして、自らが課題を見いだす構成になっている。2学年の「桜の開花日を予想しよう」を始め、実社会の生活、経済、文化、科学との関連の深い問題が設定されている。 		

種目名	数学	発行者名	大日本図書株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の学習内容を見開き2ページでまとめ、学習のねらいが明記されており、わかりやすい構成に仕上げられている。学習活動の後は「Q」で学習内容の定着を図ったり、「プラス・ワン」でより難しい問題に取り組んだり、個に応じた指導ができるようになっている。側注には「思い出そう」を設け、既習内容の振り返りができるよう工夫されている。 ・ノート指導に関しては巻頭に模範例が示されており、誤った解き方をノートに示した場合の修正の仕方など、具体的な使い方についても触れられている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容を活用する課題に「♡」と表示して、関連する内容のページに配置されているため、課題数も多く、取り組みやすく構成されている。章末の「考えてみよう」では発展的な問題を、本文中の「もっと数学」では学年をこえた内容が設けられている。 ・例題によっては「見いだそう」「利用しよう」「伝えよう」と表示して、予想したり、関連付けたり、説明する場面が設定されている。説明し合う活動や互いの考えを紹介し合う活動を取り入れることにより、数学における言語活動の充実が図られている。「挑戦しよう」では、記述式の説明をする活用問題が設けられている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・章末の「社会にリンク」、巻末の「Mathful」では、学習内容と日常生活とのつながりを実感させるコラムが取り上げられ、数学を学ぶことのよさを実感できるよう工夫されている。 ・「文字と式の利用」など、各章に利用の節を設けることによって、日常生活や学習のさまざまな場面への応用が示され、数学の必要性や有用性を実感させている。 ・1学年では、琵琶湖の水位に関わる問題が出されているとともに、水位計や大池寺（蓬萊庭園）についてのデータや写真が取り上げられている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各節末ごとに「練習」を設け、A、Bの2段階で構成されており、家庭でも習熟度に応じて取り組むことができるよう工夫されている。 ・巻末の問題は、各領域に分けられており、学習の状況に応じて取り組めるようになっている。特に、1学年では、巻末のページに「小学校の復習」が設定されており、既習の内容を学び直しすることができるようになっている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「挑戦しよう」では、学習したことを活用して課題解決を主体的に図る構成に、巻末の「もっと数学」では、学年の学習範囲をこえた内容が設定されている。 ・「研究をしよう」では、課題研究テーマの設定から発表までの流れが詳しく説明されている。それに引き続いて「レポートを書こう」で例を示しながら自分の考えをまとめる方法が説明されている。 ・巻末の「Mathful」では、数学が生活の中に生かされていることや数学の歴史等を学び、文化として数学を知り、生涯学び続ける態度を養えるよう工夫されている。また、領域別に分けられており、見やすい構成に設定されている。学習した内容と社会とのつながりを意識させ、自らが課題を設定し進める仕組みになっている。 		

種目名	数学	発行者名	学校図書株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小節ごとに目標が掲げられ、課題設定が明確にされている。「Q」「例」「問」の順で構成され、小節ごとに「確かめよう」があり、自分のつまずきがチェックできるよう工夫されている。数と式領域では「計算力を高めよう」を設け、習熟するに十分な問題数が用意されている。また、学習したことをさらに深めるための「トライ」も設定されている。 ・ノート指導に関しては、巻頭に模範例が示されているだけでなく、本文中にもノートを記入するときの注意が明記されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「クローズアップ」では、数学的な見方や考え方を深めるための課題や疑問に応えることのできる話題を示し、興味・関心を喚起する工夫が見られる。また、章末に「活用」「深めよう」と表示した発展的な内容が続けて配置されており、学びを深めやすくする構成がされている。 ・問題に「伝える」と表示して、ただ単に答えを述べるだけでなく、考え方等の説明を求めるようになっており、友達と話し合うような場面が盛んに設定されている。巻末の「さらなる数学へ」では、発表のしかた、発表の聞き方を提示することで、人に伝える方法、人の話を聞く方法といった基本的な学習の構えが身に付くような工夫がされている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・章の初めには、見開き2ページでイラストや写真が取り入れられ、操作的な活動が組み込まれており、興味・関心を引くよう構成されている。 ・巻末の「さらなる数学へ」では、数学の必要性や有用性を実感できるよう身の回りの事柄や他教科と関連づけて総合的に活用できる内容が取り上げられている。 ・太陽光パネルやペットボトルキャップ、ハイブリッド車などの題材を取り上げ、環境保護や社会貢献活動に興味をもたせている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域の導入時に、「ふりかえり」のページが設けられている。また、これまでに学習した内容をまとめたページがあり、学び直ししやすい工夫がされている。章末の「まとめの問題」は、「基本」「応用」「活用」の3段階で構成されており、学習の状況に応じて取り組めるよう設定されている。 ・巻末には、「1年の復習」など当該学年の復習があり、基礎・基本となる問題にはあらかじめ印が表示され、個々に習熟度に応じて取り組めるよう工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年で、ソーラーパネルによって発電された電力、消費した電力、余剰電力の関係を取り上げるなど、学習した事柄を日常生活に関連付けた内容を取り上げ、課題発見できるページが設けられている。 ・巻末の「表現する力を身につけよう」では、レポート作成の手順や具体例、レポート発表の仕方など学習の構えについても触れ、課題発表しやすくなっている。 ・「課題学習・自由研究」のページでは、当該学年で学習する範囲をこえた内容も含み、自ら課題を設定し進める構成になっている。 		

種目名	数学	発行者名	教育出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「Q」「例題」「たしかめ」「問」の順で構成され、小節ごとに目標も掲げられており、課題設定が明確である。小節ごとに「基本のたしかめ」があり、学んだことが定着しているか小まめに確認できる。「もどって確認」では既習内容を振り返ることで学習のつまずきに対応している。章末問題の前に、「学習のまとめ」で1つの章のまとめ事項を穴埋め形式で復習することで、基礎・基本の定着が図られている。 ・ノート指導に関しては、巻頭に異なる領域についてのノートの書き方が例示されており、学習後の振り返りの大切さについて触れられている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「チャレンジコーナー」「数学の広場」と表示し、既習内容を活用して取り組む課題が記載されている。「ジャンプ」のページでは、発展的な学習として学年の範囲をこえた内容が設けられている。 ・「伝えよう」や「話し合おう」と表示し、答えを求めるだけでなく、説明したり話し合ったりする場面が設定されており、表現能力を高める工夫が見られる。さらに「みんなで数学」では、具体的な授業の展開を例示し、自分の考えを伝えたり、話し合ったり、説明をまとめたりする活動が促されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・章末の「数学の広場」では、日常生活に関連付けた内容が取り入れられている。 ・各章の初めには、数学の必要性や有用性を実感できるよう身近な生活の中の題材が扱われている。特に、1学年では、ペットボトルキャップの題材から、環境問題や社会貢献活動を考える記載が見られる。 ・写真よりもイラストを用いる傾向が見られるが、1学年で琵琶湖の水位計の写真は扱われている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各章末に「学習のまとめ」「章の問題」があり、巻末にも「たしかめの補充問題」が設けられており、家庭でも繰り返し学習することができるよう工夫されている。特に、「たしかめ補充問題」は、各章ごとにまとめられて学習しやすく、数と式領域の問題を中心に充実している。 ・各章の初めに、その章に関連のある既習内容を振り返るページが設けられており、学び直しをスムーズに進めることができるよう工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年の「比例の関係を使っておよその面積を求めてみよう」や、2学年の「印刷枚数と印刷料金の関係を調べよう」など、日常生活に関連付けながら課題発見につながるような内容が盛り込まれている。 ・レポートのまとめ方については、1学年の資料の活用領域に組み込まれており、ポスター発表のまとめ方についても触れられている。 ・「自由研究」では、3学年の「石取りゲームの必勝法」や「電話連絡網をつくろう」など、興味・関心を引く課題を取り上げ、既習内容をさらに深め、主体的に探究学習が進められるようになっている。 		

種目名	数学	発行者名	株式会社 新興出版社啓林館
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「例」「問」、そして、小節ごとの「練習問題」の順で構成されており、見開きでゆとりをもって取り組める問題設定になっている。巻末では、「くり返し練習」や「まとめの問題」を通して、個に応じた学習ができるようになっている。「ふりかえり」で既習内容を示すことでスパイラルに学習ができ、新しい内容も理解しやすいよう工夫されている。 ノート指導に関しては、巻頭に手書きノートを基に模範例が示されており、他者に対してわかりやすくまとめることの大切さについて触れられている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を活用し、論理的に考える力・工夫する力・連想する力などを身に付けるため、章末ごとに「千思万考」が設定されている。また、巻末には発展的な内容として、「ひろがる数学」「数学を通して考えよう」が設けられ、図やイラストを取り入れて思考力・判断力の育成が図られている。 表現力の育成をねらいとして問題に「自分のことばで伝えよう」を表示して自分の考え方や理由を述べる活動が盛んに設定されている。「みんなで話しあってみよう」では、いろんな考え方を知り、他者の意見を取り入れ、互いに高め合う活動が設定されている。「自分の考えをまとめよう」では、記述させることで表現力を高める活動が設定されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各節の初めに、数学的活動を取り入れた「学習のとびら」を設定することで、興味・関心をもって主体的に取り組めるようになっている。また、1学年では、「ナースウォッチのしくみ」の題材を取り上げて身近な生活との関連が図られている。 巻末の「数学広場」や別冊「Math Naviブック」では、数学を活用する教材を取り上げ、数学の必要性や有用性が実感できるよう工夫されている。 1学年では、「数学展望台」で、京滋での洪水被害状況の新聞記事の中で、琵琶湖の水位データ、また、近江神宮の古代火時計についての仕組みが取り上げられている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 章末に「基本のたしかめ」「章末問題」が設定され、習熟度に合わせて家庭でも繰り返し学習できるよう構成されている。特に、「基本のたしかめ」は、側注に該当ページが示され、理解が不十分な場合には振り返って学習できるよう工夫されている。 「Math Naviブック」は別冊化されて扱いやすく、各章の学習に入る前に既習内容の復習もでき、理解を深める学び直しができるよう工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 巻末「数学広場」で時差を求める方法や、別冊「Math Naviブック」で地震のP波、S波の速さを求める問題など、他教科とも関連付けが図られている。 各学年でレポートについて触れられているが、1学年の資料の活用領域で、資料整理からレポート作成に至るまで詳細に解説されている。 別冊「Math Naviブック」の「自由研究に取り組もう」では、数学を活用して解決することを呼びかけ、他領域の内容を組み合わせることで課題学習できる構成になっている。 		

種目名	数学	発行者名	数研出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小節ごとに「ここで学ぶこと」が明記されて学習課題が明確になっている。また、「例」に対して細かに「問」が取り入れられている。さらに、「確かめよう」で補充的に問題に取り組むことができ、学習の定着が図られている。巻頭の「クイックチャージ」では前学年までの学習のまとめがあり、すぐに振り返りができ、既習内容について想起できるようになっている。 ・ノート指導に関しては、巻頭に模範例が示されているだけでなく、本文中にも「NOTE」と表示し、ノートを書く上での注意点が明記されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「考えよう」「やってみよう」では、思考力を高めることをねらいとし、既習内容を基にして自ら進んで取り組める工夫が取り入れられている。チャレンジ編「深めよう！」では、応用力や理解力が高まるような問題が設けられている。「発展」では、学年の学習範囲をこえた内容が盛り込まれ、意欲に応じて扱うことで、より深く学べるよう工夫されている。 ・問題によって「見つけよう」「活用しよう」「伝え合おう」を表示し、既習内容を基に数や図形の性質を見いだす活動、具体的な場面で利用する活動、自分の考えを伝えたり、説明をまとめたりする活動が設けられている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を喚起するため、章の初めは見開き2ページで、日常生活に関わる写真やイラストを取り上げる工夫がされている。 ・巻末の「数学探検」を設定することで、数学の必要性や有用性を実感させている。特に、1学年の「琵琶湖の水位」、2学年の「LED電球はお得？」の題材では、環境問題を意識させる記載が見られる。 ・1学年では、琵琶湖の水位についての写真や詳細なデータを取り上げ、時間をかけて学習に取り組める問題が設定されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各章末には「基本問題」「問題A」「問題B」が設定されており、「基本問題」では、その章で身に付けたい基礎的な問題が取り上げられ、続いて「問題A」と「問題B」で難易度の違いをつけた問題が設定され、家庭学習しやすい工夫がされている。 ・巻末の「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」では、各章ごとに「基本のまとめ」「確認しよう！」「深めよう！」があり、基礎的な問題から応用問題まで習熟度に合わせて学習を進めることができるようになっている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末の「数学探検」では、日常生活に密着した話題や、他領域の中にひそむ数学を探しながら学びを深める内容になっている。2学年の電気料金「LED電球はお得？」等は実生活に基づいており、家庭での節電対策など課題に広がりをもてる内容になっている。 ・「数学探検」の内容をさらに深め、レポートにまとめることも可能である。 ・各学年「チャレンジ編」の最後に「知識を活用しよう」が設定されている。当該学年で身に付けた知識や考え方を活用し、身の回りの課題解決を図る内容になっている。 		

種目名	数学	発行者名	日本文教出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・2ページで1時間の学習を原則とし、「Q」「例」「問」で構成され、ねらいも明記されている。小節ごとの「基本の問題」では、自分のつまずきがチェックできるような評価の観点が表示されている。さらに、側注に「チャレンジ」問題が設けられており、時間にゆとりがある場合に自分で取り組めるよう工夫されている。 ・ノート指導に関しては、巻頭に模範例が表示されており、イメージキャラクターを登場させて親しみやすく仕上げられている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容を活用する場面として「やってみよう」の課題を設定し、さらに深めたり発展させたりする課題として「深める数学」を適宜設けているため、数学を利用しようという態度を養う工夫がされている。 ・問題によって「説明しよう」や「話し合おう」と表示し、方法や理由などを説明する場面や話し合う場面が設定され、思考力や表現力の育成が図られている。また、章末ごとに「説明できるかな？」があり、記述式の問題が設けられている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・章の初めは、見開き2ページで、中学生のキャラクターの会話をもとに、疑問をもたせて主体的な学びができるよう構成されている。 ・章末の「生活への利用」では、数学の必要性や有用性を実感できるような身の回りの諸問題を解決する題材が提示されている。また、ペットボトルキャップやLED電球の題材から、環境問題や社会貢献活動を考えさせる記載が見られる。 ・1学年では、琵琶湖の湖面の高さだけでなく、湖の深さにも目を向けることにより、多様な問題が設定できるよう示されている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・章末には「くり返し練習」「章のたしかめ」「とりくんでみよう」が設定され、特に「くり返し練習」では、家庭学習を促す表示があり、学習習慣を定着させるために工夫されている。「力をのばそう」では、A問題は基本的な振り返りを、B問題は活用力を伸ばせるよう設けられている。 ・各章の初めに「学ぶ前に」が設定されており、家庭学習で既習内容を思い起こしてから新しい学びに入ることも想定されている。特に、1学年では、「学ぶ前に」と、巻末の「算数をふりかえろう」は関連付けられており、学び直しがしやすいよう配慮されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・章ごとの「生活への利用」では、1学年のペットボトルキャップとワクチンの関係、2学年の高度と気温の関係、3学年の中学生の睡眠時間の調査など、興味・関心から、さらに新しい課題学習に取り組めるよう設定されている。 ・「数学レポートをかこう」では、レポートの例を示しながら書き方がまとめられている。さらに、1学年の資料の活用領域でも、調査結果を基にしたレポート例が表示されている。 ・巻末の「数学研究室」では、日常生活や他教科と関連付けた題材について詳しい説明があり、それをもとに探究的な学習が進められるよう工夫されている。 		

理科

東京書籍

大日本図書

学校図書

教育出版

啓林館

観点の内容 理科

理科 目標

自然の事物・現象に進んでかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

観点 (「学ぶ力」向上にかかわるポイント)	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 科学的に自然を探究する能力の基礎と態度を育てる教材や学習活動 必修の観察、実験 観察、実験の基礎的な操作や事故防止などの安全に関する記述 	<p>観察、実験によって科学的に検証する課題を適切に設定しているか留意する。また、観察、実験を行うことを通して基礎的な技能と知識を習得させ、安全への配慮など、適切な教材や学習活動が設定してあるかどうか留意する。</p> <p>各分野におよそ同程度の授業時間を配当すること、各分野の特徴的な見方や考え方が互いに補い合っって育成されるようにすること、十分な観察や実験の時間、課題解決のために探究する時間などを設けるようにすることに留意する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> 観察記録や実験データを絵や文、表やグラフに表す活動を示した内容 結果を分析して解釈し表現する力を高める学習活動に関する記述 科学的な言葉や概念を使って説明する学習活動 	<p>観察、実験の結果を考察する力を養う教材や学習活動が設定してあるかどうか留意する。実験の結果から考察する過程を重視し、レポートを作成する学習活動を行うことに留意する。</p> <p>また、観察や実験の結果を分析して解釈し表現する力を高める活動を行い、予想や仮説と関連付けながら言語化し、発表や話し合う活動を行うことに留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象について関心を高める内容 科学技術の利用にかかわる記述や科学史の記述 実生活や実社会との関連についての記述 探究的な活動を行うことで、課題解決への意欲を高める工夫 	<p>科学的な見方や考え方を育成するために、自然の事物・現象について関心を高めるため、科学技術と日常生活や社会との関連を重視したりする学習の充実が図られているかに留意する。</p> <p>また、野外での探究する活動などを効果的なものとするためには、地域の自然環境の実態をよく把握し、その特性を十分に生かすことが重要であることに留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> 自ら家庭学習として取り組める課題 単元ごとや章末の練習問題 学習内容を整理する工夫 	<p>学ぶ力の向上を図るためには、学びの姿勢や態度を育み、意見や考えを交流するよう授業を改善し、主体的な学びとなる家庭学習を促すことが必要であることに留意する。</p> <p>生徒の関心や意欲に従い、興味をもって予習や復習がしているよう、適切な配慮がなされていることに留意する。</p>
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境の調査、自然の恵みと災害に関する調査活動、科学技術の利用に関する調査活動などの記述 自由研究や課題研究の記述 時間があれば取り組みたい観察、実験 	<p>自然の事物・現象について関心を高め、生徒自身が問題を見いだし、意欲的に探究する活動を行う教材や学習活動を重視した教材・内容であることに留意する。継続的な自然観察などの科学的な体験の充実が図られているかに留意する。</p> <p>自由研究などによって、生徒が自ら科学的に検証できる課題を適切に設定しているかに留意する。</p>

調査方法

種目名【 理科 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的に自然を探究する能力の基礎と態度を育てる教材や学習活動についての導入などを、どのように工夫しているかについて調べた。 ・必修の観察、実験について箇所数を調べた。 ・観察、実験の基礎的な操作や事故防止などの安全に関する記述について調べた。
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・観察記録や実験データを絵や文、表やグラフに表す活動を示した内容の箇所数を調べた。 ・結果を分析して解釈し表現する力を高める学習活動に関する記述についてどのように工夫しているか調べた。 ・科学的な言葉や概念を使って説明する学習活動について箇所数を調べた。
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象について関心を高める内容について調べた。 ・科学技術の利用にかかわる記述や科学史の記述について箇所数を調べた。 ・理科で学習したことと実生活や実社会との関連についての記述の箇所数を調べた。 ・野外での探究する活動などを効果的に行うことで、課題解決への意欲を高めるなどの工夫について調べた。
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら家庭学習として取り組める課題について調べた。 ・单元ごとや章末の練習問題について調べた。 ・学習内容を整理する工夫について調べた。
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の調査、自然の恵みと災害に関する調査活動、科学技術の利用に関する調査活動などの記述について箇所数を調べた。 ・自由研究や課題研究の記述について調べた。 ・時間があれば取り組みたい観察、実験について箇所数を調べた。

調査結果

理科

観点	A 基礎的・基本的な知識・技能		B 思考力・判断力・表現力		C 学習意欲				D 家庭学習につながる学習			E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習					
	科学的に自然を探究する能力の基礎と態度を育てる教材や学習活動	必修の観察、実験	観察、実験の基礎的な操作や事故防止などの安全に関する記述	内容	観察記録や実験データを絵や文、表やグラフに表す活動を示した	結果を分析して解釈し表現する力を高める学習活動に関する記述	科学的な言葉や概念を使って説明する学習活動	自然の事物・現象について関心を高める内容	科学技術の利用にかかわる記述や科学史の記述	実生活や実社会との関連についての記述	探究的な活動を行うことで、課題解決への意欲を高める工夫	自ら家庭学習として取り組める課題	単元ごとや章末の練習問題	学習内容を整理する工夫	自然環境の調査、自然の恵みと災害に関する調査活動、科学技術の利用に関する調査活動などの記述	自由研究や課題研究の記述	時間があれば取り組みたい観察、実験
研究調査事項 発行者名	1年生	○ 25	○ 23	○ 25	○ 20	36	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	31
	2年生	○ 22	○ 16	○ 24	○ 39	65	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18
	3年生	○ 18	○ 21	○ 27	○ 39	82	○	○	○	○	○	○	○	12	○	○	24
	合計	65	60	70	98	183											73
	東京書籍	1年生	○ 28	○ 34	○ 16	○ 16	44	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大日本図書	2年生	○ 27	○ 22	○ 13	○ 22	72	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	34
学校図書	3年生	○ 20	○ 18	○ 20	○ 21	96	○	○	○	○	○	○	○	11	○	○	25
教育出版	合計	75	74	49	59	212											92
啓林館	1年生	○ 23	○ 29	○ 27	○ 26	56	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	23
教育出版	2年生	○ 23	○ 18	○ 13	○ 39	88	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
啓林館	3年生	○ 18	○ 23	○ 16	○ 53	114	○	○	○	○	○	○	○	5	○	○	19
啓林館	合計	64	70	56	118	258											56
啓林館	1年生	○ 24	○ 33	○ 21	○ 15	52	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	29
啓林館	2年生	○ 27	○ 24	○ 9	○ 24	69	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13
啓林館	3年生	○ 23	○ 21	○ 12	○ 33	124	○	○	○	○	○	○	○	8	○	○	13
啓林館	合計	74	78	42	72	245											55
啓林館	1年生	○ 23	○ 35	○ 13	○ 29	35	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	34
啓林館	2年生	○ 22	○ 34	○ 21	○ 36	55	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	27
啓林館	3年生	○ 22	○ 31	○ 22	○ 39	122	○	○	○	○	○	○	○	14	○	○	24
啓林館	合計	67	100	56	104	212											85

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	理科	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入は見開き2ページとし、各章では、冒頭と章末で同じ問いかけをする「before & after」が設けられ、各章の学習で自己の考えの変容を自ら評価できるようになっている。 「観察(実験)の目的」欄が設けられており、目的意識をもって主体的に観察、実験に取り組める工夫がされている。 観察、実験を正しく安全に行うために器具の扱い方を「基礎操作」、活動中の注意事項をマークにして表示されている。発展的な実験にも丁寧に注意事項が示されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験のまとめ方やレポートの書き方の例は精選されており、吹き出しなどで結果から考察を導けるような視点を明確にしている。 「比べよう」「予想しよう」「推測しよう」「調べ方を考えよう」など活動のねらいがわかりやすいように示されている。また、クラスや班の中での意見交流の例を示されており、探究活動の参考になる。 「学びを活かして考えよう」の欄が設けられ、特に話し合いによって探究が必要な内容には話すマークがつけられている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「レッツトライ」では、学習前に身の回りの事象について考えさせる活動が掲載されており、学ぶ意欲が高まる工夫がされている。また、単元の終末ごとに学習内容に関わる書籍が紹介されており、興味・関心を高める工夫がされている。 単元末ごとに日本人の優れた研究や伝統を取りあげた特集コラムでは、日本が世界に誇る科学技術が紹介されている。科学史に関する記述は、巻末資料として人物名とその功績がまとめて掲載されている。 「科学でGO!」「ニッポンの科学」で、学習内容と日常生活・社会・職業との関連を示し、科学の有用性を感じられるよう工夫されている。また、他教科との関連を示し、知識に広がりやつながりをもたせる工夫もされている。 校外施設やジオパークの写真など、生物的、地学的環境への理解を深める要素が紹介されている。また、継続的な観察について詳しく記述されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの「学びを活かして考えよう」では生活に密着した事象により興味をもって課題に取り組み、学習内容が深まるように工夫されている。 章末の「チェック」で基礎的な知識の確認をし、「学んだことをつなげよう」で表現力を養い、単元末の「確かめと応用」では知識の定着を図り、「確かめと応用活用編」では思考力や表現力が身に付く構成になっている。 単元末の「学習内容の整理」では、学習内容と基礎的な用語が整理されている。基礎的な用語ごとに本文のページが記されており、本文での振り返りができるように工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然環境調査の方法では、土壌動物も取り上げ、具体的に示されるなど調査の観点や考察のポイントが詳しく記述されている。 「学びを広げようー自由研究」では「科学の本だな」で参考になる図書を紹介することで、テーマに沿って見通しをもちながら学習を進める工夫がされている。 「どこでも科学」には家庭でもできる観察や実験が掲載され、体験を通して科学的な思考や技能が身に付くようになっている。 		

種目名	理科	発行者名	大日本図書株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入は3ページとし、既習内容を振り返るとともに、単元で学習することが見通せるように工夫されている。 多くの実験が設定されている。目的意識をもって観察、実験を行うように、予想したり、着眼点を確認したりするように工夫されている。 観察、実験を正しく進められるように注意事項に加えて「コツ」でアドバイスが示されている。器具の操作や注意事項を効果的に色づけして表示されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験の結果を表や図・グラフにまとめる活動が示されている。「結果例」として具体的な例を掲載し、結果を分析、解釈する活動を通して表現力を高められるように工夫されている。 「わたしのレポート」により、レポートを作成する活動や自分の考えをまとめる活動のヒントが詳しく示され、主体的な学習が進められるように工夫されている。 「やってみよう」「話し合ってみよう」では、観察、実験の結果をもとに考察し、話合いながら原理や法則を探究していく活動を取り上げている。また、研究のまとめや発表の場面を示して、積極的な言語活動を促している。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題の直後に「やってみよう」が掲載されている。学習課題を解決していく手がかかりとなる活動を通して、意欲的に学習に取り組めるよう工夫されている。 3学年の巻末では、歴代のノーベル賞受賞者名とその功績および最先端の研究の一部が掲載されている。さらにノーベル物理学賞を受賞した小林誠氏のメッセージを掲載し、理科を学ぶ意義について紹介されている。 「くらしの中の理科」「トピック」「プロフェッショナル」で、学習内容と日常生活や仕事との関連を示す資料が詳しく記述され、理科学習の意義や有用性を実感できるよう工夫されている。各分野で健康や安全について、体を守る内容も取り入れられている。 野外観察については具体的な方法を言葉と絵で示し、自然の営みを破壊しないためのマナーについても記述されている。また、野外観察や施設観察の紹介で自然体験活動を促す工夫がされている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習単位ごとの「問い」では、基礎的・基本的な事項の確実な習得ができるような問題が設けられており、その解答が明示され反復学習に活用しやすくなっている。 章ごとの「章末問題」、単元のまとめ「単元末問題」で、知識の定着をはかり、「読解力問題」により思考力や表現力が身に付くように構成されている。3学年の巻末には1、2学年の復習「学習のまとめ」が設定されている。 単元末の「まとめ」では、本文での重要語句が整理されている。また、キーワードの欄では、重要語句が説明できるかチェックでき、振り返りができるように工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの環境を調べ、持続可能な社会にする方法を考えさせる内容を取り上げるなど、自分で課題を設定して、学習内容を深める工夫がされている。 「課題研究・自由研究にチャレンジしよう」として、身近な研究課題が提示されている。テーマごとに写真や図表、挿絵が効果的に掲載され、視覚的にとらえやすいように工夫されている。 「やってみよう」が多く設定され、日常生活で使っているものを用いた活動によって、自然に対する総合的なものの見方を養う工夫がされている。 		

種目名	理科	発行者名	学校図書株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入は3ページとし、既習内容の振り返りとこれからの学習内容を示したページに分け、二つの関連を示しながら学習内容の系統性がわかるようになっている。 観察、実験の課題を?マークを用いて明示し、目的をはっきり意識できるように工夫されている。 観察、実験の操作や事故防止に関する内容・説明が詳細にわたって記載され、注意喚起を促し、正しく安全に活動できるように工夫されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験の結果を表や図・グラフに表す活動が示されている。「結果例」を設定し、結果から分析して解釈する活動の充実が図られている。「チャレンジ」では発展的な課題へと探究心を高める工夫がされている。 「結果」「考察」のまとめ方のポイントが丁寧に示されている。また、全ての観察、実験で「結果例」「考察とまとめ」が書かれており、レポートをまとめる時の参考になる。 活用力や表現力を問う場面では、活用マーク、表現マークを用いて、意識して取り組めるように工夫されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容と関連する話題を掲載した「科学の窓」「資料」では、各学年においてノーベル賞を受賞した科学者の功績について触れ、学習内容とのつながりが紹介されている。 各単元末には、学習内容と関連した職業の紹介を「科学を仕事に活かす」で掲載されている。科学技術や職業に関連する記述が多く、学習内容に興味・関心をもち、科学を学ぶ大切さを実感させるような工夫がされている。 「科学の窓」「なっとく!」「ことば」で、地域や季節に関する特有の現象や言葉が多く記載され、学習内容をより身近に捉えられるよう工夫されている。 野外観察では、観察のポイントや継続観察についての記載の他、生命と自然を大切にすることを記述されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元のはじめの「これまで学んできたことをチェックしよう」で小中学校での既習内容を振り返り、「問い」では基礎的・基本的な知識の定着から思考力や表現力を養う幅広い課題が設定されている。 章末の「学習の確認」では知識だけでなく表現力を養い、「単元末問題」で知識の再定着を図り、「活用しよう」で思考力・表現力が身に付くように構成されている。各学年末に「まとめの問題」が設定されている。 野外観察では、観察の具体的なポイントが記述されている。特に、継続観察は目次のページでも取り上げ、計画的に実施できるよう工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自然の恵みと災害について、地域の防災の取組を具体例にあげ、詳しく記述されている。また、複数の課題を設定し、インターネットのアドレスを紹介するなど調べ方についても工夫がされている。 各学年の巻末の「自由研究の進め方」の最後の項目に「発表する」があり、言語活動の充実が図れるようにされている。 「チャレンジ」では、主体的に取り組める実験やものづくりが掲載されている。また天気単元では、各地域の天気に関することわざに触れることで、探究心と日本の伝統を尊重する態度を養う工夫がされている。 		

種目名	理科	発行者名	教育出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入は2ページとし、章ごとに導入のページがある。学習内容と関連する写真が掲載され、学習内容に関わる疑問が示されている。 観察、実験では、課題が提示され、「話し合おう」や「考えてみよう」で、実験結果の予測や仮説を考えて実験を行えるように工夫されている。 観察、実験のページにマークが示されており、注意事項は手順に従って図やキャラクターを用いて記載されている。発展的な実験についても注意事項が詳細に表示されている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験の結果を表にまとめる活動が多く掲載され、「わたしのレポート」としてレポートの書き方・まとめ方の例により、論理的に考察し表現する学習が充実している。 全ての観察、実験で考察の記述が実験のページに対応してまとめられ、探究活動をしていく上で参考になる。 学習を深めていく場面では、「話し合おう」や「考えよう」、「活用しよう」を設けて、説明する活動を意識して取り組めるように工夫されている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> 本文以外にも学習内容の説明を補足する脚注や図、表が掲載され、自然の事物・現象への理解が深められるように工夫されている。興味・関心に応じて活用する「発展」では、高等学校での学習を含む内容が随所に提示されており、発展的な学習ができるように工夫されている。 科学技術と生活・安全・歴史・環境の4つのテーマを関連付けたコラムの中で、科学技術の利用について丁寧に解説されており、理解を深めるための内容が示されている。 「ハローサイエンス」「～の利用」で科学の話題提供が豊富である。また掲載されている写真や資料も身の回りのものが多く、科学と日常や様々な事物現象との関わりを意識し、科学を学ぶ意義や有用性を実感できるよう工夫されている。 五感を使った観察の具体的な説明や、生命尊重、安全面や環境保全に関する記述がされている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> 「考えよう」や「活用しよう」では学習したことを日常生活や応用的な問題に生かせるよう工夫されている。特に「活用しよう」では文章で記述させることにより表現力を高められるようになっている。 「要点をチェック！」や単元末「基礎・基本問題」で知識の定着を図り、「応用・活用問題」で思考力や表現力が身に付く構成となっている。各学年末には「総合問題」及び「理科で使う算数・数学」が設定されている。 単元末の「要点と重要用語の整理」では、本文で強調される重要語句が整理され、学習内容を確認できるように配慮されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> 水生生物による水質調査やスマートフォンに利用されている科学技術などが詳しく記述され、身の回りの環境や科学技術の利用について探究的な学習を深める工夫がされている。 各学年の巻末の「自由研究」ではそれぞれの研究課題の見出しの下にキーワードが記載されていて、既習の内容を深めながら取り組むことができる。 時間があれば取り組みたい観察、実験では、各観察や実験の方法について流れ図を使って説明されており、操作の手順がわかりやすい工夫がされている。 		

種目名	理科	発行者名	株式会社 新興出版社啓林館
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入は2ページとし、「単元のねらい」をフローチャート形式で示し、見通しをもって学習に取り組める工夫がされている。 観察、実験では、「目的」を設け、目的をもって取り組めるようにしている。方法には「ステップ」を設けて、手順が理解しやすくなっている。 安全に関する注意事項をマークと語句で表示し、詳しく記載されている。「ポイント」として観察、実験を正しくすすめるためのアドバイスが示されている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験の結果を表や図にまとめる活動を多く提示し、表現活動の充実を図っている。別冊「マイノート」では、基本的な観察、実験の結果をもとにして発展的に考察を深められる課題を記載し、思考力・探究力を深める工夫がされている。 観察、実験で「結果」と「考察」のポイントを明確に示し、「結果」をもとに「考察」していくという流れが定着するように工夫されている。 「予想してみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」を適所に設定し、思考を広げたり深めたりするとともに表現力が培われるように工夫されている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> 「つながるページ」で、同学年の関連するページが記されており、学習内容のつながりを認識し、興味・関心を高めるように工夫されている。「サイエンストラベラー」には、地域特有の自然環境や伝統的な科学技術を全国にわたって紹介している。 単元の終末ごとに、その単元から発展した最新の科学技術やエネルギー、防災・減災などを取り上げた「ひろがる世界」が掲載されている。 「なるほど」「ぶれいく time」で実社会や実生活との関連を紹介し、生涯を通して意欲的に理科を学び続ける動機づけとなるよう工夫されている。「部活ラボ」で、中学生の日常生活と科学の有用性を、「ひろがる世界」で日本の技術のグローバル化が実感できるよう記載されている。 生物や地質の観察のポイント、各地域の理科に関する話題や学校外施設の利用紹介など、自然の豊かさや多様性に継続的に触れられるよう記載されている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> 「ふり返り」で小中学校での既習内容を振り返り、「考えてみよう」で学習内容を定着させ、「活用してみよう」で学習が深まる構成になっている。教科書、別冊ともシートで反復学習できるように工夫されている。 章ごとに「基本のチェック」単元ごとに「力だめし」、学年末には「学年末総合問題」「理科でよく使う算数・数学」が設定されており、幅広い問題が記載され、全て別冊に集約されている。 単元末の「学習のまとめ」では、色弱の生徒に配慮し、巻末の青色シートを使って重要語句を確認できるように工夫されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題や災害、科学技術の利用に関する調査活動などの記述が多く、レポートの具体例が詳しく解説され、自ら課題に取り組む学習活動を重視した内容となっている。 各学年の巻末にある「きみも科学者」では、レポートのまとめ方を確認するページがあり、参考文献の明示のしかたなど、まとめる力や表現する力を高める工夫がされている。 「ためしてみよう」では、身近な材料を使ったものづくりを通して、学習を深める課題が設定されており、実感を伴った理解を促す工夫がされている。 		

音樂（一般）

教育出版

教育藝術社

観点の内容 音楽(一般)

音楽 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

観点 (「学ぶ力」向上にかかわるポイント)	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱の技能に関する内容 ・創作の技能に関する内容 ・我が国の伝統音楽や、音楽文化に関する内容 ・鑑賞の知識・理解に関する内容 ・表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要な〔共通事項〕に関する内容 	<p>発声や発音、音楽をつくる技能など、表現に必要な技能や、鑑賞の知識・理解を身に付けられるよう留意する。</p> <p>日本の伝統音楽について、風土や文化・歴史についても理解を深められるよう留意する。</p> <p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、音楽に関する用語や記号等について音楽活動を通して理解できるように留意する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想、声部の役割や全体の響きを感じ取り、思いや意図をもつて表現を工夫する学習活動 ・言葉や音階などの特徴を感じ取り、旋律や構成を工夫してつくる学習活動 ・音楽のよさや美しさなどを言葉で説明したり、根拠をもって批評したりする内容 	<p>歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きを感じ取りながら、思いや意図をもつて曲にふさわしい表現を工夫できるように留意する。</p> <p>試しながら工夫したり、学習の過程や成果を発表し合ったりするなど、音楽をつくる楽しさや喜びを味わえるよう留意する。</p> <p>音楽のよさや美しさを味わい、音楽の構造などを根拠として述べたり、感じ取ったことや考えたことを言葉で表したりできるように留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱教材、創作教材、鑑賞教材の内容、発展的な学習内容 ・表現領域と鑑賞領域に関連付けた学習活動 ・音楽と生活とのかかわりに関する内容 	<p>生活を明るく豊かにするための音楽を愛好する心情を育てるために、我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽を教材として扱い、歌唱、創作、鑑賞の幅広い音楽活動を行うよう留意する。</p> <p>表現領域や鑑賞領域、歌唱と創作を関連させて学習を深め、音楽への関心・意欲を高めていけるよう留意する。</p> <p>音楽環境への関心を高めたり、音や音楽が生活に果たす役割を考えたりできるように留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲家、歴史、音楽文化、詩や物語等、教材と関連する資料の内容 	<p>教材に関連する作曲家、歴史、音楽文化、詩や物語等についての資料が、音楽への関心・意欲を高め、主体的な学びにつながるよう留意する。</p>
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって表現を工夫したり、鑑賞したりできるように学習目標や学習方法の設定 	<p>見通しをもって表現を工夫したり、鑑賞したりできるように学習目標や学習方法を設定するよう留意する。</p>

〔共通事項〕

(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。

イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。

調査方法

種目名【 音楽（一般） 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱、創作の基礎的な表現技能を身に付けたり、表現技能を伸ばしたりする学習内容が取り上げられている箇所数を調べた。 ・我が国の伝統音楽や、音楽文化に関する内容がどのように扱われているかについて調べた。 ・鑑賞において、楽曲の基礎的・基本的な知識・理解を身に付ける学習内容が取り上げられている箇所数を調べた。 ・学習活動の支えとなる〔共通事項〕が、どのように扱われているかについて調べた。
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲から知覚・感受したことをもとに、思いや意図をもって表現を工夫する学習活動が設定されている箇所数を調べた。 ・言葉や音階などの特徴を感じ取り、旋律や構成を工夫してつくる学習の活動が設定されている箇所数を調べた。 ・音楽のよさや美しさなどを言葉で説明したり、根拠をもって批評したりする学習活動が設定されている箇所数を調べた。
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習活動に取り組めるよう、歌唱教材、創作教材、鑑賞教材の内容や発展的な学習内容について調べた。 ・学習をより深めるために、表現領域と鑑賞領域を関連付けた学習活動が設定されている箇所数を調べた。 ・音楽と生活や社会とのかかわりについて記載されている内容について調べた。
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びにつながるよう、作曲家、歴史、音楽文化、詩や物語等、教材と関連する資料の内容について調べた。
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって学習を進めるために、学習目標や学習方法がどのように設定されているかについて調べた。

調査結果

音楽
(一般)

観点	A 基礎的・基本的な 知識・技能					B 思考力・判断力 ・表現力			C 学習意欲		D 家庭学習に つながる学習	E 自分で課題を設定 し、見直しをもって進 める学習		
	研究調査事項	歌唱の技能に関する内容	創作の技能に関する内容	我が国の伝統音楽や、音楽文化に関する内容	鑑賞の知識、理解に関する内容	表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要な「共通事項」に関する内容	曲想、声部の役割や全体の響きを感じ取り、思いや意図をもって表現を工夫する学習活動	言葉や音階などの特徴を感じ取り、旋律や構成を工夫してつくる学習活動	音楽のよさや美しさなどを言葉で説明したり、根拠をもって批評する学習活動	歌唱教材、創作教材、鑑賞教材の内容、発展的な学習内容	表現領域と鑑賞領域を関連付けた学習活動	音楽と生活とのかかわりに関する内容	作曲家、歴史、音楽文化、詩や物語等、教材と関連する資料の内容	見直しをもって表現を工夫したり、鑑賞したりできるような学習目標や学習方法の設定
発行者名														
教育出版	1年生	7	3	○	32	○	17	3	5	○	2	○	○	○
	2・3年生上	1	2	○	48	○	19	2	5	○	2	○	○	○
	2・3年生下	3	2	○	30	○	17	1	3	○	2	○	○	○
	合計	11	7	△	110	△	53	6	13	△	6	○	○	△
教育芸術社	1年生	10	4	○	34	○	22	2	3	○	1	○	○	○
	2・3年生上	5	4	○	46	○	17	1	2	○	4	○	○	○
	2・3年生下	6	4	○	30	○	15	2	2	○	2	○	○	○
	合計	21	12	△	110	△	54	5	7	△	7	○	○	△

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	音楽（一般）	発行者名	教育出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や母音の発音、変声について、「Let' s sing!」の見出しとともにイラストや五線譜が併記され、歌唱の基本的な技術を高められるよう工夫されている。 ・日本の民謡、伝統音楽、楽器が図や写真、楽譜とともに折り込みページで大きく扱われており、視覚的に捉えやすいよう工夫されている。また、他国の音楽文化とも比較しながら鑑賞できるよう工夫されている。 ・音楽を形づくっている要素や要素同士の働きを捉えながら、鑑賞する活動が設定されている。また、「聴き比べてみよう!」として、同じ作曲家の他の楽曲を鑑賞する活動が設定されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな迫力のある写真が掲載されており、その教材をイメージする手立てとなり、歌唱における表現の工夫に生かされるように工夫されている。 ・学年ごとの創作の学習「音のスケッチ」では、思考の過程を表すワークシートがあり、書き込みながら自分の考えをまとめることができるよう工夫されている。 ・音楽を形づくっている要素を意識しながら楽曲を鑑賞し、聴き取ったことや感じ取ったことについて理由をあげながら文章で表したり、音楽のよさや自分にとっての価値などを伝え合ったりする活動「伝えてみよう!」が設定されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・創作と関連して、親しみやすい教材をもとに発展的な学習活動が設定されており、調べたり、書いたり、交流したりしながら学習を深められるよう配慮されている。 ・「指揮をしてみよう!」では、歌唱教材の楽譜を掲載し、実際に歌いながら表現を工夫していけるような提示がされている。 ・アウトリーチや音楽療法などについて紹介され、生活と音楽との関わりについて、身近に感じられるよう配慮されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の民謡や芸能に、地域の人たちとともに取り組んでいる中学生の取組を紹介し、自分たちの地域の魅力を振り返ったり、再発見したりできるよう工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・題材目標が大きく3つに色分けされ、目標を意識しながら学習に取り組めるよう配慮されている。また、教材とともに縦書きで学習のポイントが2つずつ示されており、見通しをもって学習が進められるよう配慮されている。 ・学年で学ぶ主な鑑賞曲において、楽曲全体をつかめる楽譜を提示し、楽曲をイメージしたり、楽曲の構成を理解したりできるよう工夫されている。 		

種目名	音楽（一般）	発行者名	株式会社 教育芸術社
観点	選定のための調査まとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸や姿勢、声の響かせ方などの基礎的な技術を身に付けたり工夫したりする学習活動「My Voice」では、学んだことを試す課題が併記され、表現の技能を高められるよう工夫されている。 歌舞伎の長唄、箏楽の唱歌、能の謡など、日本の伝統的な歌唱について、正座して歌う時の姿勢や歌う時に気をつけることが、2～3のポイントとともに分かりやすく提示されている。 音楽を形づくっている要素についてビンゴゲームで学んだり、「ここが分かれば Grade up!」において、音楽を形づくっている要素やそれらの働きを表す用語や記号について、音楽活動を通して理解したりできるよう工夫されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽表現の工夫に関する思考を促すような問いかけが吹き出しの形で示され、歌唱表現の工夫すべきポイントやその手立てが明確であり、どのように表現を工夫すればよいか、分かりやすく示されている。 題材における表現の工夫については、題材名の下に明記されており、表現工夫のポイントを意識しながら学習できるようになっている。歌唱共通教材においては、楽譜や歌詞から感じ取ったことをもとに表現を工夫していけるよう配慮されている。 鑑賞では、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚・感受できるような学習コーナーや、学んだことを生かしてプレゼンテーションする課題が設定され、3年間を通じて系統的、発展的な学習となるよう工夫されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「指揮をしてみよう!」では、指揮者の表情や体全体の動きについて、指揮図とともに記載されており、学校行事とも関連付けて学習できるよう工夫されている。 ア・カペラの鑑賞、表現、創作を関連付けた学習活動や、同時代の日本の歴史と関連した「この頃、日本では」では、他教科と関連させて主体的に学習できるよう工夫されている。 中学生によって上演される歌舞伎の舞台や、上演に向けての様々な取組の様子を紹介し、伝統音楽を身近なものとして捉えられるよう配慮されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本の音と俳句の学習を関連付けたり、正倉院に伝わる琵琶と関連した調べ学習が設定されたりしており、広い窓口から関心をもって学習が進められるよう、工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭に「音楽学習 MAP」を設定し、題材目標と関連する教材、音楽を形づくっている要素が示され、1年間の学習内容の見通しがもてるように工夫されている。 教材名の上に、学習目標が大きく示され、目標に迫るための具体的な学習活動も提示されており、見通しをもって学習に取り組めるようになっている。 		

音樂（器樂合奏）

教 育 出 版

教 育 藝 術 社

観点の内容 音楽(器楽合奏)

音楽 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

観点 (「学ぶ力」向上にかかわるポイント)	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の基礎的な知識・理解に関する内容 ・楽器の基礎的な奏法に関する内容 ・我が国の伝統音楽や音楽文化に関する内容 ・表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要な内容 [共通事項] 	<p>リコーダーや和楽器等の楽器の構造や歴史について学習し、楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏できるように留意する。</p> <p>和楽器について、3年間を通じて1種類以上取り扱うよう配慮する。</p> <p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受けること、音楽に関する用語や記号等について音楽活動を通して理解することに留意する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想や声部の役割や全体の響きを感じ取り、思いや意図をもつて表現を工夫する学習活動 ・表現についての思いや意図を言葉で説明したり、互いの考えを意見交流したりする学習活動 	<p>曲想や声部の役割、全体の響きを感じ取りながら、思いや意図をもつて曲にふさわしい表現を工夫できるように留意する。</p> <p>表現についての思いや意図を言葉で説明したり、グループ活動等で互いの考えを意見交流したりする場面を設定するよう留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の種類、教材の内容、演奏形態、発展的な学習内容 ・創作と関連付けた学習活動 	<p>生活を明るく豊かなものにするための音楽を愛好する心情を育てるために、我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な楽曲、楽器、演奏形態と出会わせるよう留意する。</p> <p>創作と関連させて学習を深め、器楽への関心・意欲を高めていけるよう留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器に関する資料 ・関連する鑑賞曲や資料 	<p>器楽への関心・意欲を高めるため、楽器に関する写真や図、教材に関連する鑑賞曲等を学習と関わりさせて適切に指導し、主体的な学びにつながるよう留意する。</p>
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって基礎的な奏法を学んだり、表現を工夫したりできるような学習目標や学習方法の設定 	<p>見通しをもって基礎的な奏法を学んだり、表現を工夫したりできるような学習目標や学習方法を設定するよう留意する。</p>

[共通事項]

(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

- ア 音色、リズム、速度、旋律、テクニクス、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受すること。
- イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。

調査方法

種目名【 音楽（器楽合奏） 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器についての基礎的な知識・理解につながる内容や、基礎的な奏法を身に付けたり、表現技能を伸ばしたりする箇所数を調べた。 ・我が国の伝統音楽や、音楽文化に関する内容についてどのように扱われているかについて調べた。 ・学習活動の支えとなる〔共通事項〕が、どのように扱われているかについて調べた。
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲から知覚・感受したことをもとに、思いや意図をもって表現を工夫する箇所数を調べた。 ・器楽表現についての思いや意図を言葉で説明したり、互いの考えを意見交流したりする箇所数を調べた。
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習活動に取り組めるよう、楽器の種類、教材の内容、演奏形態、発展的な学習内容について調べた。 ・学習をより深めるために、創作と関連付けた箇所数を調べた。
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びにつながるよう、楽器についての図や写真等の提示のされ方や、関連する鑑賞曲、資料について調べた。
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって学習を進めるために、学習目標や学習方法について、どのように設定されているかについて調べた。

調査結果

音楽
(器楽合奏)

観点	A		B		C		D		E	
	基礎的・基本的な知識・技能		思考力・判断力・表現力		学習意欲		家庭学習につながる学習		自分で課題を設定し、見直しをもって進める学習	
研究調査事項	楽器の基礎的な知識・理解に関する内容		我が国の伝統音楽や音楽文化に関する内容		表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要な「共通事項」に関する内容		曲想や声部の役割や全体の響きを感じ取り、思いや意図をもって表現を工夫する学習活動		表現についての思いや意図を言葉で説明したり、互いの考えを意見交流したりする学習活動	
発行者名	楽器の基礎的な奏法に関する内容		楽器の種類、教材の内容、演奏形態、発展的な学習内容		創作と関連付けた学習活動		楽器に関する資料		関連する鑑賞曲や資料	
教育出版	27	66	○	○	33	3	○	3	○	○
教育芸術社	24	81	○	○	38	4	○	2	○	○

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	音楽（器楽合奏）	発行者名	教育出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの学習ではソプラノとアルトの運指を併記し、小学校における学習とのつながりが意識されている。また、タンギングについても多様な発音ができるよう工夫されている。 ・日本の伝統音楽や和楽器の歴史について、綴じ込みページで年表とともに紹介され、時代の流れに沿って系統的に楽器を理解できるよう工夫されている。 ・音楽を形づくっている要素について、楽曲とともに見出しを設けて説明されており、学習活動の中で、理解できるように配慮されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的奏法を生かした表現の工夫について「演奏のポイント」が掲載されており、思いや意図をもって表現を工夫するための手立てが提示されている。 ・学習のまとめとして器楽曲を鑑賞する学習活動において、音楽を形づくっている要素に基づいて聴き取ったり、言葉で説明したりする活動が設定されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本古曲から西洋音楽、ポピュラー音楽等幅広いジャンルが扱われている。特に、リコーダーの学習において、アルトとソプラノが同時に扱われ、学校や生徒の実態に応じて、選択して学習できるよう工夫されている。 ・既習した教材を使って、リズムや前奏をつくる「音のスケッチ」では、学習活動の手立てが分かりやすく示され、無理なく創作に取り組めるよう配慮されている。 ・音楽制作現場の紹介として、演劇やミュージカルなどの製作場面が掲載されており、音楽を多面的に捉えられるよう配慮されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現存する最も古い年代のリコーダーや、ルネサンス時代とバロック時代のアルトリコーダーとソプラノリコーダーが「リコーダーコレクション」として掲載されており、楽器の成り立ちや歴史について深く学べるよう配慮されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの学習では、基礎的な奏法を身に付けるまとめとして鑑賞曲が設定されている。基礎的な奏法を学ぶこと、表現を工夫することの流れが明確であり、見通しをもって学習に取り組めるよう配慮されている。 ・合わせて演奏する学習活動において、演奏順の例が示されており、グループで構成や強弱を設定しながら演奏するための手立てとなるよう配慮されている。 		

種目名	音楽（器楽合奏）	発行者名	株式会社 教育芸術社
観点	選定のための調査まとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の特性や基礎的な奏法が理解できるように、姿勢や楽器の構え方等、分かりやすい写真とともに説明文が示されており、理解しやすいよう工夫されている。 ・箏や三味線では、五線譜とともに縦譜や文化譜が掲載され、読譜の方法や演奏の仕方が細かく説明されており、配慮されている。 ・巻頭の「音楽学習 MAP」では、「学習の窓口」として音楽を形づくっている要素が示され、それぞれの教材で何を学習するのか、確認することができるようになっている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・音を合わせるときのコツや音の響きや音色の変化の聴き取り、和楽器独自の奏法を試すこと等が「音を聴いて確かめよう」に示されており、思考、判断して音楽表現の工夫を行えるよう配慮されている。 ・「パートの役割」では、グループ活動の中でそれぞれのパートの役割を考えたり、ふさわしい楽器を選んだりして、協力しながら学習を進められるよう工夫されている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・12種類の打楽器が扱われ、基本的な奏法やリズムパターン、また専門的な奏法も提示されている。楽器やリズムに対する興味・関心を高められるよう工夫されている。 ・巻頭に演奏家からのメッセージ「楽器と出会う」が提示され、楽器への憧れをもって学習を進めることができるよう工夫されている。 ・前奏をつくったり、リズム伴奏を考えたりするなど、創作と関連付けた発展的な学習活動が設定されており、意欲をもって学習に取り組めるよう工夫されている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・三味線と三線を比較した「和楽器こぼれ話」では、楽器の構造や歴史について記載されており、関連した音楽（一般）で、民謡とともに学習が深められるよう配慮されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「アンサンブルセミナー」では、〔共通事項〕に関連付けながら学習が深められるよう、学習目標や学習活動が提示されている。「アンサンブル」においても、〔共通事項〕に関連した演奏上のポイントが示されている。 ・巻末の曲集では、旋律楽器に打楽器を加えられるようリズム伴奏例が掲載されており、見通しをもって学習を進められる手立てとなっている。 		

美術

開隆堂

光村図書

日本文教

観点の内容 美術

美術 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

観点 （「学ぶ力」向上にかかわるポイント）	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法の工夫に関する内容 ・表現及び鑑賞に関する能力の育成にかかわる〔共通事項〕に関する内容 ・美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動についての内容 ・事故防止及び安全に関する内容 	<p>材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなど創造的に表現するように留意する。</p> <p>「A表現」及び「B鑑賞」を通して、形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解するように留意するとともに、形や色彩の特徴などをとらえ、イメージをとらえるように留意する。</p> <p>造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさを感じ取り、見方を深めるよう留意する。</p> <p>刃物類、塗料、器具などの使い方の指導や保管、活動場所の安全指導に留意する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や彫刻などに表現する活動についての発想や構想に関する内容 ・デザインや工芸などに表現する活動についての発想や構想に関する内容 ・美術作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合い、美意識を高め広く味わう活動に関する内容 	<p>対象を深く見詰め感じとつたこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出すように留意する。</p> <p>目的や条件などをとらえ、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組み合わせを簡素にしたり総合化したりするなどして構成や装飾を考え構想を練るよう留意する。</p> <p>作品などに対する自分の価値意識をもって評価し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうように留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てることに相关的内容 ・写真やイラストなど紙面構成の工夫 	<p>日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気づき、それぞれのよさや美しさや楽しさを味わい、美術を通して国際理解を深め、美術文化の継承と創造に関心を高めるように留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を美しく豊かにする美術の働きに関する記述 ・美術館や博物館等の施設や文化財などの活用 	<p>自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、美術と生活を関連付けることにより、日常の生活を美しく豊かにすることが考えられるよう留意する。</p> <p>美術館や博物館等の施設や文化財を積極的に活用するように留意する。</p>
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや振り返りに関する記述 ・制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現する活動に関する記述 	<p>学習のねらいを明確にして、育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にするように留意する。</p> <p>材料や用具、表現方法の特性などから制作の方法などを総合的に考えながら、見通しをもって表現するように留意する。</p>

〔共通事項〕

「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
- イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

調査方法

種目名【 美術 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなど創造的に表現している記述について調べた。 ・表現及び鑑賞の学習の基盤となるものであり、すべての学習活動において共通に指導する事項である〔共通事項〕、形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解することや形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえることについて取り上げられた記述について調べた。 ・鑑賞活動が示された箇所数を調べた。 ・事故防止及び安全に関する記述について調べた。
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や彫刻などに表現する活動の箇所数を調べた。 ・デザインや工芸などに表現する活動の箇所数を調べた。 ・自分の価値意識をもって評価し合うなどの活動をしている箇所数を調べた。
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・日本や諸外国の美術作品や伝統文化に関する記述について調べた。 ・学習意欲が高まるように、写真や挿絵が工夫されて紙面構成されているかどうかについての記述について調べた。
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさについて感じ取り、美術と生活とを関連付けることによって、日常生活を美しく豊かにすることが考えられるような箇所数を調べた。 ・学校での学習活動だけでなく、美術館・博物館等の施設や文化財などを積極的に活用することを促す記述について調べた。
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを明確にして、育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にしようとしている記述について調べた。 ・材料や用具、表現方法の特性などから制作の方法などを総合的に考え、見通しをもって表現している箇所数を調べた。

観点	A 基礎的・基本的な 知識・技能			B 思考力・判断 力・表現力			C 学習意欲		D 家庭学習に つながる学習		E 自分で課題を設 定し、見直しを もって進める学習			
	研究調査事項	表現方法の工夫に関する内容			美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動についての内容 表現及び鑑賞に関する能力の育成にかかわる「共通事項」に関する内容			事故防止及び安全に関する内容		絵や彫刻などに表現する活動についての発想や構想に関する内容		デザインや工芸などに表現する活動についての発想や構想に関する内容		
発行者名	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てることに相关的内容			写真やイラストなど紙面構成の工夫			美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てることに相关的内容		生活を美しく豊かにする美術の働きに関する記述		美術館や博物館等の施設や文化財などの活用			
開隆堂	1年生	○	○	8	○	7	4	5	○	○	42	○	○	10
	2・3年生	○	○	27	○	9	8	3	○	○	118	○	○	16
	合計			35		16	12	8			160			26
光村図書	1年生	○	○	7	○	8	7	8	○	○	108	○	○	28
	2・3年生	○	○	10	○	17	12	4	○	○	189	○	○	28
	合計			17		25	19	12			297			56
日本文教	1年生	○	○	7	○	10	9	9	○	○	111	○	○	9
	2・3年生上	○	○	10	○	10	6	1	○	○	85	○	○	11
	2・3年生下	○	○	12	○	9	8	6	○	○	91	○	○	13
	合計			29		29	23	16			287			33

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	美術	発行者名	開隆堂出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・題材間で関連する学習内容を明らかにし、1つの大型の題材として編集され、多様な授業展開ができるように工夫されている。 ・巻末に「色彩ホームページ」などの表現を支える基本的な知識が掲載されている。また、各題材の説明や「ふりかえり」の文章で、〔共通事項〕に関連した記述があり、形や色を意識して制作できたか確認できるような工夫がされている。 ・国・作家ごとの表現の違いを対比させた資料の使用や、表現活動と関連した作品などの充実した資料により、学年に応じ、系統立てた鑑賞ができるよう工夫されている。 ・制作工程の説明が写真で紹介され、安全面に配慮することの大切さが示されている。また、巻末では、刃物類を中心とした用具の使用上の注意点が写真やイラストで丁寧に示されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や彫刻に表現する活動とデザインや工芸に表現する活動を整理して明確に示し、系統性をもたせてバランスよく題材が設定されている。 ・題材に関する知識や情報をまとめて示したり、作者の言葉を掲載したりするなどして発想や構想を促す工夫がされている。 ・鑑賞に適した題材では、「問いかけ」を設定し、作品を分析したり、話し合ったりする時の作品を見る観点を具体的に絞って提示するなどして、作品のよさをより深く味わうことができるような工夫がされている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた諸外国や日本の美術作品を、折り込みページを活用するなどして大きく掲載されており、表現活動を進める上でのヒントになっている。鑑賞のページでは日本と諸外国の作品を並べて掲載し、比較して学習できるように工夫されている。 ・カラーユニバーサルデザインに配慮し、全ての生徒に見やすいようにデザインされている。活動の情景などを大きく掲載し、学習活動の状況がわかりやすく伝わるように工夫されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての題材の中に生活の中の美術と題材とを関連づける記述があり、身の回りのものを観察することを促したり、暮らしの中にあるものをデザインの視点で見つめ直させたりするなど、生活と美術を結び付けて考えさせるよう工夫されている。 ・「美術って、何だろう？」や「地域とつながる美術」では、美術館で行われたプロジェクトや地域の美術作品が紹介されるなど、美術館等の活用促進や、多様な鑑賞体験の大切さ、美術の学習をすることが自己理解や他者理解、社会への理解につながることを示されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材で大切にしたい重点的な学習活動や、その題材を通して育てたい力などが冒頭で示されるとともに、末尾の「ふりかえり」で、よりわかりやすい簡潔な4観点にまとめて、自己評価できるように工夫されている。 ・特徴のある枠で基礎的な技法や習得したい内容が掲載されており、題材の内容に合わせて、見通しをもって表現することができるように描き方・発想のヒントを記したり、技法・作業の手順などが示されたりしている。 		

種目名	美術	発行者名	光村図書出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1つの題材を4ページにわたって紹介し、表現方法の多様性を示す他、「みんなの工夫」などが設けられ自分らしい表現に迫るヒントとなっている。 各題材の目標の下に〔共通事項〕に関する問いかけがあり、形や色からのイメージについて意識して制作できるよう工夫されている。 作品と詩の組み合わせや、迫力のある大画面図版の使用などの印象的な見せ方により、作家・作品への共感や関心が高まる鑑賞活動ができるよう工夫されている。 各学年の巻末に「学習を支える資料」が設けられ、工具類の使用上の注意や写真撮影のルールについて触れられている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 絵や彫刻などに表現する活動には、美術史上有名な作家作品や生徒作品を選定し、題材配置が構成されている。また、デザインや工芸などに表現する活動では、身近な店舗ののぼりや民芸派の作品に至るまで幅広い作品が選定された多様な題材で系統的に構成されており、全体的なバランスが考慮されている。 題材に「発想・構想のヒント」や「作者の言葉」、スケッチ等が掲載されており、発想を広げたり、構想を練ったりしやすいように工夫されている。 鑑賞中心の題材では、作品の批評活動が円滑に進むように、形や色の使われ方など、作品を見る視点を基にして批評できるような指導が示されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国宝に指定されている作品には日本の国宝マーク「◎」が付けられ、特別展示室では、左右見開きで金色を再現した屏風絵や世界の名画などが大きく掲載されており、それぞれの国の特徴や魅力を学べるよう工夫されている。 各ページの左上にインデックスを設け領域ごとに色分けをしたり、10のマークで内容を示したりと、機能的に整理されており、ひと目で学習内容が理解できるように工夫されている。全体を通してカラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、配色や文字の大きさ、写真の配置などが工夫されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「生活に生かそう」というマークを用いて、制作した作品を身近に飾ることを示したり、日常的に活用したりする例を具体的に示したりしている。また、体験や生活に根ざした内容を多く取り上げて、全体的に美術と生活とのつながりを理解することができるように構成されている。 「体験しよう！美術館」の中では、美術作品に出会える場として美術館に足を運ぶように呼びかけがされている。また「人や地域をつなぐ美術」で、人や地域の交流の場ともなりえる現代の美術の一面についても考えさせるように工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身に付けたい力や学習のねらいを明確にするために、題材ごとに「目標」を示し、チェック欄を設けることで、目標が達成できたかどうか、振り返りができる工夫がされている。 技法の説明が多く記述されており、制作の手順がよく理解できるように工夫されている。また、思考と作業の過程が、写真とともに示されており、制作手順をイメージさせ、見通しをもって活動に取り組むことができるように工夫されている。 		

種目名	美術	発行者名	日本文教出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1つの題材において、様々な材料や表現方法で表現された作品が提示され、表したい表現を追求する手立てになっている。 ・ 巻末に「色彩の資料」が設けられ、学年に応じた色彩の知識を得ることができる。また、各題材のタイトルやねらいには〔共通事項〕に関わる内容が書かれていて、形や色についての配慮点を意識して制作を進めることができるよう工夫されている。 ・ 鑑賞の特設ページでは、1つのテーマで複数の作品を取り上げたり、作品によって紙質を変えたりして、美術館での鑑賞を疑似体験できるような工夫がされている。 ・ 巻末の「技法の資料」では、木・石・金属を扱う際の注意事項がイラストで記述されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画や彫刻などに表現する活動とデザインや工芸などに表現する活動において、美術史上重要な作品から生徒作品に至るまで選定が工夫され、発達段階に合わせながら、バランスのよい題材配置になるよう構成されている。 ・ 主題を表現したり、目的や条件、機能との調和を考えたりするときのポイントや手がかりとなるように、作者の言葉等が示されており、学習活動が円滑に進むように工夫されている。 ・ 鑑賞中心の題材では、鑑賞する時の具体的な視点を「POINT」として提示するなど鑑賞活動が深まるような工夫がされている。さらに鑑賞ページに参照のマークを付けるなど、表現と鑑賞の一体化も図られている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の世界文化遺産を写真で掲載したり、「教科書美術館」では仏像を取り上げたりと、日本の伝統や文化を尊重する態度を養う題材が設定されている。また、諸外国の美術作品を大きく掲載し、作者の意図や工夫、社会背景等について考えられるように工夫されている。 ・ 従来の教科書のA4版より2cm幅を広げ、より多くの作品を大きく掲載したり、原寸大で和紙に掲載したりするなど、触覚と視覚に働きかけて、学習意欲を高めるように工夫されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「POINT」マークを用いて、身近なデザインなどに対する考えを深めるよう示したり、制作した作品を飾ったり使ったりすることを働きかけたりしている。また、デザインや工芸に関する題材では、冒頭の説明文の中で、自分たちの生活や社会の中における美術の方について気づかせたり、認識させたりするよう工夫されている。 ・ 生活や自然の中にある美術に目を向けることの大切さが示されるとともに、美術館等の積極的な活用を促し、多様な鑑賞体験の場が設定される工夫がされている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題材ごとに「学びのねらい」という記述を設け、学習のめあてを明確に示している。また、4つの観点をそれぞれ分かりやすい記号に置き換え、意識しやすいように工夫されている。 ・ 作品だけでなく、そのアイデアスケッチを記載することにより、表現活動における発想や構想のプロセスが具体的にイメージしやすいように工夫されている。 		

保健体育

東京書籍

大日本図書

大修館書店

学研教育みらい

観点の内容 保健体育

保健体育 目標

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

観点 (「学ぶ力」向上にかかわるポイント)	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や健康・安全に関する基礎的・基本的な学習内容 ・理解を深めるための具体的な記述や資料 ・知識の定着を確認する内容 	<p>生徒の発達段階を踏まえることに留意する。</p> <p>身近なごみ問題から公害と健康の関係についても具体的に扱うことに留意する。</p> <p>身の回りの危険について取上げ、危機回避能力についても理解させることに留意する。</p> <p>情報機器の使用による心身の疲労についても触れることに留意する。</p> <p>運動やスポーツ文化の形成には長い時間がかかっていることについて触れることに留意する。</p> <p>野外活動での応急処置の方法について触れることに留意する。</p> <p>スポーツに関する憲章や振興計画についても触れることに留意する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を活用して取り組む課題の設定 ・言語活動および実習等の学習課題の設定 	<p>事例などを用いたディスカッション、ブレインストーミング、実習、課題学習などを取り入れることに留意する。</p> <p>コンピュータ等を有効に活用することに留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を理解し学習の見通しをもたせる工夫 ・学習課題を身近に感じ、日常生活に生かせるような発問や資料 	<p>課題については、実際に見たり、触れたりすることで日常生活や社会生活でより身近に感じることができるよう提示することに留意する。</p> <p>学習した内容がこれからの日常生活や社会生活でどのように生かされていくのか具体的な見通しをもたせる指導をすることに留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や自分が住んでいる地域にかかわる学習課題の設定 ・生活習慣や運動習慣の改善にかかわる学習課題や資料 	<p>学習内容を補充したり学びをさらに深めたりするための課題を精査して提示し、主体的に学ぶ場面をつくることに留意する。</p> <p>日頃の生活習慣と健康の保持増進を関連づけて考えられるように留意する。</p>
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や健康・安全に関する発展的な学習課題の設定 ・課題解決学習を支援する内容 	<p>学習したことをもとにして「生命」「健康」「環境」「傷害と病気」「スポーツと自分」など保健体育に関係することに興味や関心をもち、主体的に学習することができるよう留意する。</p>

調査方法

種目名【 保健体育 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や健康・安全に関する重要な知識が明確にされているかについて調べた。 ・運動や健康・安全に関する理解を深めるための語句の補足説明や適切な資料等が提示されている箇所数を調べた。 ・単元や章末等に学んだ内容を振り返るためのまとめが設定されているかについて調べた。
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを活用して取り組むことで思考力を高める課題が設定されている箇所数を調べた。 ・思考力や判断力を鍛えるため実習や言語活動を用いて実践力・表現力を高めるための学習課題が設定されているかについて調べた。
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野や単元、章のはじめに学習課題や学習の流れを理解させるための解説がされているかどうかについて調べた。 ・学習課題を身近に感じることができるような発問や読み物資料等の箇所数と特長について調べた。
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や自分が住んでいる地域にかかわる学習課題が設定されている箇所数を調べた。 ・生活習慣や運動習慣の改善にかかわる資料や学習課題が設定されているかについて調べた。
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・章末等に発展的な学習を進めることができる課題が設定されているかについて調べた。 ・インターネットのホームページなどの課題の設定や課題解決につながるヒントとなる資料等を紹介している箇所数を調べた。

調査結果

保健体育

観点	A			B		C		D		E	
	基礎的・基本的な知識・技能			思考力・判断力・表現力		学習意欲		家庭学習につながる学習		自分で課題を設定し、見直しをもって進める学習	
研究調査事項	運動や健康・安全に関する基礎的・基本的な学習内容			知識の定着を確認する内容		学習内容を活用して取り組む課題の設定		言語活動および実習等の学習課題の設定		課題を理解し学習の見直しをもたせる工夫	
	理解を深めるための具体的な記述や資料			学習内容を活用して取り組む課題の設定		言語活動および実習等の学習課題の設定		課題を理解し学習の見直しをもたせる工夫		学習課題を身近に感じ、日常生活に生かせるような発問や資料	
	生活習慣や運動習慣の改善にかかわる学習課題や資料			学習内容を活用して取り組む課題の設定		言語活動および実習等の学習課題の設定		課題を理解し学習の見直しをもたせる工夫		学習課題を身近に感じ、日常生活に生かせるような発問や資料	
	家庭や自分が住んでいる地域にかかわる学習課題の設定			学習内容を活用して取り組む課題の設定		言語活動および実習等の学習課題の設定		課題を理解し学習の見直しをもたせる工夫		学習課題を身近に感じ、日常生活に生かせるような発問や資料	
	運動や健康・安全に関する発展的な学習課題の設定			学習内容を活用して取り組む課題の設定		言語活動および実習等の学習課題の設定		課題を理解し学習の見直しをもたせる工夫		学習課題を身近に感じ、日常生活に生かせるような発問や資料	
	課題解決学習を支援する内容			学習内容を活用して取り組む課題の設定		言語活動および実習等の学習課題の設定		課題を理解し学習の見直しをもたせる工夫		学習課題を身近に感じ、日常生活に生かせるような発問や資料	
発行者名											
東京書籍	○	548	○	62	○	○	84	13	○	○	18
大日本図書	○	385	○	46	○	○	88	7	○	○	4
大修館書店	○	372	○	22	○	○	103	5	○	○	52
学研教育みらい	○	325	○	62	○	○	91	6	○	○	23

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	保健体育	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・知識として重要な語句は、キーワードとして太字で強調して明確化されるとともに、巻末でも整理されている。 ・理解を深めるための補足説明や資料が多く設けられるとともに、見開き2ページの末尾には、学習内容に関連したクイズが設けられ、知識を深める工夫がされている。 ・各章末には、まとめとして知識の習得を確認できる問題や活用につながる問題が出題され、知識・理解の定着が確認できるよう工夫されている。さらに、学習内容の要点を3段階で振り返る自己評価欄を設け、定着度が確認できるよう工夫されている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・「考えてみよう」「生かそう」の項が設定されており、挿絵や図などもわかりやすく、学んだ内容をもう一度じっくり考えられるよう配慮されている。特に「〇〇について考えてみましょう」や「〇〇を調べてみましょう」など、思考力や判断力を伸ばす工夫がされている。 ・応急手当の「実習資料」では実習の手順や方法を詳しく図示し、その必要性について考えさせる工夫がされている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・章の始めに、中学校の学習内容の説明と、小学校で学んだこと、高等学校で学ぶ内容を記載し、単元名を示すだけでなく学習課題を簡潔にまとめることで学習の見通しを持たせる工夫がされている。 ・各時間の始めには、身近な学習課題に取り組み、生徒同士が交流することで興味・関心を高められるような工夫がされている。また、読み物資料には、写真やグラフ、イラストを使い、興味・関心を高める工夫がされている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅の暖房器具や調理器具などの注意書きや取り扱い説明書を調べたり、通学路の安全確保や災害発生時の対策を考えたりするなど、自分が住んでいる地域で調べる学習課題を取り上げ、地域や家庭で学びを広げることができるように工夫されている。 ・生活習慣病の予防に関する資料は、「リンク」によっていくつかの生活習慣の改善に関する学習内容との関連を記述し、生活習慣の改善について総合的に考えることができるように工夫されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・章末には学習のまとめとして、「日常生活に生かそう」の項があり、学習したことをもとに「日常生活に生かしていきたいと思ったことを書いてみましょう」など主体的かつ発展的に考えさせるよう工夫されている。 ・他教科との関わりや特に理科との関連リンクを示し、自分自身で課題を設定したり、課題解決学習を支援したりする工夫がされている。特に「健康な生活と病気の予防」では関連ウェブサイトが多く紹介されている。 		

種目名	保健体育	発行者名	大日本図書株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 知識として重要な語句は、キーワードとして太字で強調して明確化されている。 関連した資料を多く設けるとともに、大きく掲載し、理解を深めるための工夫がされている。また、「リンク」の欄で本書内の関連したページを紹介し、学習の系統性を理解したり、各ページの末尾に「ミニ知識」の欄を設け、知識を広げたりできるよう工夫されている。 各章末には、学習のまとめとして重要な語句の解説と学習の要点がまとめられている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「学習を活かして」において、学んだことを再度まとめて活用できるよう「〇〇について考えてみましょう」や「〇〇をまとめてみましょう」という思考力や表現力、実践力を高めるための課題が設定されている。 心肺蘇生の実習課題では、実習の方法や取り組み方法を段階的に図示し、実習時に手順がわかりやすいように工夫されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 章の始めに、学習のめあてを簡潔に示し、具体的な学習課題をいくつか示すことで学習内容が明確になるように工夫している。また、各時間の始めにも、学習内容を簡潔に示すことで学習の見通しをもつことができるようにされている。 各時間の始めには、自分のことを振り返り文章化させたり、チェックしたりする方法で身近な課題としてとらえさせ、生徒同士が交流できるように工夫されている。また、読み物資料は「トピックス」として興味深く読めるように掲載位置や文字の大きさに工夫がある。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭からでる排水やごみの行方について調査する課題が設定されている。疾病の予防に関して健康を支えてくれる人について家庭や地域で調査する学習課題が設定されている。 わかりやすい図を使い、具体的な例をあげて自分自身の生活を振り返ることができるようにしたり、大きな表でインパクトのある資料提示をしたりすることで、積極的に生活習慣の改善に取り組ませようとする工夫がされている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 章末資料に「トピックス+」「発展」の項を設け、興味を持ち発展的に学習を進めたいくなるような読み物やグラフ、図などを資料として掲載し、そこから自分で課題を見つけ、学習できるように工夫がされている。 「運動やスポーツの技術と学び方の例」として課題解決につながる学習の方法がわかりやすく説明されている。 		

種目名	保健体育	発行者名	株式会社 大修館書店
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 知識として重要な語句や学習のポイントとなる語句が数多く太字で強調され、明確化されている。 関連した図や表、補足説明を多く設け、理解を深めるための工夫がされている。また、本書内の関連したページを「参照」として紹介し、学習の系統性が理解できるよう工夫されている。 各章末には、知識・理解の定着を図るために、学んだことの要点をチェック形式で振り返れるよう整理されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「トライ」の項では「〇〇について考えてみよう」「〇〇を書き出してみよう」などの設問が多く、学んだことをさらに深く考え、思考力や表現力を高めるよう工夫されている。 各章に「〇〇を話し合ってみよう」など言語活動につながる課題を設定したり、「心肺蘇生」の実習課題ではグループ活動を行うことができる学習課題を設定したりして思考力や表現力を高める工夫がされている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 章の始めに学習内容をすべて示し、学習の流れを簡潔に明示している。また、学習課題を具体的にいくつかあげた上で章の学習目標を示すことで、めあてがわかりやすくなるように工夫している。 各時間の学習内容を具体的に明示せず「Question」で課題提起することで学習意欲を喚起するように工夫されている。読み物資料には、写真やイラストを効果的に使い視覚にも訴えるものが多い。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「健康と環境」の章で自宅での空気の汚染場所の調査、環境が健康に悪影響を及ぼす例、家庭での二酸化炭素排出量の計算などが課題として挙げられている。 すべての章末に「学びを生かそう」という学習課題が設定され、学んだことを普段の生活にどのように生かしていけるかを考えさせ、家庭や地域での実践につなげようとする工夫がされている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「チャレンジ」や章末の「トピック・発展」では学んだことをさらに発展させるために興味深い課題や読み物資料が設定されており、じっくりと読んでから課題を設定し、考えを自分でまとめるなどの工夫がされている。 課題設定や課題解決のヒントとなるようなウェブサイトを多くのページで「URL」として紹介しており、積極的な学びを支援できるように工夫がされている。 		

種目名	保健体育	発行者名	株式会社 学研教育みらい
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知識として重要な語句は、キーワードとして太字で強調して明確化されている。 ・理解を深めるための補足説明や資料が多く設けられるとともに、各ページの末尾にある「情報サプリ」の欄では、学習内容にかかわる予備知識が記載されており、知識を広げたり、理解を深めたりする工夫がされている。 ・各章末には、まとめとして、重要語句や基礎知識を確認する問題や活用する問題が出題され、学習内容を確認し、知識を定着させる工夫がされている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「活用しよう」「エクササイズ」では、学んだことをさらに深く考えたり、日常生活に生かせるように視点を変えて考えさせたり、またグループで言語活動ができるように課題設定をするなどの工夫がされている。また「アドバイスができるでしょうか」など表現力を高めるような設問も設定されている。 ・実習課題では、的確な判断ができるように手順やポイントをわかりやすく示し、チェックシートを使って自己評価できるように工夫されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・章の始めには、学習の意義とともに小学校、中学校、高等学校での学習の系統性が示されている。また、学習内容に関する歴史的な有名人のエピソード、さらに、学習内容に関係した職業について紹介するなど学びの広がりや学びの可能性を示すことで学習意欲をより高めようとする工夫がある。 ・自分自身の体を使って実際に測定したり、自分自身をふり返って文章を書いたりするような課題が多く、学習課題が身近に感じられるように工夫されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のごみの分別方法を調べる課題や医療関係施設の場所を調べる課題など、すぐに自分自身の生活につながる課題設定がされ、学校だけでなく、家庭や地域で実践的に学ぶことができるように工夫されている。 ・家庭での生活習慣や運動習慣を振り返る課題に対して、解決のヒントとなる資料を順序立ててわかりやすく配置し、実際の改善につながるような工夫がされている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「プラス」や各章末の「探究しよう」「発展」で学習内容に関わって多くの発展的な設問や課題を提示し、関心をもたせるとともに探究心を高めるような工夫がされている。章末の「生活への活用」では、学んだことを生活に生かす方法を書かせることでさらに深く考えさせる工夫がされている。 ・「リンク」として課題の設定や課題解決学習を進めることにつながるウェブサイトが多く紹介されている。 		

技術・家庭（技術分野）

東京書籍

教育図書

開隆堂

観点の内容 技術・家庭（技術分野）

技術・家庭（技術分野） 目標

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

観点 （「学ぶ力」向上にかかわるポイント）	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの性質や仕組み、それらの理論についての学習内容 ・工具や用具、機器の使用法や操作手法についての学習内容 	<p>基礎的・基本的な知識及び技術とは、発達途にある中学校段階の生徒の学習体験や能力においても習得が可能であり、しかも、今の生活、将来の生活と深く結びついているものであることに留意する。 小学校における学習を踏まえていることに留意する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・実習等の結果を整理し、考察することを取り上げるなどの言語の能力を高める教材や学習活動 ・設計や計画、技術を適切に評価し活用する部分で、言葉や図表、概念等を用いて考えたり、自分の考えを説明したりする学習活動 	<p>生活上の技術的な課題に対して、様々な制約条件の中で解決策を検討したり、その結果を評価したりする活動の中で、技術と社会や環境とのかわりについての理解を深め、技術を合理的にしかも適切に評価し活用できるように留意する。 実践的・体験的な学習活動を通じて、様々な語彙の意味を、実感を伴って理解させ、他教科等との関連も踏まえ、言語の能力を高めるよう留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく実習の方法や工程を示すことで、意欲的に学習を進めさせる工夫 ・仕事の楽しさや完成の喜びを実感できるような工夫 	<p>わかりやすく方法や工程を示し、意欲的に学習を進め、作業の楽しさや完成の喜びを味あわせるものになっていることに留意する。 掲載している教材、資料が、技術に対する関心・意欲を高めたり、技術と社会や環境とのかわりについて理解を深めたりするものになっていることに留意する。 基礎的なものから応用的なものへと内容を発展させ、無理なく学習を進め、充実感を味わえるようにすることに留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した知識及び技術を、生活場面で活用するための教材や学習活動 ・技術を正しく活用できるよう、安全やモラルについて取り上げた学習内容 	<p>家庭や社会生活で技術に親しむ態度を育て、技術を生活に活用できるようにするとともに、家庭や地域社会との連携を図るようことに留意する。 知識と技術の習得とともに、知的財産を尊重する態度や技術にかかわる倫理感を育成することに留意する。</p>
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりに関する実習例の工夫 ・課題を解決するために、見通しをもって学習を進められるようになっている学習内容 	<p>生活上の技術的な課題に対し、様々な制約条件の中で解決策を検討し、見通しをもって学習できるように留意する。</p>

調査方法

種目名【 技術・家庭（技術分野） 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの性質や仕組み、それらの理論についての学習内容について調べた。 ・工具や機器の使用法や操作方法について、写真や図の箇所数を調べた。
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・実習等の結果を整理し、考察することを取り上げるなどの言語の能力を高める教材や学習活動について調べた。 ・設計や計画、技術を適切に評価し活用する部分で、言葉や図表、概念等を用いて考えたり、自分の考えを説明したりする学習活動が設定されているかについて調べた。
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の方法や進め方について、わかりやすく示す工夫があるかについて箇所数を調べた。 ・章末・巻末等の学習資料について、伝統的に受け継がれてきた技術や、新しい技術とその有効な活用方法について記載してあり、仕事の楽しさや完成の喜びを体感できたり、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深めたりすることのできる内容を取り上げた箇所数を調べた。
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した知識や技術を、生活場面で活用できるよう、自主的な学習が進められるような学習が設定されているかどうかについて調べた。 ・技術を正しく活用できるよう、安全やモラルについて取り上げた箇所数を調べた。
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりに関する実習例が、実際の作業をする際のポイントがわかりやすく、見通しをもって作業ができる工夫がされている箇所数について調べた。 ・課題を解決するために、見通しをもって学習を進められるようにしている学習内容になっているか調べた。

調査結果

技術・家庭
(技術分野)

観点	A		B		C		D		E	
	基礎的・基本的な知識・技能		思考力・判断力・表現力		学習意欲		家庭学習につながる学習		自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	
研究調査事項	ものの性質や仕組み、それらの理論についての学習内容		工具や用具、機器の使用法や操作方法についての学習内容		実習等の結果を整理し、考察することを取り上げるなどの言語の能力を高める教材や学習活動		設計や計画、技術を適切に評価し活用する部分で、言葉や図表、概念等を用いて考えたり、自分の考えを説明したりする学習活動		わかりやすく実習の方法や工程を示すことで、意欲的に学習を進めさせる工夫	
発行者名										
東京書籍	○	30	○	○	57	33	○	29	34	○
教育図書	○	30	○	○	35	20	○	17	28	○
開隆堂	○	30	○	○	49	27	○	20	30	○

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	技術・家庭 (技術分野)	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「リンク」、「他教科」、「小学校」で、技術分野の中での関わりだけでなく、家庭分野や他教科、小学校の内容との関わりが一目でわかり、基礎的な知識の定着を図れるように工夫されている。また、「ポイント」を通じて、材料の性質やものの仕組みについて理解が深められるように工夫されている。 ・工具の使用法や作業手順などの基礎的な技能を「基礎技能」のページとしてまとめ、材料別の印をつけることで、作業中に振り返りやすく工夫されている。また、工具や機器の使用法や操作方法の写真やイラストは、作業目線から撮った写真を使用することで、実際の作業を思い描くことができるよう工夫されている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・材料と加工に関する技術では、自分の作成した作品を評価する際の評価例を示し、設計段階からの振り返りを行うことで、今後のものづくりへつなげる工夫がされている。また、エネルギー変換に関する技術では、自分が製作した作品の「取り扱い説明書」を作成する実習例を示し、製作品の長所や注意点をまとめ、他の人に伝えることに取り組ませるよう工夫されている。 ・章末の「技術の評価・活用」のページの中で、技術について環境面・社会面・経済面からプラス・マイナス両面で評価できるようなワークシートの例が具体的に示されており、技術と今後どのようにつきあっていくかを考えさせるよう工夫されている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・実習例は、難易度が星印で示されており、「私の工夫」で工夫例が示されているため、製作のイメージをもちやすくする工夫がされている。また、材料と加工に関する技術で、作業に入る前に簡単な製作品を例に挙げ、縦軸に材料、横軸に工程を取り、三種類の材料の加工方法を比較し、材料によって同じ工程でも行う作業が異なることが一目でわかるように工夫されている。 ・作品コンクールで入賞した作品や、実習例では電気機器や自転車の保守点検についての実習例を取り上げるなど、身近な例を挙げることで、学習意欲を高める工夫がみられる。また、「技術の匠」として、各方面の技術者の話を26人分掲載し、仕事の楽しさやものづくりの喜びを感じることができるよう工夫されている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ページ下段に、「ひとくちQ&A」が設けられており、日常生活に役立つ情報が掲載され、家庭学習につなげることができるよう工夫されている。また、「生活に生かそう」で、学習したことを自分自身の生活に生かせるよう工夫されており、特に「評価・活用してみよう」や章末の「学習のまとめ」で、学習した内容を確かめたり、自己評価して自分自身の生活に生かしたりすることができるよう工夫されている。 ・「安全」、「衛生」、「情報モラル」で、作業や家庭生活に即した注意を示し、意識を高める工夫がされており、特に情報に関する技術においては、セキュリティ技術・情報モラル・知的財産に関する内容が事例と解説を交えて10ページにわたり掲載されている。また、巻末には切り離し式の「防災手帳」を付け、防災への取組意識を高められるよう配慮されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習例の中で作業工程が見開きで示されていることで、作成手順が流れでわかり、見通しをもって実習を進めることができるよう工夫されている。また、実習例の「問題の発見」で、普段の生活の中での改善を図るきっかけの言葉が記述されており、作品を作る目的を意識できるよう工夫されている。 ・学習のまとめごとに、「目標」と「まとめよう」が示されており、学習のねらいを明確にし、見通しをもって学習を行えるよう工夫されている。また、最後には、3年間学習してきたことを踏まえて、技術者の言葉を交えながら、今後、技術とどうかわっていくかを考えさせるような工夫がされている。 		

種目名	技術・家庭 (技術分野)	発行者名	教育図書株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 材料と加工に関する技術では、まず簡単な製作を行ったあと、難易度の高い製作に移り、知識や技能を、製作の間に入れるように設定されている。特に、作業ページでは見開きにした時、左側に作業内容、右側に「基礎技能・知識」で道具類の使用法や基礎的な知識を示す工夫がされている。 製作物の例を1つ挙げ、その製作工程を1つずつ大きな写真で示すことで、作業内容をわかりやすくするよう工夫されている。また、うまく作業をするポイントとなる箇所を、図や写真と共に「コツ」を示し、ポイントを押さえやすいよう配慮されている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> 生物育成に関する技術では、手書きの栽培計画表や栽培記録の例を示し、どのように計画を立てていけばよいか、記録を付けていけばよいか、イメージしやすくする工夫がされている。 情報に関する技術では、動画の作品作りの際に、自分のアイデアを形にしやすくするために絵コンテを用いた学習活動が設定されている。また、生物育成に関する技術では、穀物生産量や化学肥料の使用量のグラフから環境や安全を考えたり、調べさせたりする学習活動が設定されている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> 実習例では、完成例や成長後の様子を写真で掲載するとともに、「便利な工具を活用したハンガーラック」や「春を先取るチューリップの栽培」など、イメージしやすく、実際にしてみたいくなるような実習タイトルが付けてあり、意欲的に取り組める工夫がされている。 巻頭では11ページにわたり「技術開発の大切さ」、巻末に「世界に誇る日本の技術」を掲載し、技術を学ぶ意欲を高めるよう設定されている。また、巻末の資料では、様々な工具の説明や、発電方法の比較、病害虫の管理、デジタル用語を掲載し、授業中に活用できる資料として設定されている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> 「調べよう」、「考えよう」、「やってみよう」を利用して、生活場面を振り返ることができるように設定されている。また、章末には学習した内容のまとめとともに、章末問題があり、学習した内容を自分で確かめ、基礎的な知識の定着が図れるように工夫がされている。 実験や実習において注意の必要な場面箇所には、赤色の「注意」で目立つようしており、安全に実施できるように配慮されている。また、エネルギー変換に関する技術「電気器具の事故防止」においても、トラッキング現象・感電や漏電・たこ足配線などに関する内容が「安全」について簡潔に説明されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> 製作・実習では、1ページごとに作業工程全体の流れを上を示すことで、作業の流れを可視化している。さらに、そのページで説明している作業内容の色を濃くすることで、今行っている作業と今後の作業のつながりが見え、見通しをもって取り組めるよう工夫されている。 製作に使用する材料や工具の写真を1枚で示し、一目で製作に必要なものがわかり、準備段階から見通しをもちながら作業をしやすくする工夫がされている。 		

種目名	技術・家庭 (技術分野)	発行者名	開隆堂出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「リンク」で、他の学習項目や家庭分野などに関連する内容が一目でわかり、基礎的な知識の定着を図るよう工夫されている。また、材料と加工に関する技術では、木材と、金属・プラスチックの内容を分けており、材料によって製作手順を分けることで、内容をつかみやすくするよう工夫されている。 ・工具や用具、機器の名称や使用方法、注意点が丁寧に示されており、写真やイラストについても、ポイントとなる場所がよくわかる角度から写したものを使用していることから、初めて触れる人がわかりやすいよう工夫されている。また、失敗したときの修正方法なども掲載し、実習に取り組みやすく工夫されている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・作品製作後に、交流しながら製作活動全体を振り返ることができるプリントの例が示されており、言語活動に取り組みやすく工夫されている。 ・材料と加工に関する技術では、製作物の構想をまとめるためのアイディアスケッチの例が示されており、製作前の計画の立て方がわかりやすく示されている。また、技術を適切に評価・活用するためのワークシート例が示されており、技術が生活や社会に与えるプラス・マイナスの両面を整理し、課題を解決する最適な方策を考え、生活での具体的な活用法について理由を示しながらまとめる学習活動が示されている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・実習例は、完成写真や必要なもの、作業工程と共に、工夫するポイントが示されていることで、実習が無理なく取り組めるよう工夫がされている。また、栽培の実習例では、イラストやコメントを手書き風で示すことで、観察記録の取り方の参考になるよう工夫されている。 ・「探究」の中で、仕事の内容ややりがいについて社会人にインタビューしている内容を掲載し、ものづくりの楽しさを感じ、将来へつなげられるよう工夫している。また、ガイダンスで様々な技術開発や発展の歴史について、写真を使って示すことで、技術を学習しようとする意欲を高める工夫がされている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ページ下段に、「豆知識」として日常生活に役立つ情報が掲載されている。また、「？」や「探究」を通じて、学習のまとめを行うと同時に自分の家庭生活を振り返ることができるように設定されている。 ・ガイダンスの中で、作業の安全に関する学習項目が設けられているとともに、道具類の使用で注意が必要な箇所には緑色の「安全」で示されており、注意を払いやすい工夫がされている。また、情報に関する技術においては、ネットワークの危険性・情報セキュリティ・モラル・個人情報保護・知的財産の保護で12ページ使われており、丁寧に学習できるよう配慮されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・材料と加工に関する技術では、作業工程をページ上部に示すことで、作業の流れを可視化している。また、生物育成に関する技術の実習例では、果菜類、根菜類、葉菜類、穀類の代表作物を一つ挙げ、生育状況をイラストとグラフで月別に示し、作業をする時期や期間が一目でわかるように工夫されている。 ・小単元で、「学習の目標」と「振り返り」が示されており、授業のねらいやねらいに対して自己評価が行えるように工夫されている。また、全体の最後には、3年間の振り返りが設定されており、3年間学習してきたことを踏まえて、今後へ生かすよう振り返りができるような工夫がされている。 		

技術・家庭（家庭分野）

東京書籍

教育図書

開隆堂

観点の内容 技術・家庭(家庭分野)

技術・家庭(家庭分野) 目標

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとす能力と態度を育てる。

観点 (「学ぶ力」向上にかかわるポイント)	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術についての理論や考え方の記述 習得した知識と技術を生活に活用できるよう考えさせたり工夫させたりしている箇所数 	<p>知識と技術の確実な定着を図るよう留意する。</p> <p>習得した知識と技術を豊かにすることができるよう留意する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> 実習等の結果を整理し考察することを取り上げるなど言語の能力を高める教材や学習活動 言葉や図表、概念等を用いて考えさせ、生活の工夫について話し合う活動を促している箇所数 	<p>思考力・判断力・表現力等を育むため、レポートの作成や論述といった知識・技術を活用する場面の設定に留意する。</p> <p>実践的・体験的な学習活動を通じて、様々な語彙の意味を実感を伴って理解させ、他教科等との関連も踏まえ、言語の能力を高めるよう留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> 製作、操作、調理等の実習や観察・実験、見学、調査・研究等を段階的に示している内容 学習内容が将来の自分や社会とつながっていることを示し、興味をもって自主的に取り組める工夫 	<p>実習や調査等具体的に学習することにより、学習した知識や技術が自らの生活に生かされ、獲得された力が生涯にわたって生活を主体的に営む能力の育成につながるよう留意する。</p> <p>家庭分野の内容を深めている人を取り上げたり、学んだことを生活や社会に生かす課題を与えたりすることにより、学習意欲を高めることができるよう留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の機能や地域社会とのかかわりについての理解を深める教材や学習活動 災害の例や必要な備えについて取り上げ、実生活での実践に結び付けている学習内容と実践例 	<p>自分の成長を家庭や家族を通して具体的に考えることができるようにする。家庭や家族の機能の重要性や人間関係の在り方の学習等を一層重視した指導を展開する。</p> <p>家庭生活を支えるために、自分と家庭、家庭と地域社会とのかかわりについても学習を深めるように留意する。</p> <p>様々な災害の例を知り、それに必要な備えに気付き、実践できる力をつけるよう留意する。</p>
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> 生活を見直し、課題を見付け、計画、実践、評価、改善を示し、実生活で実践する内容 「生活の課題と実践」の優れた実践例 	<p>生活者としての自覚をもち、日常生活の中から課題を見いだし、解決を目指す活動を通して学習を深めていくことに留意する。</p>

調査方法

種目名【 技術・家庭（家庭分野） 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術について理論や考え方の記述をしている箇所数を調べた。 ・習得した知識と技術を生活に活用できるよう考えさせたり工夫させたりする内容について調べた。
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・実習等の結果を整理し考察することを取り上げるなど言語の能力を高める教材・学習活動を、レポートの作成や発表方法などの場面の設定を取り入れて示している内容について調べた。 ・言葉や図表、概念等を用いて考えさせ、生活の工夫について話し合う活動を促している箇所数を調べた。
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・製作、操作、調理等の実習や観察・実験、見学、調査・研究等を段階的に示している箇所数を調べた。 ・学習内容が将来の自分や社会とつながっていることを示し、興味をもって自主的に取り組める工夫がある箇所数を調べた。
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の機能や地域社会とのかかわりについての理解を深める教材や学習活動について箇所数を調べた。 ・災害の例や必要な備えについて取り上げ、実生活での実践に結び付けている学習内容と実践例について調べた。
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を見直し、課題を見付け、計画、実践、評価、改善を示し、実生活で実践する内容について調べた。 ・「生活の課題と実践」の優れた実践例で、自主的に取り組める工夫がある箇所数を調べた。

調査結果

技術・家庭
(家庭分野)

観点	A	B	C	D	E					
	基礎的・基本的な知識・技能	思考力・判断力・表現力	学習意欲	家庭学習につながる学習	自分で課題を設定し、見直しをもって進める学習					
研究調査事項	生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術についての理論や考え方の記述	習得した知識と技術を生活に活用できるよう考えさせたり工夫させたりしている箇所数	実習等の結果を整理し考察することを取り上げるなど言語の能力を高める教材や学習活動	言葉や図表、概念等を用いて考えさせ、生活の工夫について話し合う活動を促している箇所数	製作、操作、調理等の実習や観察・実験、見学、調査・研究等を段階的に示している内容	学習内容が将来の自分や社会とつながっていることを示し、興味をもって自主的に取り組める工夫	家庭の機能や地域社会とのかかわりについての理解を深める教材や学習活動	災害の例や必要な備えについて取り上げ、実生活での実践に結び付けている学習内容と実践例	生活を見直し、課題を見付け、計画、実践、評価、改善を示し、実生活で実践する内容	「生活の課題と実践」の優れた実践例
発行者名										
東京書籍	29	○	○	10	38	14	12	○	○	6
教育図書	16	○	○	13	42	6	28	○	○	7
開隆堂	30	○	○	22	40	17	30	○	○	28

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	技術・家庭 (家庭分野)	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の習得に関する記述が多く、基本的な概念を理論的に述べた項目も多い。また、「私たちの食生活」、「私たちの衣生活と住生活」では、「基礎技能」のページを設け、簡単な実習例を載せて、生活に生かせるような工夫がされている。 ・各内容の終わりに「生活に生かそう」を設け、学んだことを生活に生かす工夫がされている。また、学習の途中にも「生活に生かそう」が数箇所あり、その都度、生活につなげて考えさせる工夫がされている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・「これからの私と家族」では、ロールプレイングの進め方、「幼児の生活と家族」では「触れ合い体験のまとめ方の例」を取り上げ、他者の意見を取り入れてまとめる工夫がされている。 ・「私たちの消費生活」のまとめでは、学んだ内容を家族や地域社会の人々に発信する方法が示され、「環境に配慮した消費生活」の導入では、家庭での取り組みを発表する場面が設定されるなど、表現力につながる工夫がされている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習例では材料の具体的な分量と一食分の配膳例と栄養バランスがわかるように写真で示されている。また、手順を段階的に示し、実習に興味をもてるような工夫がされている。 ・「プロに聞く!」「学んだことを社会に生かす」では、家庭分野の各内容を深めて働いている人たちを取り上げ、学習意欲を高められる工夫がされている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識や技術を生かして取り組みやすい課題を、「調べてみよう」に設け、家庭での実践や地域の文化施設を活用した学習につなげやすい工夫がされている。また、家族や地域の様子を観察して中学生にできることを考える課題が「実習例」や「資料」として提示され、家庭学習に結び付けやすい工夫がされている。 ・「災害に備えてできること」という実習例を設けて、防災の為に家庭でできることを家族で話し合ったり、地域の取り組みを確認したりする課題が提示され、家庭で取り組む工夫がされている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活の課題と実践」について、進め方を段階的に示し、課題の決め方では、教科書の内容と関連するような例をあげ、まとめと発表の仕方では伝え方のポイントを示し、見通しをもって学習を進める工夫がされている。 ・実践例には、プレゼンテーションソフトウェアを活用した発表やポスター、新聞の例があげられている。 		

種目名	技術・家庭 (家庭分野)	発行者名	教育図書株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の習得についての記述は簡潔である。その分、図や表が多く、イラストを取り入れ、基本的な知識及び技能を理解しやすいよう工夫されている。特に、「身近な消費生活と環境」の内容が重視されている。 ・各内容の終わりには、「学習のふり返り」があり、その中に「学習をこれからの生活に生かそう」がある。そこで、自分の生活を見直し、工夫できることを考えるように示されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「家族とのかかわり」では、身近な例をあげてロールプレイングの仕方を詳しく取り上げ、家庭生活に対応できるような工夫がされている。 ・「私たちの消費生活」ではグループで意見交流を行う活動、「家庭生活と環境」では意見交換後、ポスターにまとめ、発表を行う学習活動が多く設けられており、言語活動の充実につながる工夫がされている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の材料には、六つの基礎食品群が示され、栄養バランスを考えて調理や献立を自主的に考えることができるように工夫されている。 ・調理例の中には小学校の内容を示し、自分で復習できるようにしている。将来にわたって、家庭や地域社会で自立した生活を営む見通しをもてるように「自立度チェック」で選択や計画ができるようになっている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を始める前に、家庭で考えたり、取り組んだりしておくことで、学習理解が深まりそうな内容を「Q」において具体的な課題を提示し、予習として活用しやすい工夫がされている。また、学んだことをもとに、家族や地域の人に聞いたり、話し合ったり、調べたりしやすい設問を「調べよう」「やってみよう」において、家庭学習で活用しやすい配慮がされている。 ・地震対策や防犯対策について、家庭での備えを確認できるチェック項目が設けられ、実生活での実践に結び付けやすい工夫がされている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活の課題と実践」については、授業の計画段階で話し合ったことや実践後の結果を発表している内容を会話文で表し、次の実践へつなげる方法がわかりやすく示されている。 ・技術分野の内容とリンクした例が示され、関連して思考し、生活に生かすことができるように工夫されている。 		

種目名	技術・家庭 (家庭分野)	発行者名	開隆堂出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の習得に関する記述が多く、中でも、食生活に関する内容を多く取り上げており、食生活の自立が重視されている。 ・各内容の終わりには、「学習のまとめ」のページがあり、学習した内容を振り返り、「生活に生かそう」で、さらに知りたいと思うことや、生活を工夫することを記入できる工夫がされている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の導入やまとめの部分に「話し合ってみよう」を多く設け、身近な課題例をもとに発表し合い、言語能力を高める工夫がされている。 ・「幼児とのふれ合い」「これからのわたしと家族」では、ロールプレイングの仕方や「ふれ合い体験レポート」のまとめが取り上げられており、課題解決的な学習を通して、思考力・判断力・表現力を身に付ける工夫がされている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・補修の基礎技能やミシンの準備など、図や写真を段階的に示し、意欲的に取り組める工夫がされている。 ・プロの視点を取り入れ、「未来に向かって」では学習内容に関連する分野で職業に就いている方のメッセージを掲載し、社会への関心を高めている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをもとに、実生活や地域社会でどのように生かされているのか確認したり、詳しく調査したりできるよう、「課題」「調べてみよう」において具体的な設問を提示し、家庭学習につなげられる工夫がされている。また、「ふり返り」の欄があり、学んだことをレポートにまとめたり、点検したり、製作したりする課題を提示し、家庭生活中で実践しやすい工夫がされている。 ・災害への備えについては、具体的な地震対策を絵や写真を入れて詳しく説明し、各家庭での対策を確認しやすいよう工夫されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活の課題と実践」では、既習内容から興味・関心にそって、生活の課題を見つけ出し、「計画・実践・結果・評価」の手順にそった実践例が多くあり、取り組みやすい工夫がされている。 ・課題例と学習内容の関連が提示されており、参照し確かめながら学習を進める工夫がされている。 		

英 語

東 京 書 籍

開 隆 堂

学 校 図 書

三 省 堂

教 育 出 版

光 村 図 書

観点の内容 英語

外国語 目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

観点 （「学ぶ力」向上にかかわるポイント）	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解する学習活動 ・初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話す学習活動 ・初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解する学習活動 ・書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考え等を書くための学習活動 	<p>教科書の題材および言語材料を効果的に活用したコミュニケーション活動が設定され、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4つの技能をバランスよく育成するよう留意する。</p> <p>4つの技能に係る基礎的な言語活動は、バランスよく計画的・系統的に行うよう留意する。</p>
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること等の学習課題 ・与えられたテーマについてスピーチをすること等の学習課題 ・話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりするなど、書かれた内容や考え方などをとらえること等の学習課題 ・自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるよう、文と文のつながりなどに注意して文章を書く学習課題 	<p>言語活動の充実を通じて言語材料の定着を図るとともに、コミュニケーション能力の一層の育成を目指すよう留意する。</p> <p>聞くことや読むことを通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、話すことや書くことを通じて発信することが可能となるよう、4つの技能を総合的に育成する指導を充実するよう留意する。</p> <p>自らの考えなどを相手に伝えるための発信力やコミュニケーションの中で語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などを重視して、いることに留意する。</p>
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や日常生活などで体験したことや将来の夢など、関心や意欲を高めることができる題材や学習活動 ・外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、関心を高めることができるコラム、写真、図表等の資料の内容 	<p>外国語学習に対する関心や意欲を高め、外国語で発信しうる内容の充実を図る等の観点を踏まえ、4つの技能を総合的に育成するための学習活動を設定することに留意する。</p> <p>実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した教材での指導においては、適切な題材を、興味・関心に即して、変化をもたせて取り上げるよう留意する。</p>
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら家庭学習として取り組める課題 ・身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ち、外国語を通じて表現する学習活動 ・単元や章末のまとめなど、学習の整理に自分で取り組める内容 	<p>既習の言語材料を活用して、自ら考えて言語活動に取り組みようとする意欲がもてるよう、課題の設定の仕方を工夫するよう留意する。</p> <p>授業で学習した内容を繰り返し家庭学習で取り組み、定着を図るよう指導することに留意する。</p>
E. 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にコミュニケーションを図るために必要な能力を身に付けるため、自ら課題を設定し、構想を立て、主体的に取り組める学習課題 ・学習の見通しや学習方法を解説している内容 	<p>聞くことや読むことを通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、話すことや書くことを通じて発信することが可能となるよう、4つの技能を総合的に育成する指導を充実することに留意する。</p>

調査方法

種目名【 英語 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解する学習活動について調べた。 ・初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話す学習活動について調べた。 ・初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解する学習活動について調べた。 ・書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考え等を書くための学習活動について調べた。
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること等の学習課題の箇所数を調べた。 ・与えられたテーマについてスピーチをすること等の学習課題の箇所数を調べた。 ・話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりするなど、書かれた内容や考え方などをとらえること等の学習課題の箇所数を調べた。 ・自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるよう、文と文のつながりなどに注意して文章を書く学習課題の箇所数を調べた。
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や日常生活などで体験したことや将来の夢など、関心や意欲を高めることができる題材や学習活動について調べた。 ・外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、関心を高めることができるコラム、写真、図表等の資料の内容について調べた。
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら家庭学習として取り組める課題について、その箇所数を調べた。 ・身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちを、外国語を通じて表現する学習活動の箇所数を調べた。 ・単元や章末のまとめなど、学習の整理に自分で取り組める内容の箇所数を調べた。
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にコミュニケーションを図るために必要な能力を身に付けるため、自ら課題を設定し、構想を立て、主体的に取り組める学習課題の箇所数を調べた。 ・学習の見通しや学習方法を解説している内容とその箇所数を調べた。

観点	A				B				C		D			E		
	基礎的・基本的な知識・技能				思考力・判断力・表現力				学習意欲		家庭学習につながる学習			自分で課題を設定し、見直しをもって進める学習		
研究調査事項	初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解する学習活動	初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話す学習活動	初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解する学習活動	書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考え等を書くための学習活動	まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に関き取ること等の学習課題	与えられたテーマについてスピーチをすること等の学習課題	話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりすることの学習課題	方などをとらえること等の学習課題	自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるよう、文と文のつながりなどに注意して文章を書く課題	学校や日常生活などで体験したことや将来の夢など、関心や意欲を高めることができる題材や学習活動	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、関心を高めることができるコラム、写真、図表等の資料の内容	自ら家庭学習として取り組める課題	身近な場面における出来事や体験したことなどについて学習活動	単元や章末のまとめなど、学習の整理に自分で取り組める内容	積極的にコミュニケーションを図るために必要な能力を身に付けるため、自ら課題を設定し、構想を立て、主体的に取り組める学習課題	学習の見通しや学習方法を解説している内容
発行者名																
東京書籍	1年生	○	○	○	○	13	6	4	5	○	○	16	4	10	3	6
	2年生	○	○	○	○	13	15	32	14	○	○	9	4	6	3	3
	3年生	○	○	○	○	11	14	35	12	○	○	7	4	5	3	2
	合計					37	35	71	31			32	12	21	9	11
開隆堂	1年生	○	○	○	○	5	7	8	4	○	○	18	2	9	3	10
	2年生	○	○	○	○	10	9	13	7	○	○	5	1	6	3	8
	3年生	○	○	○	○	5	5	37	10	○	○	5	3	5	3	5
	合計					20	21	58	21			28	6	20	9	23
学校図書	1年生	○	○	○	○	5	12	13	9	○	○	16	4	9	5	12
	2年生	○	○	○	○	6	9	48	9	○	○	11	4	11	5	20
	3年生	○	○	○	○	8	13	41	15	○	○	8	3	11	5	14
	合計					19	34	102	33			35	11	31	15	46
三省堂	1年生	○	○	○	○	9	15	11	5	○	○	5	4	9	3	4
	2年生	○	○	○	○	9	13	22	10	○	○	6	3	10	3	15
	3年生	○	○	○	○	9	13	24	7	○	○	5	3	8	3	11
	合計					18	41	57	22			16	10	27	9	30
教育出版	1年生	○	○	○	○	5	7	5	4	○	○	9	3	7	3	6
	2年生	○	○	○	○	3	4	7	4	○	○	3	2	7	3	6
	3年生	○	○	○	○	1	10	33	6	○	○	3	2	3	2	7
	合計					9	21	45	14			15	7	17	8	19
光村図書	1年生	○	○	○	○	4	3	9	6	○	○	14	5	7	3	2
	2年生	○	○	○	○	11	6	29	10	○	○	10	4	7	3	4
	3年生	○	○	○	○	2	6	45	8	○	○	7	3	3	3	3
	合計					17	15	83	24			31	12	17	9	9

※○印は、研究調査事項にかかる内容が取り扱われていることを示している。
 その中で、顕著な特長が認められる場合は、別紙「選定のための調査のまとめ」に表記した。

種目名	英語	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 全体を、「Unit」で習得し、「Daily Scene」で活用し、そして「Presentation」で発信する3部構成としており、系統的に繰り返し学習することにより、英語の基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けることができるよう工夫されている。 「Unit」の基本文に対応する練習問題を、同じ見開きの基本練習と技能別練習で取り扱い、さらに「Unit」末の練習問題の「Activity」や「まとめと練習」で扱うことにより、文法を確実に定着できるよう工夫されている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> 4技能統合型の学習課題である「Presentation」を各学期末に配置し、「Hop」、「Step」、「Jump」、「Challenge」の手順で段階的に既習事項を振り返りながら、スピーチ原稿の作成や口頭発表を通じて、思考力や表現力が身に付くよう工夫されている。 「Activity」では、習得した知識・技能を活用し、自分の言葉で情報を発信するための表現力が身に付くよう工夫されている。ペアで話し合ったり、自分の意見を書いたりできるよう、本文、練習問題ともに、題材の取り上げ方について配慮されている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> 言語の使用場面を明確にしたコミュニケーション活動に取り組む「Daily Scene」が設けられている。自分の生活に関わる日常的な事柄について、英語を使って情報を発信する活動を通じて、意欲をもって学習に取り組めるよう工夫されている。 紙面スペースを有効に活用して、「一言メモ」や「コラム」を入れ、本文の内容の理解やコミュニケーション活動に役立つ情報が説明されており、学習に対する意欲を喚起するよう工夫されている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> 本文中の文法事項と関連した書くことに関わる学習課題が設けられており、既習事項の理解と定着を促すことをねらい、家庭学習で取り組めるよう配慮されている。 理解を深めるための文法のポイントが、単元末の「まとめと練習」で整理されており、また、「やってみよう」では自ら復習し、学習内容の定着を図り、そして自分の理解が確認できるよう工夫されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> 「Presentation」で、日本文化や自分の町などの身近な題材を取り上げ、既習事項を活用しながら、「Hop」、「Step」、「Jump」、「Challenge」の手順で、自分で課題を設定し、見通しをもって主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。 「学び方コーナー」で、辞書の使い方やパラグラフを意識した書き方など、英語を意欲的、主体的に学習するための方法やコツが説明されており、授業や家庭学習において活用できるよう配慮されている。 		

種目名	英語	発行者名	開隆堂出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本文の学習に先立ち、冒頭で、基本文型や文法事項を、コミュニケーション活動を通じて習得できるよう、文法構造による提示ではなく対話文で提示している。また、文型・文法事項を知識にとどめておくのではなく、実際に使える形で学べるよう工夫されている。 4つの技能の総合的な育成を図るために、見開き2ページの中に聞く、話す、読む、書く4つの技能を育成するための教材を配置し、何を学び、何ができるようになるのかが明示されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「presentation」(提示)、「practice」(練習)、「production」(成果)の順に教材を配置し、学習の流れがわかるよう学ぶプロセスが明示された紙面構成となっており、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。 「My Project」で、スピーチ原稿を作成するにあたり、マッピングの仕方や構成の仕方が説明されたり、情報を整理しながら原稿にする手順が示されたりして、課題に取り組む中で思考力・判断力・表現力を伸ばせるよう工夫されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てるために、到達目標の1つとして「My Project」が各学年に3つずつ設けられている。学習する目的と見通しを把握することができ、目標に向けて意欲的に取り組めるよう工夫されている。 題材を国内と諸外国に幅広く求め、より広い視野と公正な観点を養うとともに、環境保全や勤労の尊さ、平和や人権の大切さ等に気付けるよう工夫されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各本文のページ末に設けてある音読練習のための積み木型のチェック欄や、基本文を繰り返し書いて練習をする学習課題の「Write」など、家庭学習として自ら取り組むことができる課題が設けられている。 章末の「英語のしくみ」で、学習した文法事項のまとめと練習ができるようになっており、理解度と定着度を自分でチェックできるよう工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 到達目標の一つとして、各学年に3つの「My Project」が設けられており、それぞれの学習課題では、個々に具体的な到達目標を設定し、構想を立て、スピーチを中心とした技能の総合的活用が図れるよう工夫されている。学習した事項を振り返り、確かめながら学習を進めることで、確実に目標が達成できるよう工夫されている。 各学年とも、「My Project」や「POWER-UP Listening/Speaking/Reading/Writing」で、練習方法や学習の進め方について解説されている箇所が設けられている。 		

種目名	英語	発行者名	学校図書株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
A 基礎的・基本的な知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・目標文を習得するために、聞く、話す、書く活動で構成されている「Activities」が設けられている。特にリスニング活動が充実しており、多くの言語活動を通して、基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けられるよう配慮されている。 ・第1学年の第1課の最初に、小学校外国語活動で慣れ親しんできた一般動詞を使った表現を導入することで「教科としての英語」に円滑に接続できるよう配慮されており、言語材料の配列が工夫されている。 		
B 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・「Lesson」のまとめの「Review」で、語順の並べ替え問題や、Q&A形式の「Writing」活動に取り組むことで、習得した言語材料を復習し、定着を図ることができるよう工夫されている。 ・学習成果のまとめとして、章末プロジェクトが設けられている。目標文や重要表現などを使って自己表現し、スピーチや会話を行う内容となっており、それぞれのテーマについて、聞いたり、話したりする段階を踏んで、原稿を完成させることができるよう工夫されている。 		
C 学習意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・各章において、習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用して表現する力を身に付けることをねらいとした「Project」のページが設けられており、自分の思いや意見等を述べる活動に意欲的に取り組めるよう工夫されている。 ・国際社会を見据え、異文化理解や共感を深める写真や資料が多く掲載されており、英語圏文化以外に関するものや、実際に触れられる点字資料など、興味をひく題材が選ばれている。 		
D 家庭学習につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各セクション末の「Writing」や単元末の「Review」で、学習内容を定着させるための練習問題があり、家庭学習に活用できるよう配慮されている。 ・各章末の「Check It Out」は、視覚に訴え、見やすくわかりやすくなるよう工夫がされており、自ら既習の重要事項を復習できるよう配慮されている。 		
E 自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各章末にまとめの学習課題として設定された「Project」が設けられており、「Step1」「Step2」と段階を踏んで、聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする活動を経て、課題が完成できるよう工夫されている。また、各学年とも、巻末に総まとめの表現活動が「Book Project」として設けられている。 ・各学年とも、本課の中の「Tips」において、英語でコミュニケーションをする上で役に立つ情報が解説されており、活用しやすいよう配慮されている。 		

種目名	英語	発行者名	株式会社 三省堂
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各課は、「とびら」、「GET」、「USE」、「文法のまとめ」の4つのパートで構成され、学びのプロセスが見やすくなるよう工夫されている。「GET」では、聞く・話す・書くことを繰り返し練習することで基礎を習得し、「USE」では、読む・話す・書く活動を通して基礎的な力を活用できるよう配慮されている。 基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得し、段階的にそれらの知識や技能を実生活で活用できる力を伸ばせるよう、日常生活に関連した題材を扱い、繰り返し練習できる構成になっている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「Let's Listen」や「Project」で、ニュースやアナウンスなど、身近な生活場面において英語を聞き取る活動が設けられており、概要や要点を聞き取る活動から、内容を要約する活動へと、段階を追って学習できるよう工夫されている。 「Let's Talk」では、ペアでやりとりする会話型、「Project」では、スピーチのように聴衆に話す発表型の2種類の話す活動が設けられている。自己紹介や自分の将来の夢についての発表などの自己表現、クラスリサーチのプレゼンテーション、即興会話など、思考力、判断力、表現力の育成に有効な学習課題が設けられている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「Practice」、「USE Speak」、「USE Write」、「Project」、「Let's Talk」で、ペアやグループなどの形態を重視し、協力し合って意欲的に活動に取り組めるよう工夫されている。 「とびら」や「For Self-study」で、教科書の使い方、学ぶ目標、学ぶプロセス、学ぶポイントなどがわかりやすく提示され、学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶ力が育成されるよう配慮されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「For Self-study」で、辞書の引き方や単語の覚え方など、英語の学習の仕方に関するヒントを提示し、自律的な学習が促せるよう工夫されている。 各課末の「文法のまとめ」で、既習の文法事項を整理することができ、家庭学習で言語材料の振り返りができるよう工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも、3つずつ「Project」が設けられており、既習の言語材料の知識や言語活動の技能を活用しながら、統合的に取り組めるよう工夫されている。「Listen」、「Speak」、「Read」、「Write」の4つの技能に加え、「Think」の学習課題を設け、構想を立てながら取り組めるよう構成されている。 各学年とも、「Tips for Speaking/Reading/Writing/Communication」で、コラム形式で学習方法に関するヒントが技能別に示され、活用しやすいよう配慮されている。 		

種目名	英語	発行者名	教育出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各課を「Hop」、「Step」、「Jump」の3つのパートに分け、「Hop」で各「Part」の基本文を短い本文と、聞く、話す、書く「Activity」を通して定着していく構成になっており、語彙を充実するための置き換え練習として、「Tool Kit」を使った活動が設けられている。 「Time for Words」で、ある場面やジャンルでまとめた語句を、平易な活動を通して習得していくよう工夫されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「Writing Tips」、「Reading Tips」、「Listening Tips」、「Conversation Tips」で、それぞれの技能についての力を伸ばすためのアドバイスやコツが明示されており、段階的に英語を習得することを通して、思考力・判断力・表現力が養えるよう工夫されている。 各学年2～3つの「Project」が設けられており、既習の内容や活動をふまえ、身につけた基礎的・基本的な知識や技能を使って、文章にまとめ、それを発表する発展的な活動が配置されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことから学校・社会・世界へと広がる様々な話題・題材を、活動と関連させて提示し、英語に対する興味・関心を深め、学習に取り組めるよう工夫されている。 「Task」や「Project」で、「将来の夢」や「新聞記事を書く」など、身近な題材が扱われており、興味を引くよう工夫されている。また、授業での学習内容をもとに、社会的活動に関心をもつことにつながる学習課題が設けられている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な単語や表現などの習得を目指すための「Time for Words」が設けられ、単語の定着を図るための課題として家庭学習に活用できるよう工夫されている。 各課末の「英語のしくみ」で、学習した内容のポイントがまとめられており、家庭学習で復習する際に理解の助けとなるよう工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「Project」で、Can-Do形式の目標が明示されている。既習の基礎的・基本的な知識や技能を、異なる文脈や場面で統合的に活用することができるよう学習課題が設けられている。 「Tips」で、文章を少しでも長く書くコツや、速く読まれる英文を聞き取るコツなどが紹介されており、見通しをもって技能を身につけられるよう工夫されている。 		

種目名	英語	発行者名	光村図書出版株式会社
観点	選定のための調査のまとめ		
<p>A</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各「Unit」は、本文と「Try it!」で構成されている。段階的に基礎的・基本的な知識や技能を習得しながら活用の練習をすることで、「Unit」の到達目標が達成できるよう工夫されている。「Language Focus」は、既習事項のまとめと練習で構成され、繰り返し基本的知識の確認ができるよう配慮されている。 対話文だけでなく、メールやインターネット等、実際の言語の使用場面を設定し、自然な英語の使い方に触れ、楽しみながら学習できるよう工夫されている。 		
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「Unit」ごとに「You Can Do It!」や、発展的な活動として「Go for It!」が設けられている。紹介文や意見文、メールなど、さまざまなタイプの英文を書く活動が設けられており、思考力・判断力・表現力が育成できるよう工夫されている。 内容をより深く理解するための書く活動「Read」や、読んだり、書いたり、聞いたりするときのポイントなどがまとめられている「Your Coach」で、発展的な表現力を身に付けるのに役立つよう工夫されている。 		
<p>C</p> <p>学習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「You Can Do It!」や「Go for It!」で、自分のことや身近な人のことなどについて紹介する学習課題が設けられており、扱われている場面や題材は、対話文・メール・手紙・インターネット（ブログ等）・スピーチ・新聞記事など多岐に渡り、関心もてるよう工夫されている。 「Word Square」は、イラストが豊富に使われており、自己表現活動に役立つ内容となっている。本文では、さまざまな国の人物やトピックを題材として取り上げ、多様な文化に触れられるよう配慮されている。 		
<p>D</p> <p>家庭学習につながる学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1年生では、随所に「Word Network」が設けられており、基礎的な単語がわかりやすくまとめてあり、単語の定着のための家庭学習として活用できるよう工夫されている。 各章末の「Language Focus」で、既習の文法・文構造のまとめと練習問題が設定されており、家庭での復習と学習内容の定着に活用できるよう工夫されている。 		
<p>E</p> <p>自分で課題を設定し、見通しをもって進める学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元で学んだ4つの技能の力を、「Go for It!」でバランスよく発展的に整理することができ、単元、学期、学年、3年間のステップで、到達目標を意識しながら計画的に学習を進めることができるよう配慮されている。 「Your Coach」で、英語を主体的に学習できるよう、親しみやすいイラストや図を用いて紹介し、学習方法と目的が意識できるよう配慮されている。 		